岐阜県文化財保護センター調査報告書　第80集

藤田坂遺跡

2003

財団法人　岐阜県文化財保護センター

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第80集

藤田坂遺跡

２００３

財団法人　岐阜県文化財保護センター

序

可児市は、清らかな可児川が街を西流し、木曽川に注ぐ地域です。木曽川沿いには野市場（今渡）の川湊があり、古くから物資の集散地として栄えてきました。また、河岸段丘や平坦地が発達し、数多くの文化財や遺跡の存在が知られています。藤田坂遺跡もそのひとつで、木曽川によって形成された中位河岸段丘上の見晴らしのよい場所に立地しています。

このたび、一般国道248号線可児バイパス道路改良工事にともない、可児市下恵土に所在する藤田坂遺跡の発掘調査を実施しました。

『可児町史』によると、かつてこの地で有舌尖頭器が採集されており、縄文時代の遺跡として知られていましたが、今回の調査によって、弥生時代中期後半の竪穴住居跡や掘立柱建物跡があることがわかりました。特に、竪穴住居跡の1軒は、住居の規模、形態のほか、炉、柱穴、周壁溝などの住居内の諸施設が確認できる良好なもので、当時の生活様相や集落形態をうかがい知ることができる貴重な資料となりました。

本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めると共に、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び出土品の整理・報告書作成にあたりまして、多大な御支援・御協力をいただいた関係諸機関並びに関係者各位、可児市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申しあげます。

平成15年3月

財団法人 岐阜県文化財保護センター
理事長　服　部　卓　郎

例　言

1　本書は、岐阜県可児市下恵土に所在する藤田坂遺跡（岐阜県遺跡番号21214－07495）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、一般国道248号可児バイパス道路改良に伴うもので、岐阜県基盤整備部可茂建設事務所から岐阜県教育委員会が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、財団法人岐阜県文化財保護センターが実施した。

3　発掘調査は平成13年度に、整理作業は平成14年度に実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当などは、本書第1章第2節に一括掲載した。

5　本書の執筆及び編集は、第5章を除いて三島誠がおこなった。

6　発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削・空中写真測量などの業務は、（株）岐阜テクノスに委託して行った。

7　遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。

8　自然科学分析（蛍光X線分析・放射性炭素年代測定）については、（株）パレオ・ラボに委託して行った。その結果は、第7章に掲載した。

9　発掘調査及び報告書の作成にあたって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略、五十音順）

石黒立人　五十川伸矢　井藤徹　伊藤正人　齊藤基生　島田崇正　長屋幸二　西村勝広
吉田英敏　可児市教育委員会

10　本文中の方位は、国土座標第Ⅶ系の座標北を示している。

11　土層及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄1998『新版　標準土色帳』（日本色研事業株式会社）による。

12　調査記録及び出土品は、財団法人岐阜県文化財保護センターで保管している。

本 文 目 次

序
例言
目次
第1章　調査の経緯 …… 1
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　発掘調査の経過と方法 …… 5
第2章　遺跡の立地と環境 …… 9
　第1節　遺跡周辺の立地・環境 …… 9
　第2節　周辺の遺跡 …… 9
第3章　基本層序と遺構・遺物の概要 …… 11
　第1節　基本層序 …… 11
　第2節　遺構・遺物の概要 …… 11
第4章　藤田坂遺跡の遺構と遺物 …… 15
　第1節　第1調査面の遺構 …… 15
　第2節　第2調査面の遺構と遺物 …… 15
　第3節　溝・トレンチ・包含層出土の遺物 …… 40
第5章　自然科学分析 …… 47
　第1節　藤田坂遺跡の自然遺物 …… 47
　第2節　竪穴住居跡1出土炭化材の年代測定 …… 47
　第3節　竪穴住居跡1出土の弥生土器の蛍光X線分析について …… 49
第6章　まとめ …… 51
参考文献 …… 58
写真図版

挿 図 目 次

図1　藤田坂遺跡位置図 …… 1
図2　試掘確認調査位置図 …… 2
図3　調査前現況地形図 …… 3
図4　藤田坂遺跡地区設定図 …… 5
図5　調査区内トレンチ設定図 …… 6
図6　周辺の遺跡位置図 …… 10
図7　調査区南壁土層図 …… 11
図8　主な遺構の位置図 …… 14
図9　掘立柱建物跡5 …… 16
図10　竪穴住居跡1（古） …… 17
図11　竪穴住居跡1（新） …… 18
図12　竪穴住居跡1の弥生土器出土状況
（竪穴住居跡1内炉） …… 19
図13　竪穴住居跡1の柱穴・炉 …… 20
図14　竪穴住居跡2・竪穴住居跡3 …… 22
図15　掘立柱建物跡1 …… 23
図16　掘立柱建物跡2 …… 24
図17　掘立柱建物跡3 …… 25
図18　掘立柱建物跡4 …… 26
図19　掘立柱建物跡6 …… 27
図20　掘立柱建物跡7 …… 28
図21　掘立柱建物跡8 …… 29
図22　柵1・柵2 …… 30
図23　柵3（図上）・柵4（図中）・柵5（図下）
…… 31
図24　土坑① …… 32
図25　土坑② …… 33
図26　土坑③ …… 34
図27　出土遺物（1）弥生土器① …… 41
図28　出土遺物（2）弥生土器② …… 42
図29　出土遺物（3）弥生土器③ …… 43
図30　出土遺物（4）石器① …… 43
図31　出土遺物（5）石器② …… 44
図32　竪穴住居跡1出土の弥生土器 …… 49
図33　竪穴住居跡1出土弥生土器外面付着物
の蛍光X線スペクトル図 …… 50
図34　竪穴住居跡1出土弥生土器内面付着物
の蛍光X線スペクトル図 …… 50
図35　弥生土器組成図 …… 52
図36　石器器種別の割合図 …… 52
図37　竪穴住居跡1出土の弥生土器組成図
…… 52
図38　竪穴住居跡1出土の石器器種別の割合図
…… 52
図39　弥生土器の出土分布図1 …… 53
図40　弥生土器の出土分布図2 …… 54
図41　弥生時代石器の出土分布図 …… 55
図42　遺構の方位軸の傾向 …… 56

表 目 次

表 1　第 1 回試掘確認調査 …… 4
表 2　第 2 回試掘確認調査 …… 4
表 3　第 3 回試掘確認調査 …… 4
表 4　第 4 回試掘確認調査 …… 4
表 5　周辺の遺跡一覧表 …… 10
表 6　層位別遺構一覧表 …… 12
表 7　土器類出土点数表 …… 13
表 8　石器類出土点数表 …… 13
表 9　個体別出土土器一覧表 …… 13
表10　石器出土一覧表 …… 13
表11　竪穴住居跡の属性一覧表 …… 35
表12　掘立柱建物跡・柵の属性一覧表 …… 35
表13　各土坑の属性一覧表① …… 35
表14　各土坑の属性一覧表② …… 36
表15　各土坑の属性一覧表③ …… 37
表16　各土坑の属性一覧表④ …… 38
表17　各土坑の属性一覧表⑤ …… 39
表18　各土坑の属性一覧表⑥ …… 40
表19　弥生土器観察表 …… 45
表20　石器観察表 …… 46
表21　放射性炭素年代測定および
　　暦年代較正の結果 …… 48

写真図版

図版 1　1　藤田坂遺跡遠景（北から）、2　藤田坂遺跡全景（西から）
図版 2　1　竪穴住居跡 1、2　竪穴住居跡 1 内遺物出土状況、3　竪穴住居跡 1 内炉、
　　4　堀立柱建物跡 5、5　竪穴住居跡 2・3
図版 3　1　堀立柱建物跡 1、2　堀立柱建物跡 2、3　堀立柱建物跡 3、4　堀立柱建物跡 4、
　　5　弥生土器①細頸壺（1～5）、6　弥生土器②細頸壺（1～5）口縁部拡大
図版 4　1　弥生土器③細頸壺（6）、2　弥生土器④甕
図版 5　1　弥生土器⑤、2　弥生土器⑥
図版 6　1　石器①、2　石器②

挿図写真図版

写真 1　第 4 トレンチ溝完掘状況
写真 2　第 4 トレンチ溝の遠景
写真 3　調査前近景
写真 4　発掘調査作業風景 1
写真 5　発掘調査作業風景 2
写真 6　現地説明会の様子
写真 7　口縁部外面
写真 8　口縁部内面

付図　藤田坂遺跡遺構配置図

第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

藤田坂遺跡は、岐阜県可児市下恵土字北林泉地内に所在する。木曽川が形成する中位河岸段丘平坦面に位置する。

岐阜県基盤整備部建設管理局可茂建設事務所では、一般国道可児バイパス248号道路改良工事を計画した。この改良工事に先立って、平成10年８月に岐阜県基盤整備部可茂建設事務所から岐阜県教育委員会に工事計画等が示されたことから、道路建設区域内に周知の埋蔵文化財包蔵地として『改訂版岐阜県遺跡地図』（岐阜県教育委員会1990）に登録されている藤田坂遺跡が所在することが確認した。

岐阜県文化財保護センターでは、岐阜県教育委員会から委託を受け、遺跡の広がりと遺構面数、深度等を確認するために計４回の試掘確認調査を実施した（表１～表４）。

１回目の試掘確認調査は、平成10年８月17・18日に実施した（表１）。試掘対象面積4,100m²に対し、幅１mのトレンチを３本（第１・第２・第３）を設定し、計178m²を掘削した。土坑・ピット・溝状遺構を数十基確認したが、いずれも、耕作土からの掘り込みであった。また、遺物包含層は認められず、遺物は出土しなかったため、本発掘調査対象外とした。

２回目は平成12年３月15・16日に実施した（表２）。１回目の試掘調査区から約150m北側の地点[1]

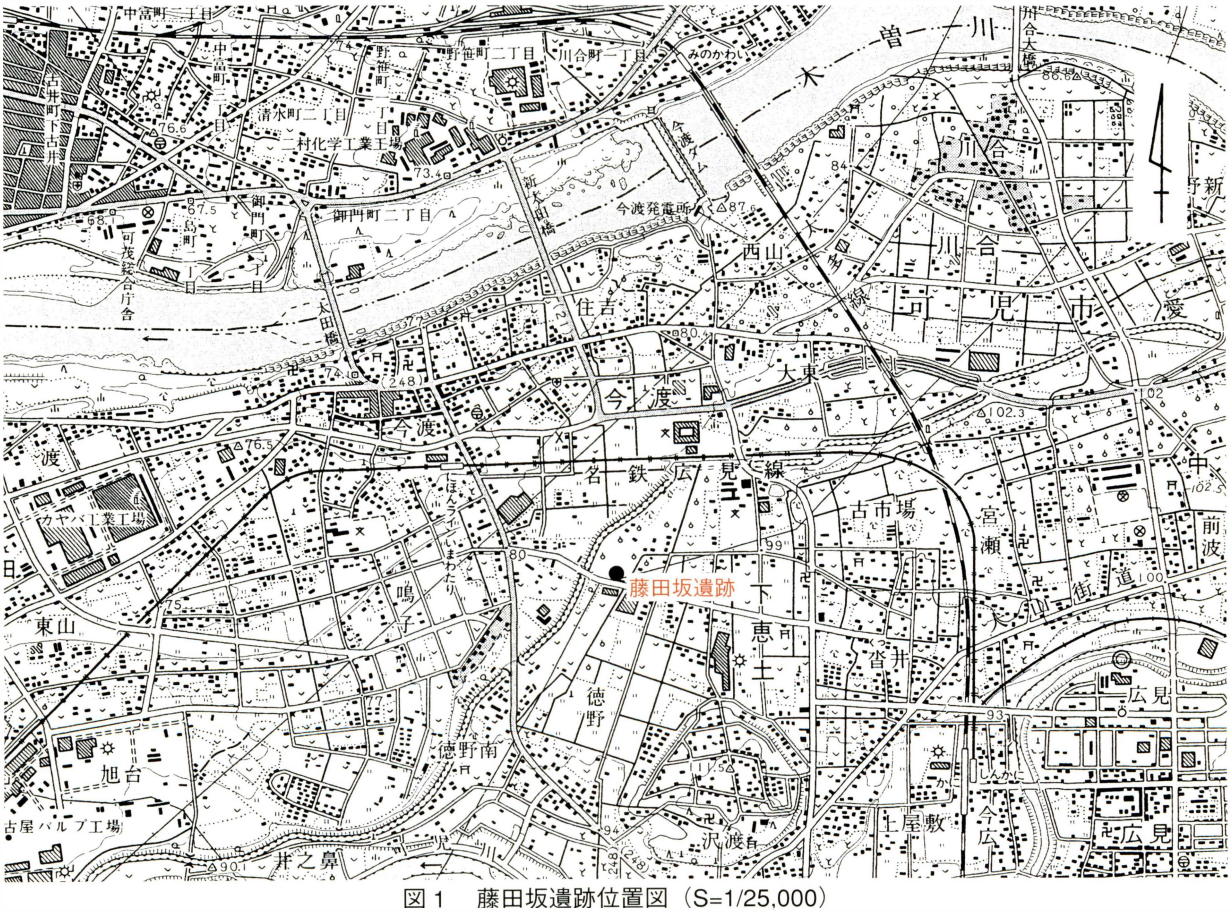


図１　藤田坂遺跡位置図（S=1/25,000）

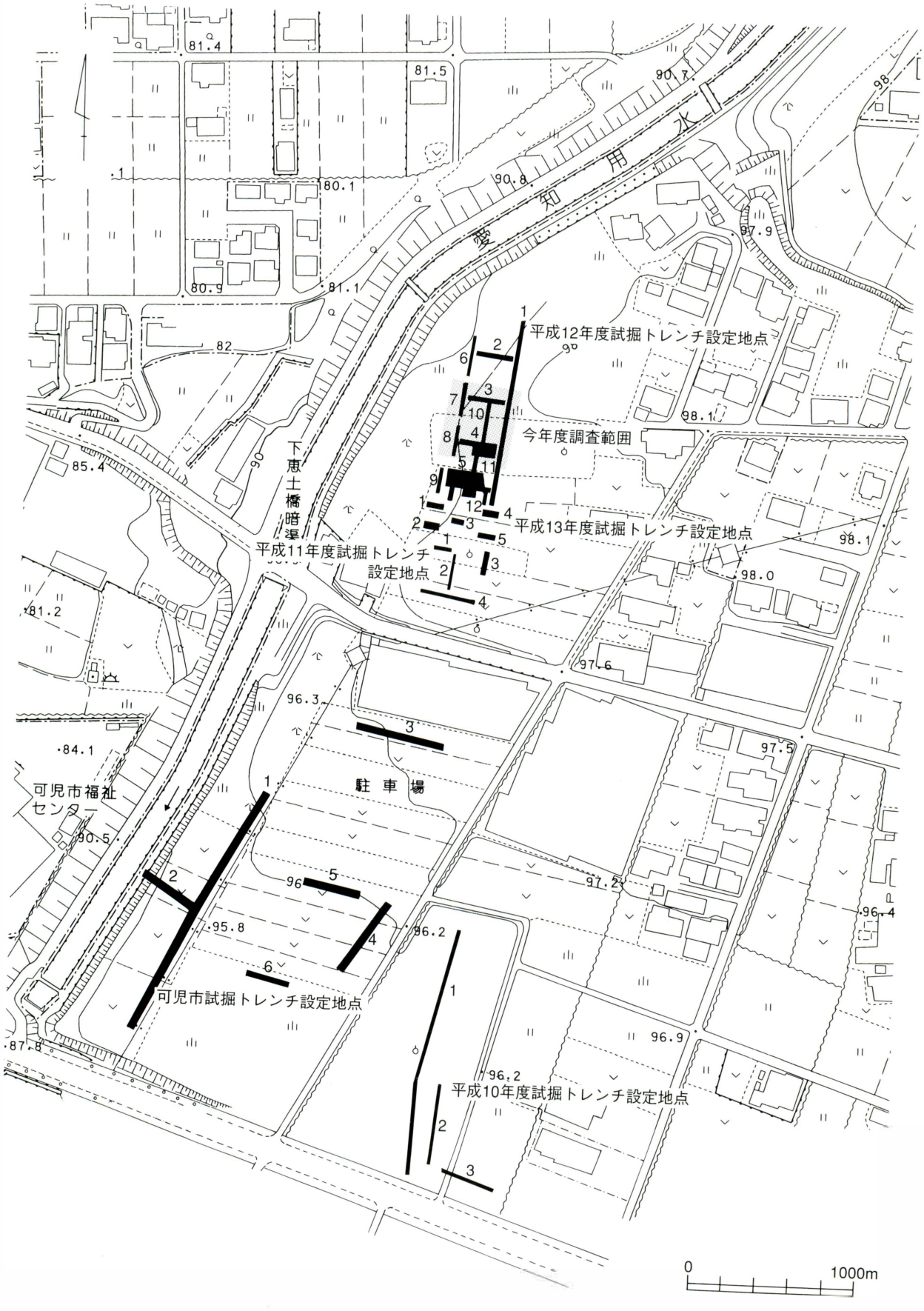


図２　試掘確認調査位置図（第１回から第４回）（S=1/2,500）

で、付近の畑から縄文時代草創期の有舌尖頭器が表採されている（『可児町史』1980）。このことから、縄文時代の遺構・遺物が出土することも考慮し、試掘を行った。試掘対象面積1,200m²に対し、幅1mのトレンチを3本設定し、計60m²を掘削した。土坑・ピット・溝状土坑が数十基確認されたが、いずれも、耕作土からの掘り込みであったため、本発掘調査対象外とした。

3回目は平成12年11月20日～22日に実施した（表3）。2回目の試掘調査区北側の未買収地を挟んだ部分で試掘対象面積3,960m²に対し、幅1mのトレンチを13本設定（トレンチ4、トレンチ5は遺構の性格をつかむために、部分的に拡張）し、計440m²を掘削した。その結果、弥生時代の遺構（竪穴住居跡・土坑・溝状遺構）と遺物（弥生土器・石器）を確認した。

これらの結果を踏まえて、平成12年度岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会が開催され、本発掘調査1,100m²が必要であると判断された。また、未買収地であった部分は本発掘調査前に試掘確認調査を行うこととした。

以上の結果から、財団法人岐阜県文化財保護センターが岐阜県教育委員会から委託を受け、平成13年6月4日から藤田坂遺跡の発掘調査を実施した。なお、4回目の試掘確認調査は平成13年4月20日～25日に実施した（表4）。3回目の試掘区の南側部分で試掘対象面積346m²に対し、幅2mのトレンチを5本設定し、計40m²を掘削した。結果、土坑・溝を確認したが、遺物は出土しなかった。また、遺構埋土中にビニール片が入ることから現代の遺構とし、本発掘調査対象外とした。

1）1回目と2回目の試掘確認調査の間の部分（図2のほぼ中央）は、可児市教育委員会が試掘確認調査を実施している（吉田2000）。この結果、遺構・遺物が確認できなかったため、本発掘調査対象外となった。

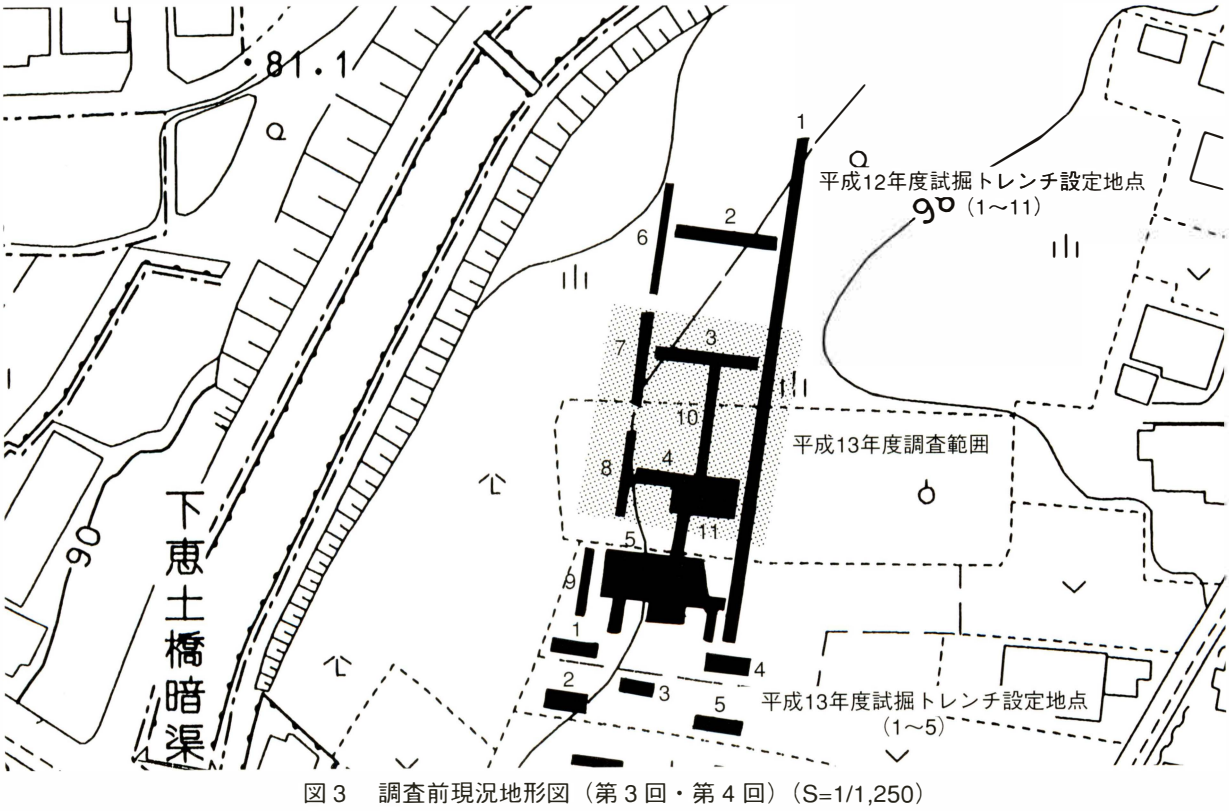


図3　調査前現況地形図（第3回・第4回）（S=1/1,250）

表1　第1回試掘確認調査（平成10年度）

試掘番号＼層位	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅴ層	遺物の有無	遺構の有無
No.1	○（30）	—	—	○	不明	無	有（Ⅰ層中の掘込）
No.2	○（30）	—	—	○	不明	無	有（Ⅰ層中の掘込）
No.3	○（30）	—	—	○	不明	無	有（Ⅰ層中の掘込）

表2　第2回試掘確認調査（平成11年度）

試掘番号＼層位	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅴ層	遺物の有無	遺構の有無
No.1	○（30）	—	○（10）	○（30）	○	有（Ⅰ層：近現代陶磁器1）	有（Ⅰ層中の掘込）
No.2	○（25）	—	○（20）	○（40）	○	有（Ⅰ層：中世陶器1）	有（Ⅰ層中の掘込）
No.3	○（25）	—	○（10）	○（30）	不明	無	有（Ⅰ層中の掘込）
No.4	○（10）	○（10）	○（10）	○（25）	○	有（Ⅰ層：山茶碗2）	有（Ⅰ層中の掘込）

表3　第3回試掘確認調査（平成12年度）

試掘番号＼層位	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅴ層	遺物の有無	遺構の有無
No.1南	○（20）	○（15）	○（5）	○	不明	無	有（Ⅳ層上面：土坑2）
No.1北	○（25）	○（20）	○（12）	○（10）	不明	無	無
No.2	○（20）	○（15）	○（10）	○（2）	○	無	無
No.3	○（30）	○（5）	○（10）	○	不明	無	無
No.4	○（33）	○（10）	○（5）	不明	不明	有（溝埋土：弥生土器）	有（Ⅳ層上面：溝1、土坑1、住居跡床面か1）
No.5	○（20）	○（8）	○（8）	○	不明	有（竪穴住居跡埋土：弥生土器）	有（Ⅳ層上面：竪穴住居跡1、溝1、土坑3）
No.6	○（40）	—	○（5）	○（5）	○	無	無
No.7	○（40）	—	—	○（35）	不明	無	無
No.8	○（18）	○（10）	○（12）	○（20）	○	無	有（Ⅳ層上面：土坑1）
No.9	○（20）	○（10）	—	○（15）	不明	無	有（Ⅳ層上面：土坑2）
No.10	○	○	○	—	○	無	有（Ⅳ層上面：土坑4）
No.11	○	○	○	—	○	無	有（Ⅳ層上面：土坑6）
No.12	○	○	○	○	○	無	有（Ⅳ層上面：土坑2）
No.13	○	○	○	○	○	無	有（Ⅳ層上面：土坑1）

表4　第4回試掘確認調査（平成13年度）

試掘番号＼層位	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅴ層	遺物の有無	遺構の有無
No.1	○（8）	○（3）	○（2）	○（48）	○	無	有（Ⅳ層上面：溝）
No.2	○（5）	○（5）	○（3）	○（40）	○	有（現代陶磁器1）	有（Ⅲ層上面：溝3、Ⅳ層上面：土坑5）
No.3	○（16）	—	○（10）	○（30）	○	無	有（Ⅲ層上面：土坑3、Ⅳ層上面：土坑4）
No.4	○（20）	—	—	○（40）	○	無	有（Ⅳ層上面：溝1、土坑1）
No.5	○（15）	—	—	○（25）	○	無	有（Ⅳ層上面：溝1、土坑3）

各層位の数字はトレンチごとの平均の層厚（cm）を示す。

第２節　発掘調査の経過と方法

1　調査期間

平成13年５月25日～平成13年８月31日

2　グリッド設定方法

調査開始前に行った地形測量終了後、国土座標の北を基準として4m×4mのグリッドを設定した（図４）。グリッドの名称は、北西端を基準とし、北から南に向かってＡ～Ｊ、西から東に向かって１～７とした。

3　調査の経過

平成13年５月25日に委託業者によって、調査区1,100m²の現況地形測量を行った。発掘調査では、先ず試掘確認調査の層位を基にⅠ層からⅤ層までを設定し（第３章第１節に詳述）、弥生時代以降の包含層の可能性があるⅢ層の上面まで重機を用いて除去した。調査区内には、栗や桑の伐採木の根が多く見られたため、伐根作業は遺構を傷つけないように人力で行った。その後、国土座標をもとに4ｍメッシュでグリットを設定した。以下Ⅲ層から下層は人力で掘削した。包含層は10cmを目安に徐々に掘り下げた。

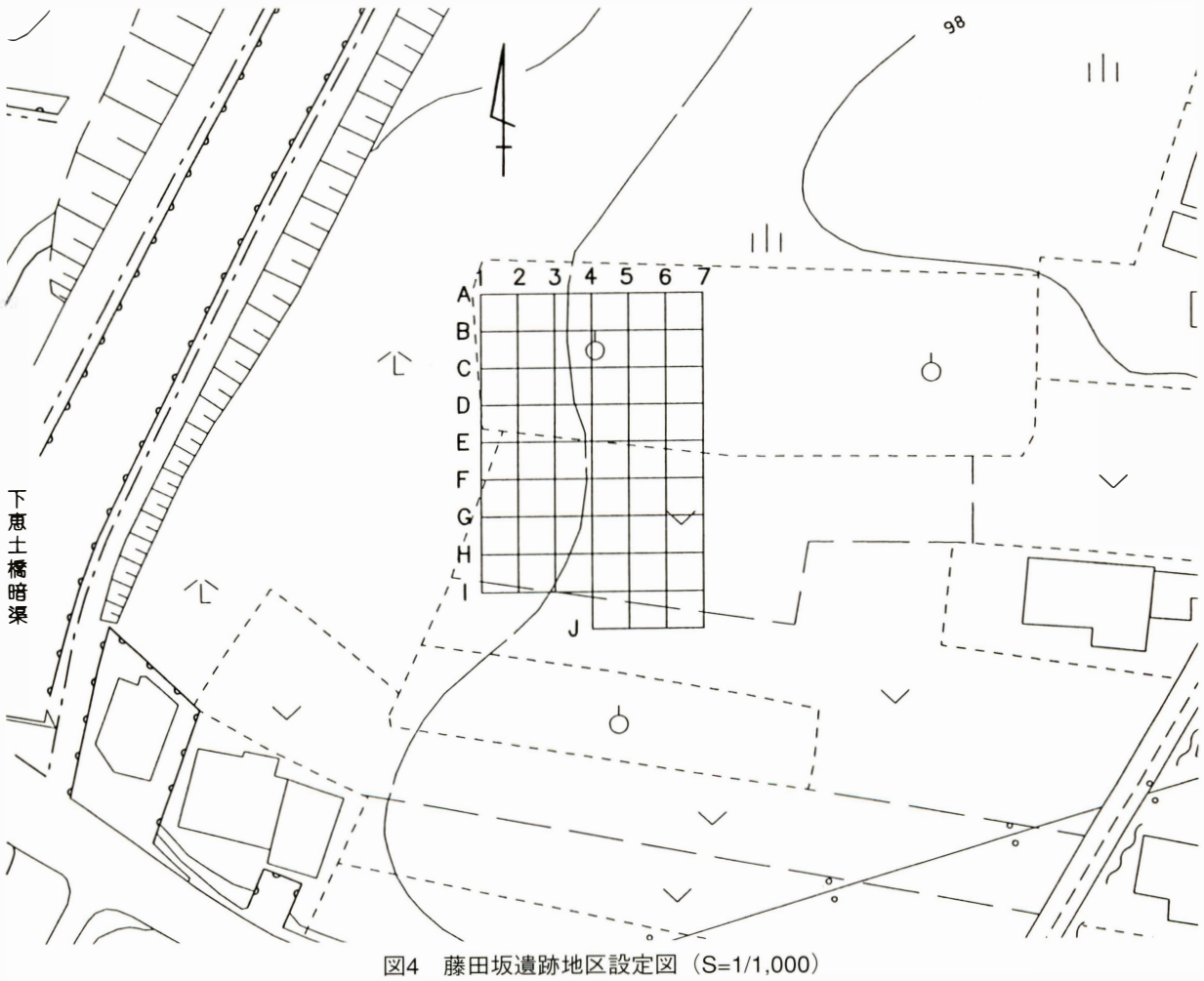


図4　藤田坂遺跡地区設定図（S=1/1,000）

遺物は、試掘確認調査の結果から少ないことが予想されたため、トータルステーションにより1点ずつ出土位置を判定して取り上げた。遺物が集中している部分は、写真測量を行い、1/10で図化した。遺構はすべて半割し、土層を確認し、土層断面図を作成した。その後、遺構を完掘し、完掘状況の実測と写真による記録を行った。竪穴住居跡は、最後に断ち割り、下部遺構の有無の確認を行った。最後に、Ⅳ層以下の遺構・遺物の有無を確認するためのトレンチ調査（2m×2mを9カ所）を実施した（図5）。調査では、遺構・遺物とも確認できなかったため、トレンチを拡張せず、発掘調査を終了

図5　調査区内トレンチ設定図（S=1/500）

した。

なお、第3回試掘確認調査時で検出したトレンチ4・トレンチ5の溝状遺構は、本調査によって調査区を直線的に横切ることを確認した。この溝は、埋土中に現代瓦片やビニール片が入ることや現在の地境とほぼ重なることから、現代の溝と判断した。

写真1　第4トレンチ溝完掘状況

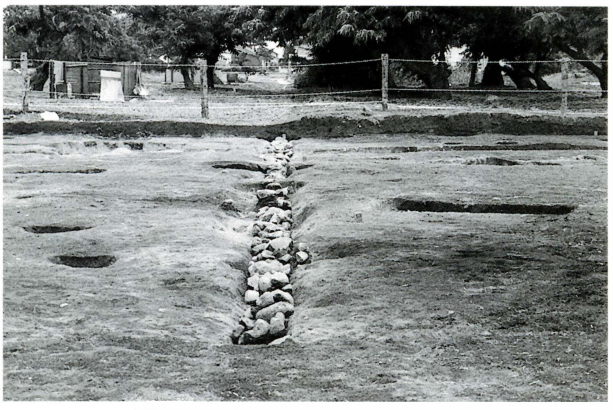


写真2　第4トレンチ溝の遠景

以下、発掘調査日誌から抜粋して、調査経過を記述する。

調査日誌抄

平成13年度

5月25日　地形測量実施。調査区までの仮設道、調査区の防護柵設置。基準点測量。

5月28日　重機による表土掘削開始。

6月1日　重機による表土掘削終了。調査区画設定、ベルトコンベア設置。

6月4日　調査開始。調査区を東区・西区に分け、東区南側から包含層掘削、遺構検出、遺構掘削を開始。

7月3日　東区遺構掘削終了。

7月4日　竪穴住居跡1を検出。掘削。

7月5日　竪穴住居跡1で弥生土器がまとまって出土。上面の遺物出土状況図の写真測量を実施。

7月6日　西区の包含層掘削、遺構検出、遺構掘削開始。

7月19日　竪穴住居跡1の上面の弥生土器を取り上げたあと、下面の遺物出土状況図の写真測量を実施。

7月30日　遺構掘削ほぼ終了。

8月3日　空中写真測量実施。

8月4日　現地公開開催。

8月9日　遺構面より5cmほど掘り下げ、再度遺構精査開始。調査区北側で竪穴住居跡2、竪穴住居跡3検出。

8月10日　掘立柱建物跡の確認。エレベーション図の作成。

8月24日　遺構実測作業終了。

8月31日　発掘調査終了。機材搬出。

4　遺跡・遺物公開

平成13年8月4日に現地公開を開催し、54名の参加を得た。

5　遺物・調査記録の整理作業

平成14年度に出土遺物・調査記録の整理作業を行った。作業の基本的な流れは次のとおりである。

遺物の洗浄→土器の硬化剤処理→遺物の注記→土器の接合→遺物の実測・観察表の作成→
遺構・遺物実測図の製図→遺物の写真撮影→図版作成→遺物・調査記録の収納・保管

なお、本報告書本文の執筆は、上記の作業と並行して行った。

6　発掘調査及び整理作業の体制は以下のとおりである。

	平成13年度	平成14年度
理事長	服部　卓郎	服部　卓郎
専務理事兼事務局長	成戸　宏二	成戸　宏二
常務理事兼経営部長	福田　安昭	福田　安昭
経営部次長兼経営課長	福田　照行	福田　照行
調査部長	武藤　貞昭	武藤　貞昭
調査次長	片桐　隆彦	片桐　隆彦
担当調査課長	柘植　卓伸	高木　徳彦
担当調査員	三島　誠	三島　誠
整理作業従事者	岩田のり子、春日井典子、高田桂子、広瀬みどり	

写真3　調査前近景

写真4　発掘調査作業風景1

写真5　発掘調査作業風景2

写真6　現地説明会の様子

第2章　遺跡の立地と環境

第1節　遺跡周辺の立地・環境

可児市は美濃三河高原と濃尾平野の境に位置している。平坦でなだらかな丘陵地と木曽川や可児川によって形成された河岸段丘で構成される。市の北側は木曽川と可児川に挟まれ、ここには新生代第四紀に木曽川によって開析された三段の河岸段丘が形成される。本遺跡は、この河岸段丘の中段にあたる下恵土段丘上（標高80～100m）の北側端部に位置する。本遺跡の南側は、一段高い禅台寺山段丘（標高約120m）、が広がる。北側は一段低い今渡・土田段丘（標高70～90m）が眼下に広がり、また、木曽川が一望できる見晴らしの良い場所に立地する。地質的に見ると、遺跡は中位の段丘堆積物とそれを被覆する木曽川泥流層（約5万年前に堆積）上に形成される（美濃加茂市教育委員会1994）。周辺の土地利用は、段丘の縁にあたる調査区の東と北の方向は主に竹林が占める。段丘平坦面が広がる南側と東側は、伊勢湾台風（昭和34年）以後の土地改良により、区画されている。主に畑地や果樹園として利用されている。本遺跡も調査前は、北西の一部に竹林が占める以外は主に栗畑や桑畑が広がっていた。

第2節　周辺の遺跡

本遺跡の周辺には、中位段丘と低位段丘を中心に遺跡が点在している（図6・表2）。ここでは、発掘調査によって内容が明らかになったものを中心に時代順に概略を述べる。

旧石器時代の遺跡は、川合遺跡（2）がある。ナイフ形石器、彫器等の旧石器が出土している。

縄文時代の遺跡は、北裏遺跡（5）・宮之脇遺跡（3）・欠ノ上遺跡（4）がある。北裏遺跡は縄文時代早期から晩期までの縄文土器が出土し、晩期の合口甕棺9基などの遺構を検出している。宮ノ脇遺跡は縄文時代中期の竪穴住居跡1軒を検出している。

弥生時代の遺跡は、北裏遺跡・宮之脇遺跡・欠ノ上遺跡・神崎山遺跡・猿塚遺跡などが確認されている。神崎山遺跡は弥生時代後期の墳墓とされており、少なくとも10m以上の盛土が構築された可能性が指摘されている。本遺跡から南へ約1kmの地点にある徳野遺跡（28）では、縄文時代の竪穴住居跡1基のほか、弥生時代中期の竪穴住居跡2軒、弥生時代末期～古墳時代前期にかけての竪穴住居跡5軒などを検出している。

古墳時代の遺跡は、古墳が主で、数基から数百基で群をなして分布している。東大寺1号墳では、粘土槨の主体部から仿製鏡片や銅鏃などが出土している。その他に欠ノ上遺跡・顔戸南遺跡では、古墳時代の集落跡が見つかっており、この時代の人々の生活の様子も明らかになってきた。

中世以降は、今渡の金屋遺跡（15）付近で鋳物師が室町末期から戦国時代にかけて活動していたことが知られ、ここで鋳造された梵鐘が東濃一円と飛騨・三河・木曽に渡っている。金屋遺跡から南へ約100mの地点に位置する今渡遺跡（14）では、中世の火葬墓29基、土坑墓57基を確認し、中世の埋葬方法の一端を伺うことができる。

図6　周辺の遺跡位置図（S=1/25,000）

表５　周辺の遺跡一覧表

(1)　藤田坂遺跡（弥生）	(20)　藤之井遺跡（弥生）
(2)　川合遺跡（縄文から近世）	(21)　土田東山遺跡（縄文）
(3)　宮之脇（旧石器から近世）	(22)　鳴子西遺跡（縄文）
(4)　欠之上遺跡（縄文から中世）	(23)　土田北割田遺跡（古墳）
(5)　北裏遺跡（縄文から鎌倉）	(24)　北割田十三塚古墳（古墳）
(6)　西野遺跡（古墳）	(25)　井之鼻遺跡（縄文）
(7)　土田袖浦遺跡（縄文）	(26)　鳴子東遺跡（縄文）
(8)　八幡古墳群（古墳）	(27)　徳野陣屋跡（江戸）
(9)　土田定安遺跡（古墳）	(28)　徳野遺跡（縄文から鎌倉）
(10)　今渡船場の跡（江戸）	(29)　上野古墳（古墳）
(11)　今渡島畑古墳（古墳）	(30)　上野遺跡（縄文）
(12)　土田東山２号古墳（古墳）	(31)　大森皿屋敷横穴4号古墳（古墳）
(13)　土田東山（古墳）	(32)　平田石見守墓（江戸）
(14)　今渡遺跡（縄文から室町）	(33)　禅台寺山遺跡（古墳）
(15)　今渡金屋遺跡（近世）	(34)　上屋敷遺跡（縄文）
(16)　清水経塚（中世）	(35)　尾崎遺跡
(17)　山神古墳（古墳）	(36)　野笹遺跡
(18)　宿遺跡（縄文）	(37)　牧野小山遺跡
(19)　土田栄町遺跡（縄文）	

第3章　基本層序と遺構・遺物の概要

第1節　基本層序

藤田坂遺跡は、木曽川によって形成された中位段丘面に位置しており、比較的安定した堆積状況を示している（図7）。しかし、調査区の北側は重機による削平を受けているため、Ⅱ層・Ⅲ層の堆積の薄い部分が認められた。また、試掘確認調査の結果が示すように、南側はⅡ層・Ⅲ層の堆積が概して薄い傾向にある。

基本層序は、試掘確認調査の結果をもとにⅠ層からⅤ層を設定した。なお、遺構はⅡ層上面、Ⅳ層上面で確認し、それぞれ第1調査面、第2調査面とした。以下、基本層序のⅠ層から順に説明を行う。

Ⅰ層：暗褐色粘質シルト層。表土層。調査前は栗畑や桑畑として利用されていたので、一部に腐葉土が混じる部分がある。部分的にしまりがない。やや粘性があり、ほとんど礫を含まない。

Ⅱ層：黒褐色粘質シルト層。厚さは10～15cm程度。中世以降の遺構として検出したものは、この層の上面から掘り込まれていた。ややしまりがある。粘性があり、ほとんど礫を含まない。

Ⅲ層：鈍い黄褐色シルト層・弥生時代の遺物包含層。ややしまりがある。粘性があり、ほとんど礫を含まない。

Ⅳ層：明黄褐色粘質シルト層。弥生時代の遺構として検出したものは、この層の上面から掘り込まれていた。しまりがある。Ⅲ層より粘性が強く、ほとんど礫を含まない。

Ⅴ層：黄褐色礫層。木曽川泥流層。なお、この層の上面の標高は約96.400mである。

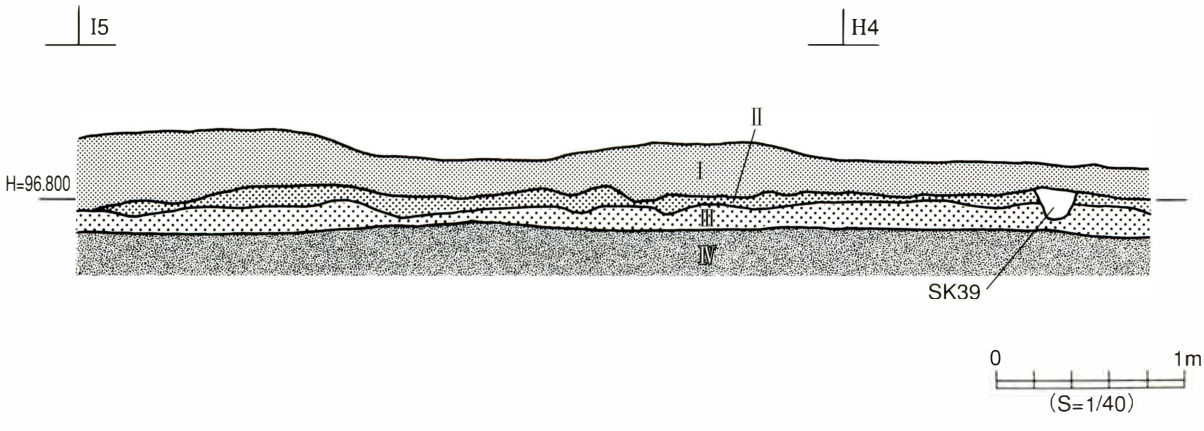


図7　調査区南壁土層図

第2節　遺構・遺物の概要

1　遺構の概要

調査は、第1調査面・第2調査面の2回に分けて行った。検出した遺構は、竪穴住居跡以外すべて土坑である。土坑の大半は上端の直径が1m以内であったので、調査時では、1m以上のものを含

めて「ＳＫ」の略号に通し番号をつけた。計447基（SK1～SK447）の土坑を確認した。このうち、攪乱や倒木痕と思われる穴は登録を取り消し、欠番とした。さらに土坑が直線上に並ぶものや柱痕状の堆積状況を確認できるものを整理し、掘立柱建物跡・柵を認定した。

この結果、以下のとおりとなる（表6）。

第1調査面で直線状に並ぶ土坑を5基確認した。この土坑の北側に第2遺構面ではあるが、軸を合わせて等間隔に並ぶ土坑を確認した。第1調査面の遺構が、堀立柱建物跡の柱穴列の一部と判断できたため、堀立建物跡1軒を第1調査面の遺構とした。この面の遺構は、遺物を伴わない。SK399の上面で、山茶碗（大畑大洞4号窯期）1点が出土したため、中世の遺構と考えたが、後述（第6章）するように、遺構の長軸が弥生時代のものと合うことから、弥生時代に遡る可能性もある。

第2調査面では、竪穴住居跡3軒、堀立柱建物跡7棟、柵5条、土坑342基を確認した。調査面の出土遺物から、弥生時代中期後半の遺構と思われる。

表6　層位別遺構一覧表

遺構調査面	時期	時代区分	土器型式	土器編年への対応	竪穴住居跡	掘立柱建物跡	柵	土坑	合計
Ⅱ層上面	Ⅰ期	弥生時代中期後半	高蔵式	美濃Ⅳ－2様式	0	1（10）	0	0	1
Ⅳ層上面	Ⅱ期	中世以降		大畑大洞4号窯式	3（9）	7（66）	5（21）	243	258
合計					3	8	5	243	259

※（　）内は遺構に伴う土坑数を示す。
※上記表中の年代は、研究者によって見解が異なる。目安として参照されたい。

3　遺物の概要

出土した遺物は、山茶碗1点を除き、他はすべて弥生時代のもので弥生土器1001点、石器32点が出土した（表7・表8）。そのほとんどが竪穴住居跡1出土の遺物である（表9・表10）。土器の内訳は、細頸壺・壺類・甕（条痕ハケ目）、浅鉢である。石器の内訳は、打製石斧・粗製石器・小型剥片石器・敲石・磨石・石製品・連続的な剥離を施す剥片（以下「ＲＦ」とする）・微細な剥離痕を残す剥片（以下「ＵＦ」とする）・剥片・石核である。以上の遺物の個々の分類や年代観は、既存の分類や編年に従った（藤田・高木2002蔭山・石黒1998）。また、土器類の出土量は、1cm以上を破片を対象に個体識別を行ったうえで破片数や個体数を表にした（表10）。石器は、すべての遺物を対象に器種別点数を表にした（表11）。なお、土器観察表には、胎土・調整・色調・文様等を掲載しているため、文章中での重複は極力避け、器形・時期等を判断する指標を載せた。同様に石器観察表には、石材・質量・長さ・幅・厚さを掲載しているため、剥片石器は調整剥離の特徴、礫石器は礫の形状や使用痕の有無及びその部位を記載した。

表７　土器類出土点数表

弥生土器	細頸壺	壺	甕(条痕)	甕(ハケ目)	浅鉢	不明	合計
破片数	595	42	28	14	15	307	1001
%	59.4%	4.2%	2.8%	1.4%	1.5%	30.7%	100%

表８　石器類出土点数表

石器	打製石斧	粗製石器	小型剥片石器	敲石	磨石	石製品	RF	UF	剥片	石核	合計
点数	3	1	1	1	3	3	3	2	14	1	32
%	9.4%	3.1%	3.1%	3.1%	9.4%	9.4%	9.4%	6.3%	43.8%	3.1%	100%

表９　個体別出土土器一覧表

器種	個体番号	遺構							現代溝・倒木痕					包含層	小計	合計
		竪穴住居跡１						掘立柱建物跡２	溝1	溝２	溝５	倒木痕１	倒木痕２	Ⅳ層一括		
		SK343	SK346	SK348	SK354	SK356	埋土	SK222								
細頸壺	1		1		31		215		2			1			250	
	2				69		37								106	
	4				28		78								106	
	5				52	1	32								85	
	6						33								33	
	8						9								9	
	13												4		4	
	15													2	2	595
壺	7						37		5						42	42
甕(条痕)	3						21					1		1	23	
	11												5		5	28
甕(ハケ目)	10									1	4		4		9	
	16											5			5	14
浅鉢	9						7				8				15	15
不明	12												9		9	
	14											3			3	
	17											5			5	
	不明	6	1	1	42		195	1	12	2	5	7	5	13	290	307
		6	2	1	222	1	664	1	19	3	17	22	27	16	1001	

※溝１・溝２・溝５は、ビニール片や現代瓦が入ることから現代の溝とした。

表10　石器出土一覧表

器種	遺構							現代溝・倒木痕				包含層	合計
	竪穴住居跡１内の土坑						土坑	溝１	溝３	倒木痕１	倒木痕２	Ⅳ層一括	
	SK345	SK347	SK349	SK367	SK379	埋土	SK103						
打製石斧		1										2	3
粗製石器						1							1
小型剥片石器												1	1
敲石						1							1
磨石						2					1		3
石製品						3							3
RF				1		1						1	3
UF						1						1	2
剥片	1		1		1	5	1	1		2		2	14
石核												1	1
	1	1	1	1	1	14	1	1	0	2	1	8	32

※　溝１・３はビニール片が入ることから、現代の溝とした。

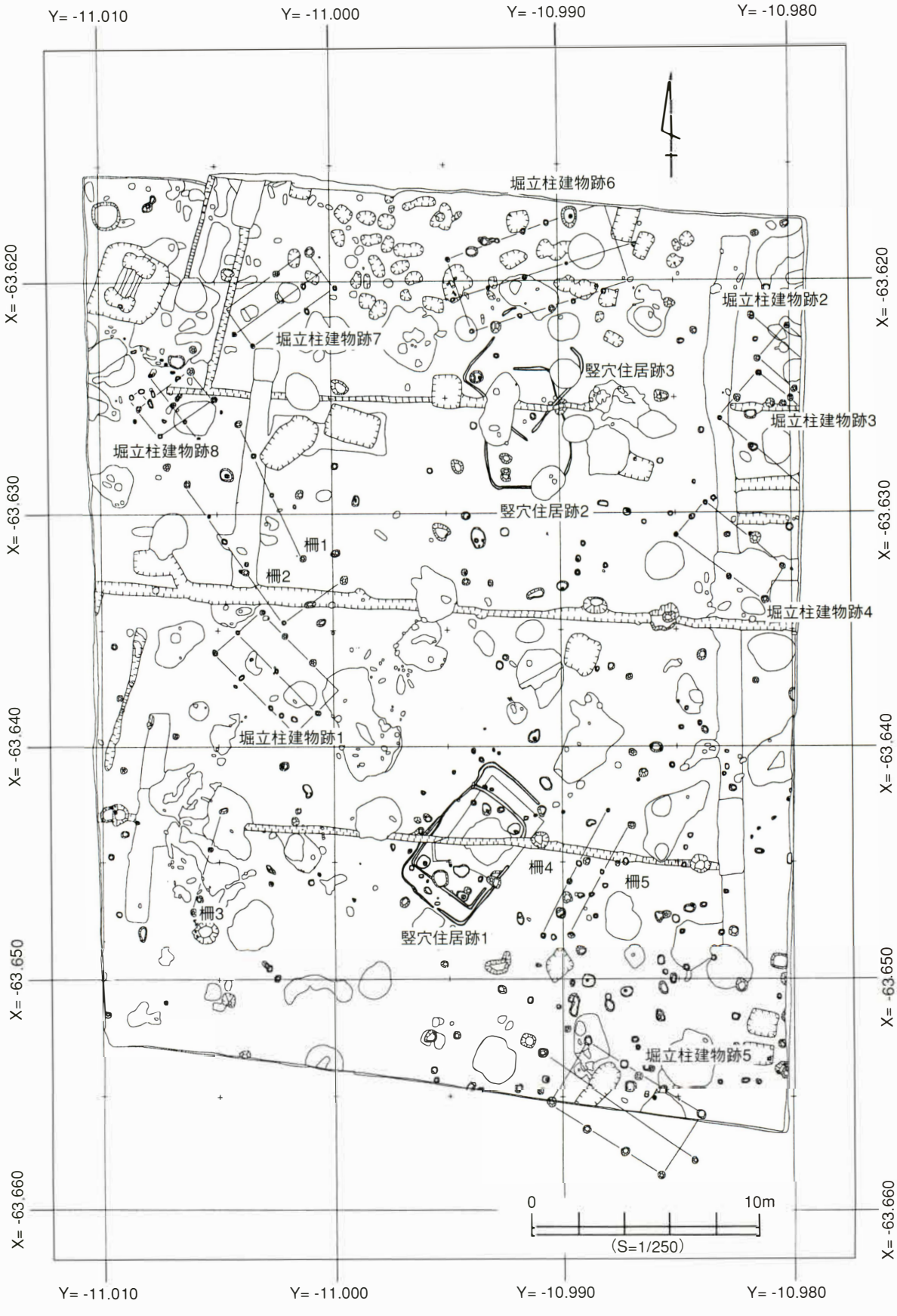

Y= -11.010
Y= -11.000
Y= -10.990
Y= -10.980
X= -63.620
X= -63.630
X= -63.640
X= -63.650
X= -63.660
堀立柱建物跡6
堀立柱建物跡2
堀立柱建物跡7
竪穴住居跡3
堀立柱建物跡3
堀立柱建物跡8
竪穴住居跡2
柵1
柵2
堀立柱建物跡4
堀立柱建物跡1
柵4
柵5
柵3
竪穴住居跡1
堀立柱建物跡5
0
10m
(S=1/250)

図8　主な遺構の位置図

第4章　藤田坂遺跡の遺構と遺物

第1節　第1調査面の遺構

掘立柱建物跡5（図9、図版2）

調査区南側で検出した。遺構の南側は調査区外であったが、SK179・SK22・SK443・SK6に平行する土坑列が予想されたため、南側を拡張し、SK396～SK399を検出した。いずれも弥生時代の土坑と比較すると規模・深さとも大きく、底面も平坦となる。遺物は認められなかったため、帰属時期は不明である。

第2節　第2調査面の遺構と遺物

1　竪穴住居跡

（1）竪穴住居跡1（図10・11、図版2）

①調査経過

調査区南側で検出した。住居の炉跡・柱穴跡・周壁溝が長軸を揃えて大小二軒分（竪穴住居跡1（新）・竪穴住居跡1（古）とする）を検出した。小さな住居跡：竪穴住居跡1（古）の周壁溝が、大きな住居跡：竪穴住居跡1（新）の周壁溝・炉穴に切られる。この2つの住居跡は、長軸を合わせて広げていることから、拡張したものと思われる。竪穴住居跡1（古）は、長軸4.28m、短軸3.42mで、平面形が長方形を呈する。住居の内側は、周壁溝に沿って焼土が堆積していることから、焼失家屋と思われる。柱穴配置からSK337・SK375・SK357・SK347を柱穴とした。柱痕跡は確認出来なかった。いずれの遺構も径が小さく深い。炉は住居の北西で検出した（SK372）。覆土は焼土・炭化物を多く含んでいた。竪穴住居跡1（新）は、長軸6.58m、短軸3.98mで、平面形が長方形を呈する。柱穴配置からSK358・SK358・SK357・SK346を柱穴とした。このうち、柱痕跡を確認できたのは、SK359・SK357である。いずれの遺構も、径が小さいが深い。炉は住居の北西で検出した（SK357）。

②出土遺物

弥生土器・石器（下呂石製剥片・石製品・打製石斧・粗製石器）が出土した。

弥生土器（図27 1～6、図28 7～21、図29 33）

1～5は接合しなかったが、胎土・調整・焼成の特徴や復元した径が同一のため、同一個体とした（個体番号1）。細頸壺で、口縁端部は片口状になる。胴部はそろばん玉形に張り出し、底部には脚台がつく。文様は、口縁部に凹線文を4条巡らし、その直下に、櫛描羽状文を施す。頸部は簾状文、胴部は櫛描直線文、波状文を施す。6は口縁部・頸部がないが、細頸壺と思われる（個体番号2）。胴部に櫛描直線文・羽状文を施す。調整は胴部内外面とも、指ナデ後、ハケ調整を行う。7は条痕系深鉢（個体番号3）である。全体に焼成後と思われる変形が観察できる。口唇部は片口状で、斜位の条痕、口縁部から胴部上半は横位の条痕、胴部下半は、羽状に条痕を施す。口縁内面は櫛描列点文を施す。この部分には、白色物質が発泡した状態で付着する。8は細頸壺の胴部資料で上半に櫛描直線

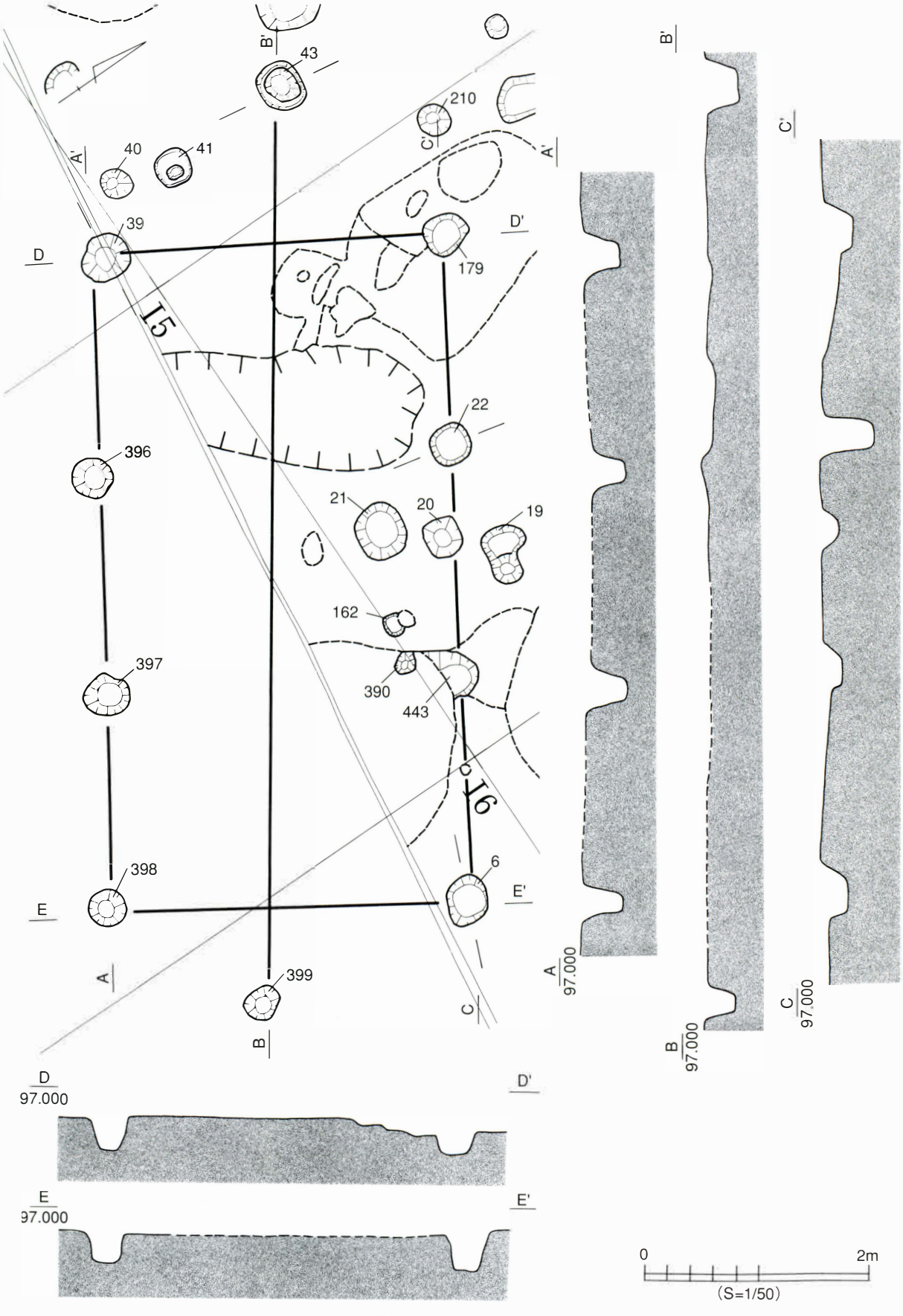

B'
43
210
C'
A'
40
41
39
D
D'
179
I5
22
396
21
20
19
162
397
390
443
I6
6
398
E
E'
A
399
C
B
D
97.000
D'
E
97.000
E'
B'
C'
A
97.000
B
97.000
C
97.000
0
2m
(S=1/50)

図9　掘立柱建物跡 5

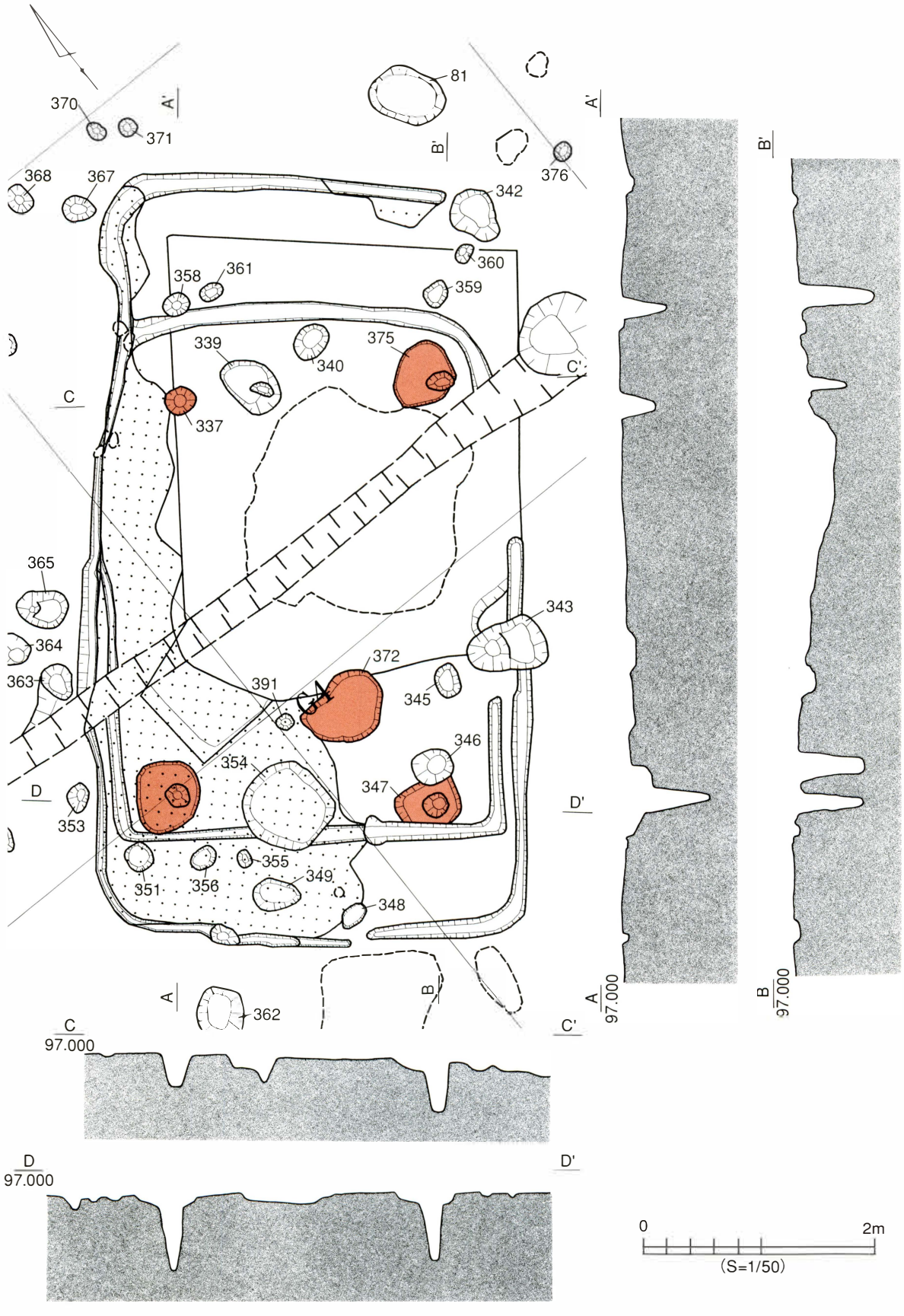

81
370
371
376
368
367
342
360
358
361
359
339
340
375
337
365
343
364
372
363
391
345
346
354
347
353
355
349
351
356
348
362
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
97.000
0
2m
(S=1/50)

図10　竪穴住居跡 1（古）

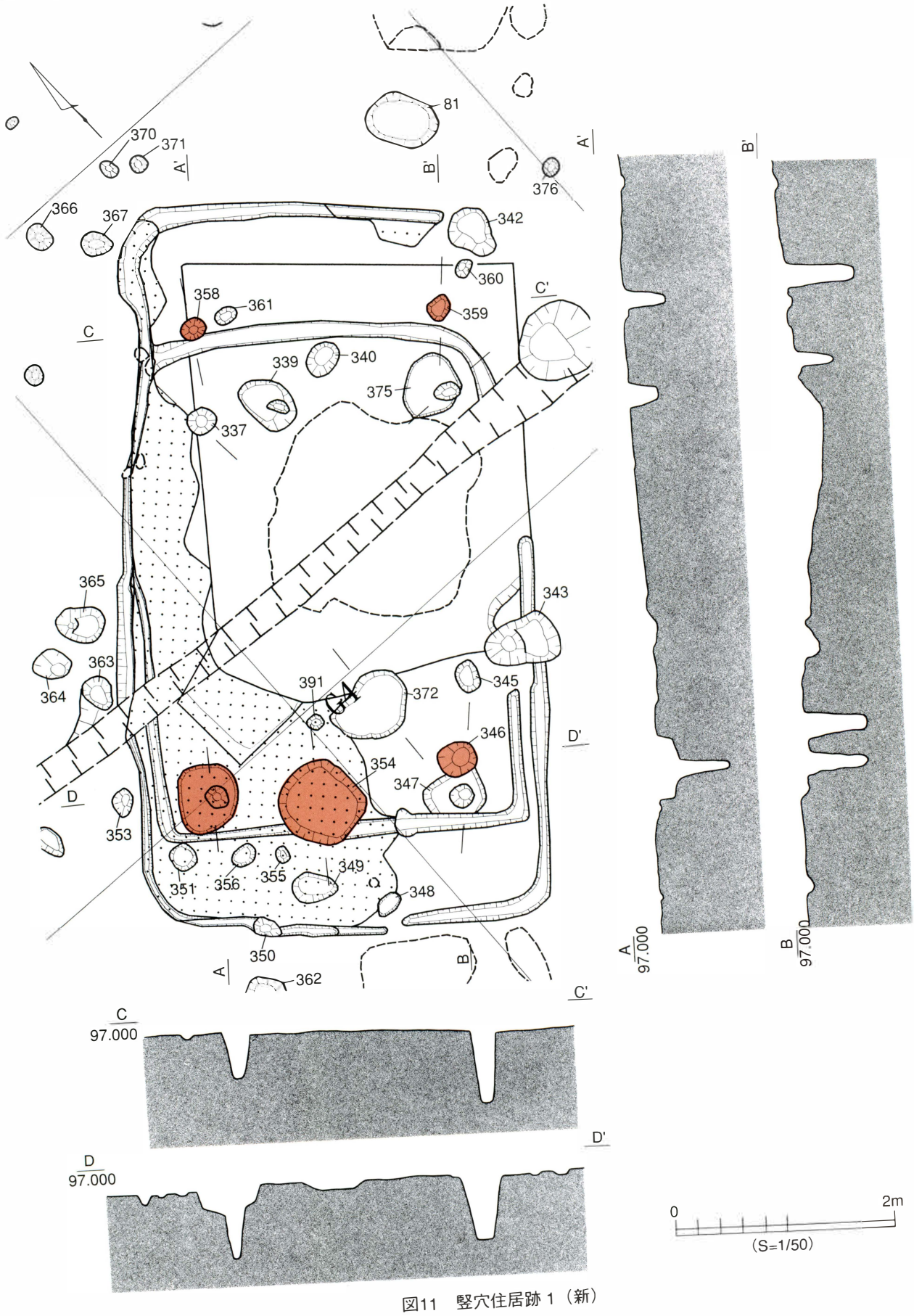

81
370
371
376
366
367
342
360
358
361
359
339
340
375
337
365
343
363
364
391
372
345
346
354
347
353
349
351
356
355
348
350
362
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
A
97.000
B
97.000
C
97.000
D
97.000
0
2m
(S=1/50)

図11　竪穴住居跡1（新）

文、波状文（5本単位）を施す。9は台付甕の脚部である。10は甕で口唇端を刻む。11・12は壺の胴部上半部分の破片で羽条の櫛描文を施す。13・14は細頸壺である。胎土・調整・器厚が類似することから同一個体と思われる。13は凹線文を4条巡らしたあとに、その直下に斜めに櫛描直線文を施す。14は縦ハケ調整後、横線を描く。15・16は器形・文様から高坏か浅鉢で胎土・調整・器厚から同一個体と思われる。15は凹線文を5条、16は扇形文を施す。17は細頸壺の胴部上半で縦方向のハケ目調整後、櫛描直線文を7本描く。18は細頸壺の胴部上半で縦方向のハケ目調整後、櫛描直線文・波状文を描く。19は器種不明の口縁部片である。20は甕の口縁で内外面とも横方向のハケ目調整を行う。端部は刻む。21は叩き痕の残る甕の胴部片である。33は炉跡（SK354）で出土した細頸壺の胴部上半資料である。櫛描波状文・直線文を描く。

石器（図30 41～44、図31 45～49）

41は下呂石製の剥片で、背面に原礫面を大きく残す。42・43は石製品である。いずれも凝灰質シルト岩製である。42はさいころ状に平面を3面もつ。43は平面部分に断面三角形の溝が1条走る。45は打製の粗製石器である。形態的には打製石斧と類似するが、上辺と側辺に直線状の刃部を形成する。49は叩石で円礫を利用し、長軸端に敲打痕を残す。礫表面は被熱のため、赤化している。48は多孔質の安山岩を利用した磨石である。50は砂岩の円礫を利用した磨石である。

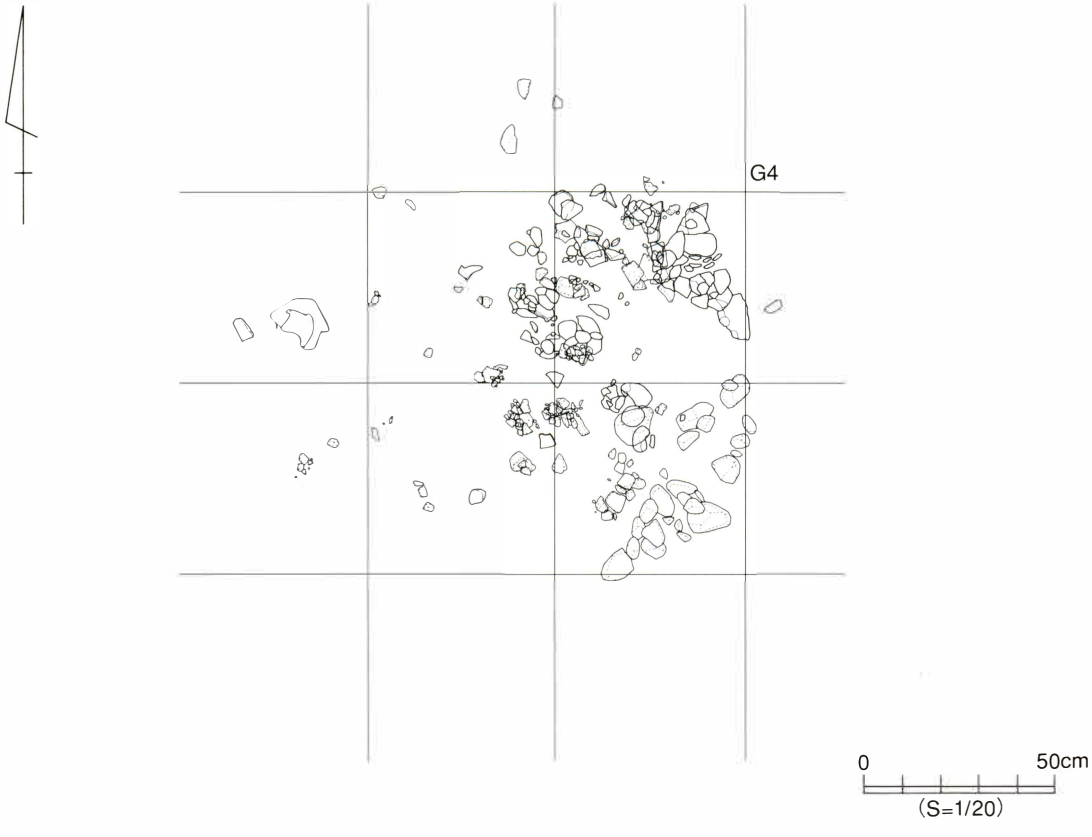
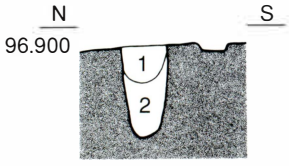


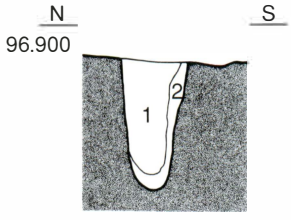
図12　竪穴住居跡1の弥生土器出土状況（竪穴住居跡1内炉）

SK358



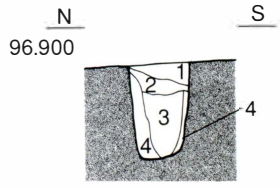
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。径2mm以下の礫を少量含む。
2 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。黄褐色土（10YR5/6）が混じる。

SK359



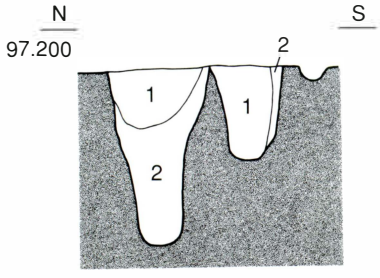
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。径2mm以下の礫を少量含む。
2 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。しまりのない黄褐色土（10YR5/6）が混じる。

SK357



1 2.5YR4/6　オリーブ褐色シルト。やや粘質でしまりややなし。
2 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりややあり。
3 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。
4 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりなし。

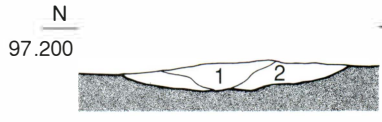
SK346　SK347



1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。径2mm以下の礫を少量含む。炭化物を少量含む。
2 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。

SK354

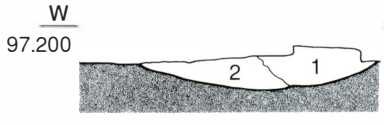
a



a

1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。径2mm以下の礫を少量含む。炭化物を少量含む。
2 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。

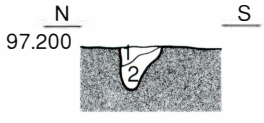
b



b

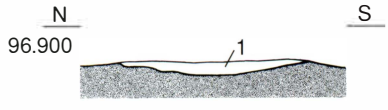
1 2.5YR5/8　明赤褐色シルト。焼土。ややしまりあり。
2 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。

SK337



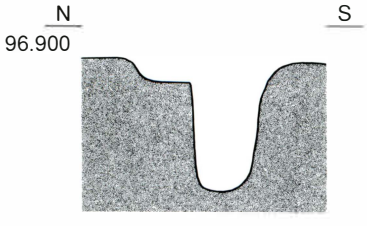
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。

SK372



1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。焼土・炭化物少量含む。

SK375



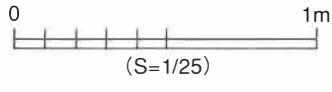


図13　竪穴住居跡1の柱穴・炉

（2）竪穴住居跡2・3（図14、図版2）

①調査経過

調査区北側で重複して検出した。側壁溝の切り合いから竪穴住居跡2より竪穴住居跡3が新しいと思われる。いずれも竪穴住居跡としたが、住居の炉跡・柱穴跡は認められなかった。時期は、遺構内から遺物が出土しなかったため、不明である。ただし、竪穴住居跡の一部を壊す形で検出した倒木痕1（SK102）・倒木痕2（SK112）から弥生土器が出土していることから、弥生時代の遺構と思われる。ここでは遺構出土ではないが、竪穴住居跡2・3に関連する倒木痕1・倒木痕2の遺物について説明を行う。

②出土遺物

倒木痕1（SK102）から弥生土器が出土した（22～25・27・28）。22・23は甕の口縁と思われる。24・25は壺の頸部と思われるが、器面が摩耗しているため、文様・調整は不明である。27は台付甕の脚部。である。28は甕の底部である。倒木痕2（SK112）から弥生土器27点、石器1点が出土した（26・29～32）。26は壺の頸部と思われる。ハケ目調整の後、櫛描直線文・列点文を施す。29・30は細頸壺の胴部上半。ハケ目調整の後、櫛描直線文を描く。31・32は条痕系甕である。胎土・調整・色調が類似することから同一個体と思われる。31は胴部上半で横位に条痕調整を行う。32は底部資料で胴部外面は縦方向に条痕、底部外面は網代痕を残す。51は花崗岩の円礫を利用した磨石である。

2　掘立柱建物跡

（1）掘立柱建物跡1（図15、図版2）

調査区西側で検出した、西隅を欠く2間×3間の建物跡である。このうち柱痕跡を確認したのは、SK298・SK291・SK287である。その他の土坑は柱痕跡を確認出来なかったが、いずれの土坑もほぼ円形に近い平面で上端の直径が小さい。また、壁が直立に深く掘られていることから柱穴と判断した。遺構内からは遺物は認めらないが、方位軸から弥生時代の遺構と思われる。

（2）掘立柱建物跡2（図16、図版2）

調査区西側で検出した。建物の東側を欠くため、全体の規模は不明である。SK222は、棟持ち柱と考えたが、中心軸からややずれることから、この遺構に伴わない可能性がある。その他の土坑はSK224以外、柱痕跡を確認出来なかった。いずれの土坑も径が小さいが、深いことから柱穴と判断した。遺物は認められないが、方位軸から弥生時代の遺構と思われる。

（3）掘立柱建物跡3（図17、図版2）

調査区西側で検出した。建物の東側を欠くため、全体の規模は不明である。土坑は、SK225を除いて柱痕跡を確認出来なかった。遺物は認められないが、方位軸から弥生時代の遺構と思われる。

（4）掘立柱建物跡4（図18、図版2）

調査区西側で検出した。建物の東側を欠くため、全体の規模は不明である。遺物は認められないが、方位軸から弥生時代の遺構と思われる。

（5）掘立柱建物跡6（図19）

調査区北側で検出した2間×6間の建物である。調査区北側はⅣ層上面まで重機の爪痕が激しく残っていたため、いずれの土坑も上面は削平されていた。このため、土坑は非常に浅い。土坑の覆土には、遺物は認められないが、方位軸から弥生時代の遺構と思われる。

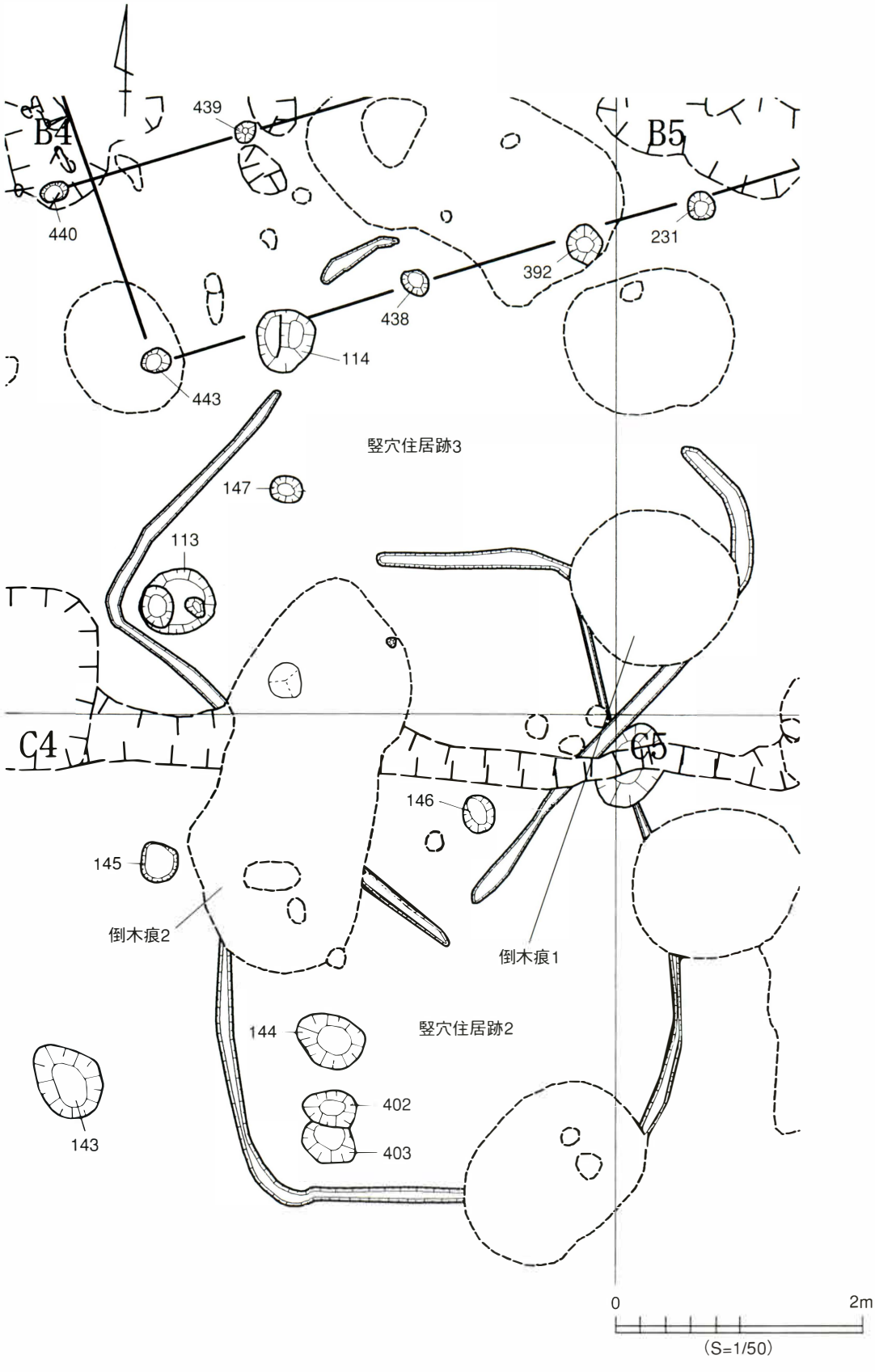


図14　竪穴住居跡 2・竪穴住居跡 3

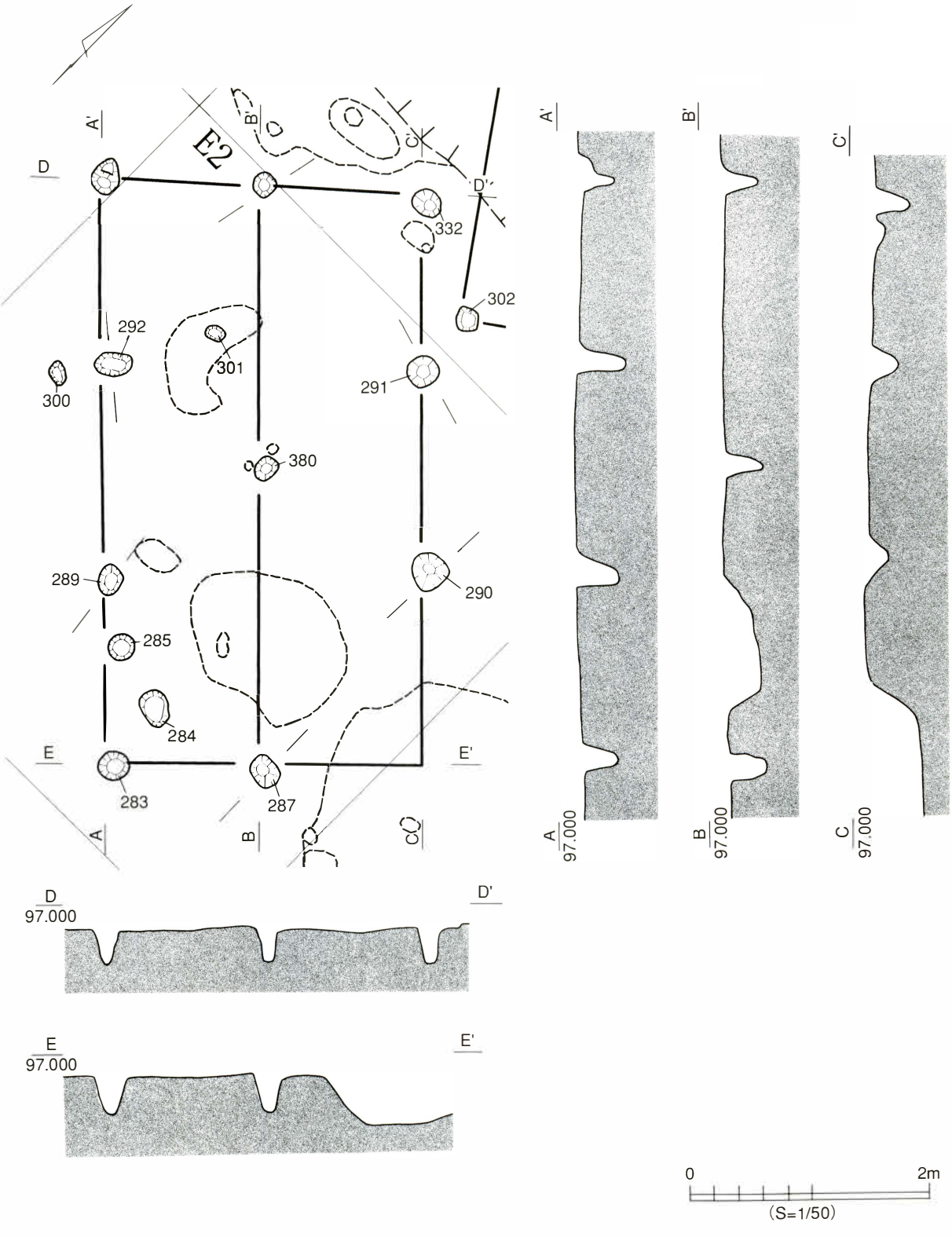

E2
A'
B'
C'
D
D'
E
E'
A
B
C
332
302
292
301
300
291
380
289
290
285
284
283
287
A'
B'
C'
A
97.000
B
97.000
C
97.000
D
97.000
D'
E
97.000
E'
0
2m
(S=1/50)

図15　堀立柱建物跡 1

(6) 掘立柱建物跡7（図20）

調査区西側で検出した建物跡である。調査区北側はⅣ上面まで重機による爪痕が激しく残っていたため、一部の土坑の上面は削平されていた。土坑は柱痕跡を確認出来なかった。いずれの土坑も径が小さいが、深いことから柱穴と判断した。遺物は認められないが、方位軸から弥生時代の遺構と思われる。

(7) 掘立柱建物跡8（図20）

調査区北西側で検出した。全体の規模は不明である。土坑はSK225を除いて、柱痕跡は確認出来なかった。遺物は認められないが、方位軸から弥生時代の遺構と思われる。

3　柵跡

(1) 柵1（図22）

北からSK412・SK408・SK313・SK314を柵跡と判断した。遺物は認められないが、方位軸から弥生時代の遺構と思われる。

(2) 柵2（図22）

北からSK319・SK320・SK407・SK326・SK302、これと直交するSK448・SK133を柵跡と判断

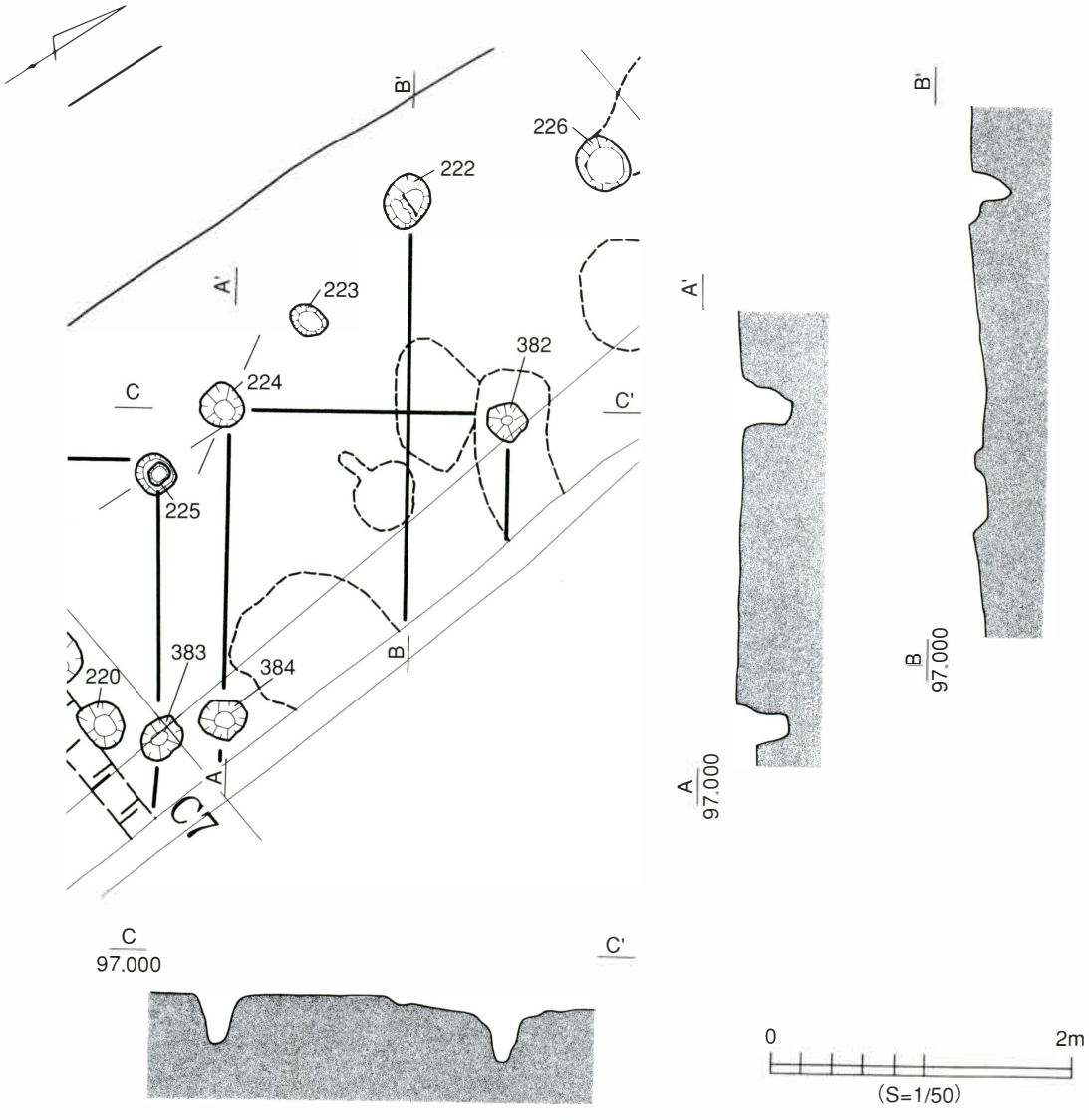


図16　堀立柱建物跡2

した。当初は掘立柱建物跡かと考えたが、並行する土坑を確認出来なかったため、柵跡とした。遺物は認められないが、方位軸から弥生時代の遺構と思われる。

柵3（図23）

北からSK255・SK400・SK406を柵跡と判断した。このうち、SK255で柱痕跡を確認した。遺物は認められないが、方位軸から弥生時代の遺構と思われる。

柵4（図23）

北からSK51・SK36・SK194を柵跡と判断した。このうち、SK51で柱痕跡を確認した。遺物は認められないが、方位軸から弥生時代の遺構と思われる。

柵5（図23）

北からSK413・SK229・SK227・SK201を柵跡と判断した。柵5は柵4と並行し、間隔も同等であることから掘立柱建物跡の可能性もあるが、直交する土坑を検出できなかったため、柵跡とした。遺物は認められないが、方位軸から弥生時代の遺構と思われる。

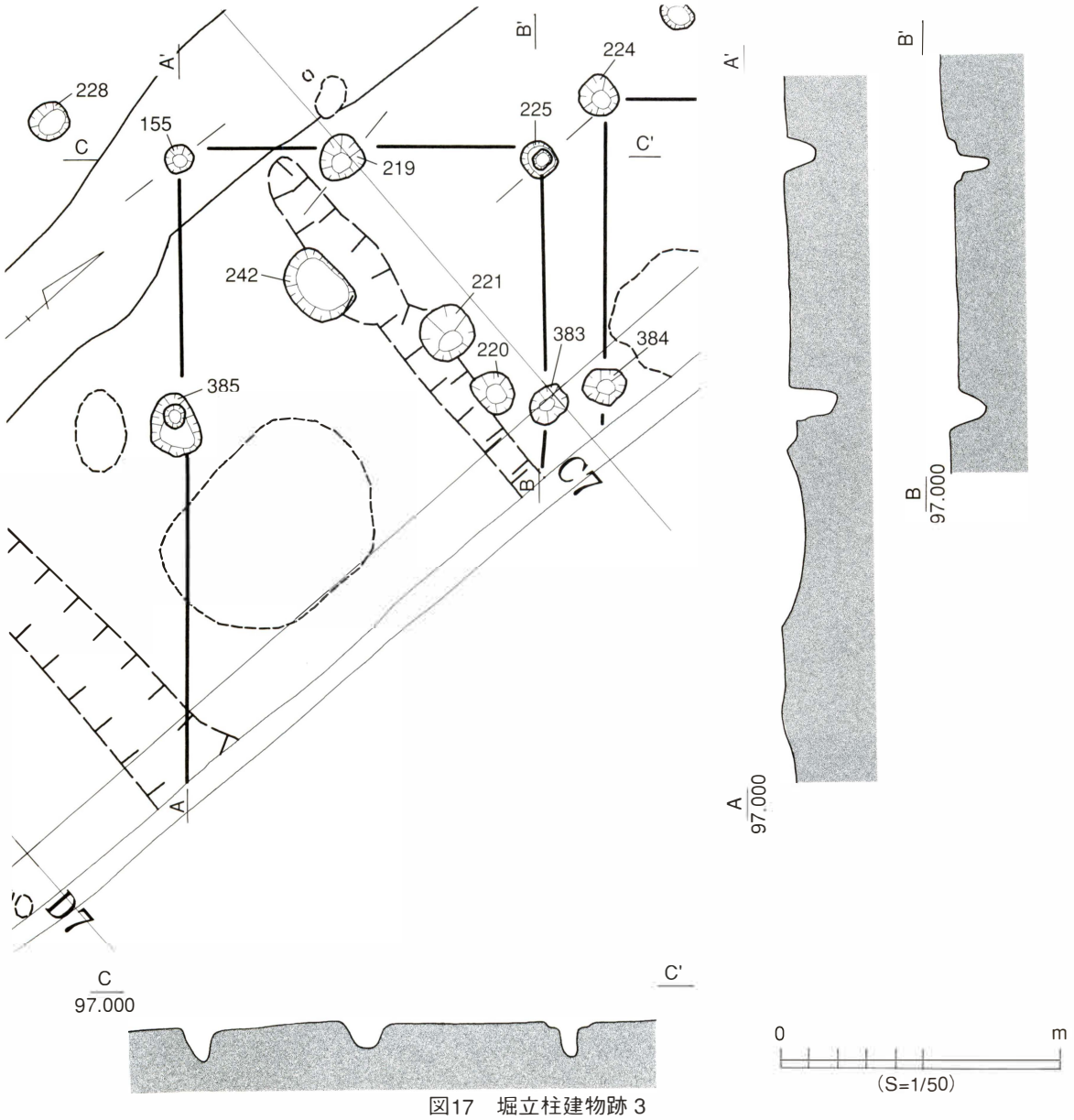


図17　堀立柱建物跡3

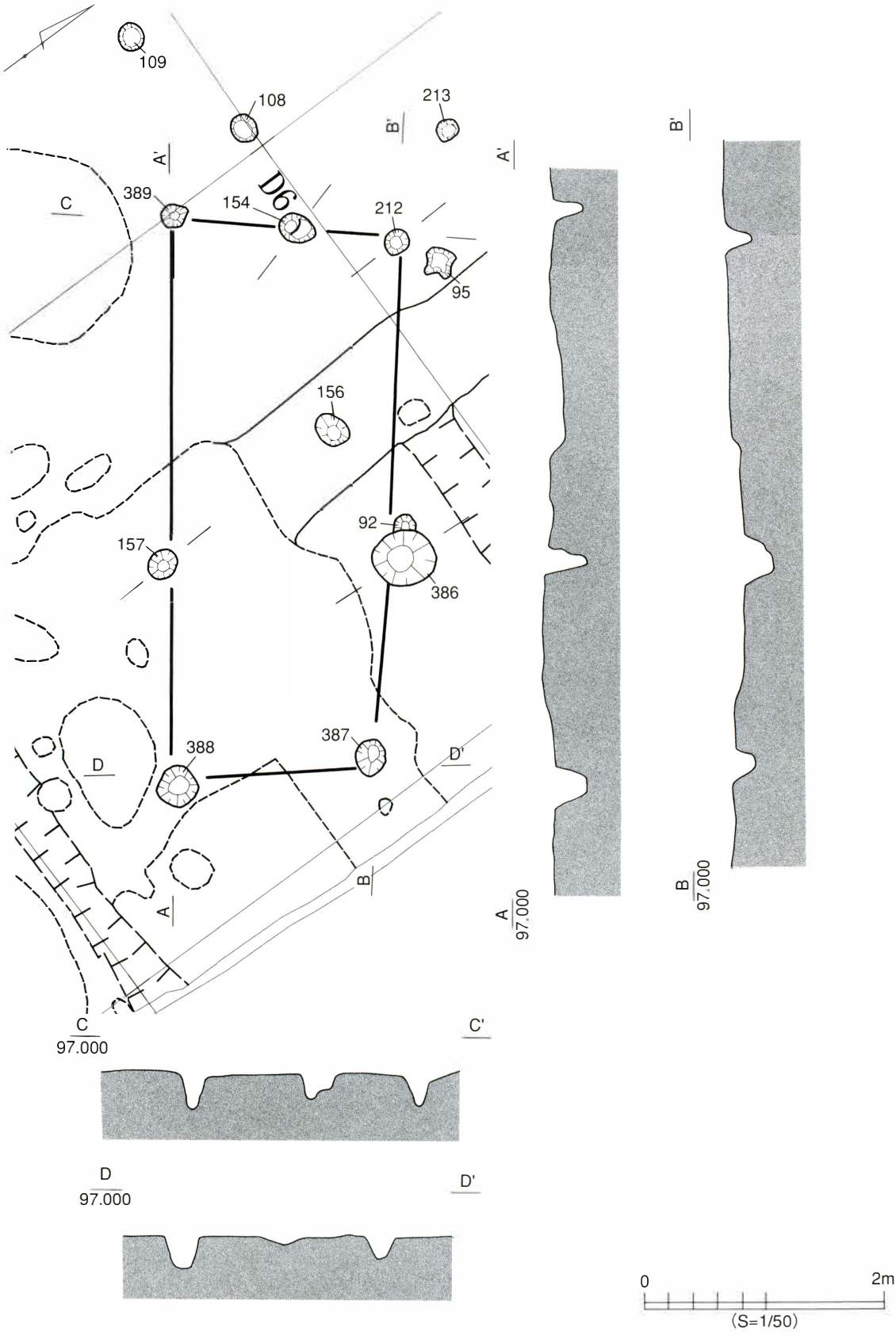

109
108
213
B'
A'
389
154
D6
212
C
95
156
92
157
386
388
387
D
D'
B
A
C
C'
97.000
D
D'
97.000
A
97.000
B'
B
97.000
0
2m
(S=1/50)

図18　堀立柱建物跡 4

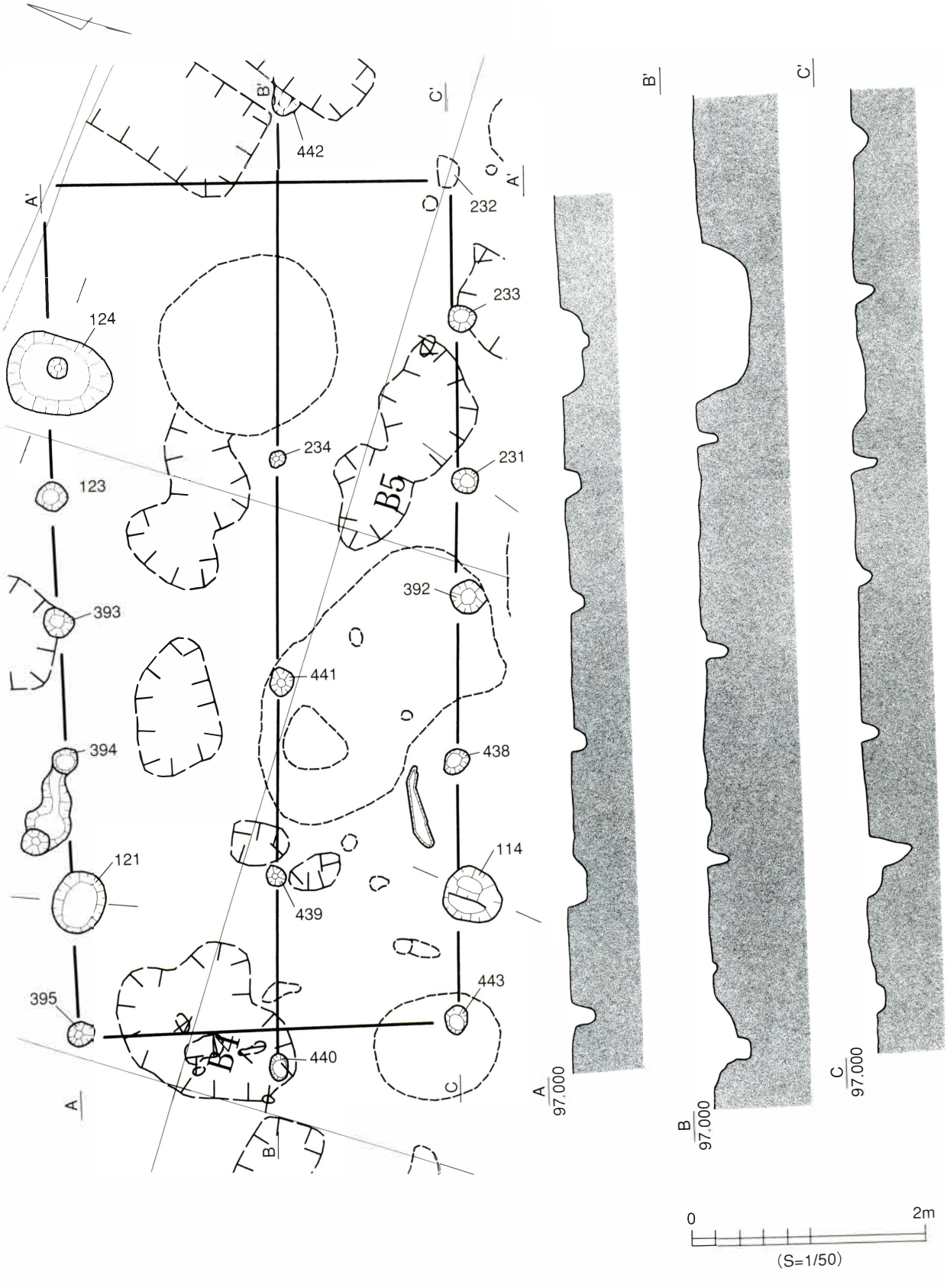

442
232
233
124
234
231
123
B5
392
393
441
394
438
121
114
439
443
395
440
B4
A
A'
B
B'
C
C'
97.000
0
2m
(S=1/50)

図19　堀立柱建物跡6

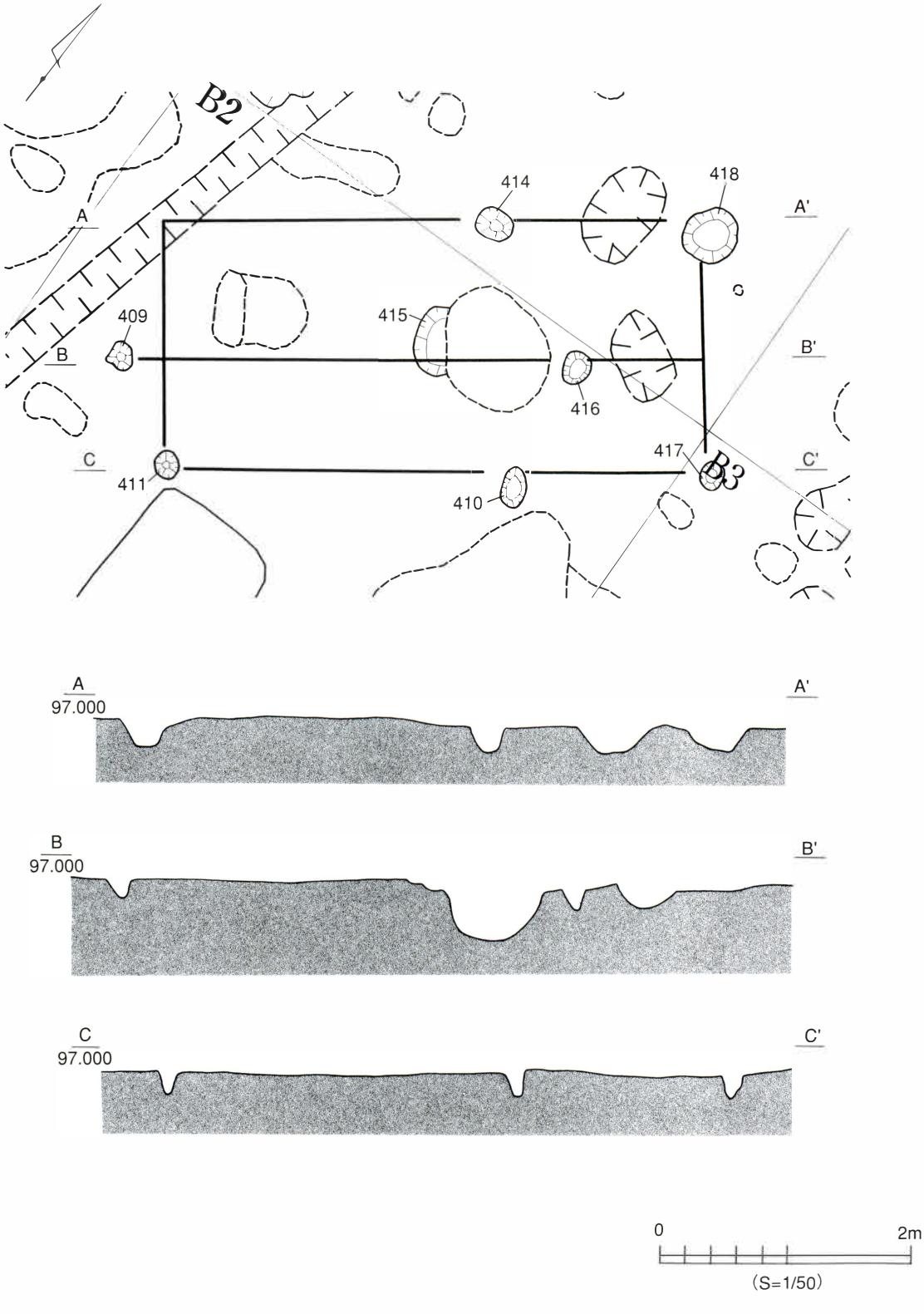

B2
A
A'
414
418
409
415
B
B'
416
C
417
B3
C'
411
410
A
97.000
A'
B
97.000
B'
C
97.000
C'
0
2m
(S=1/50)

図20　堀立柱建物跡 7

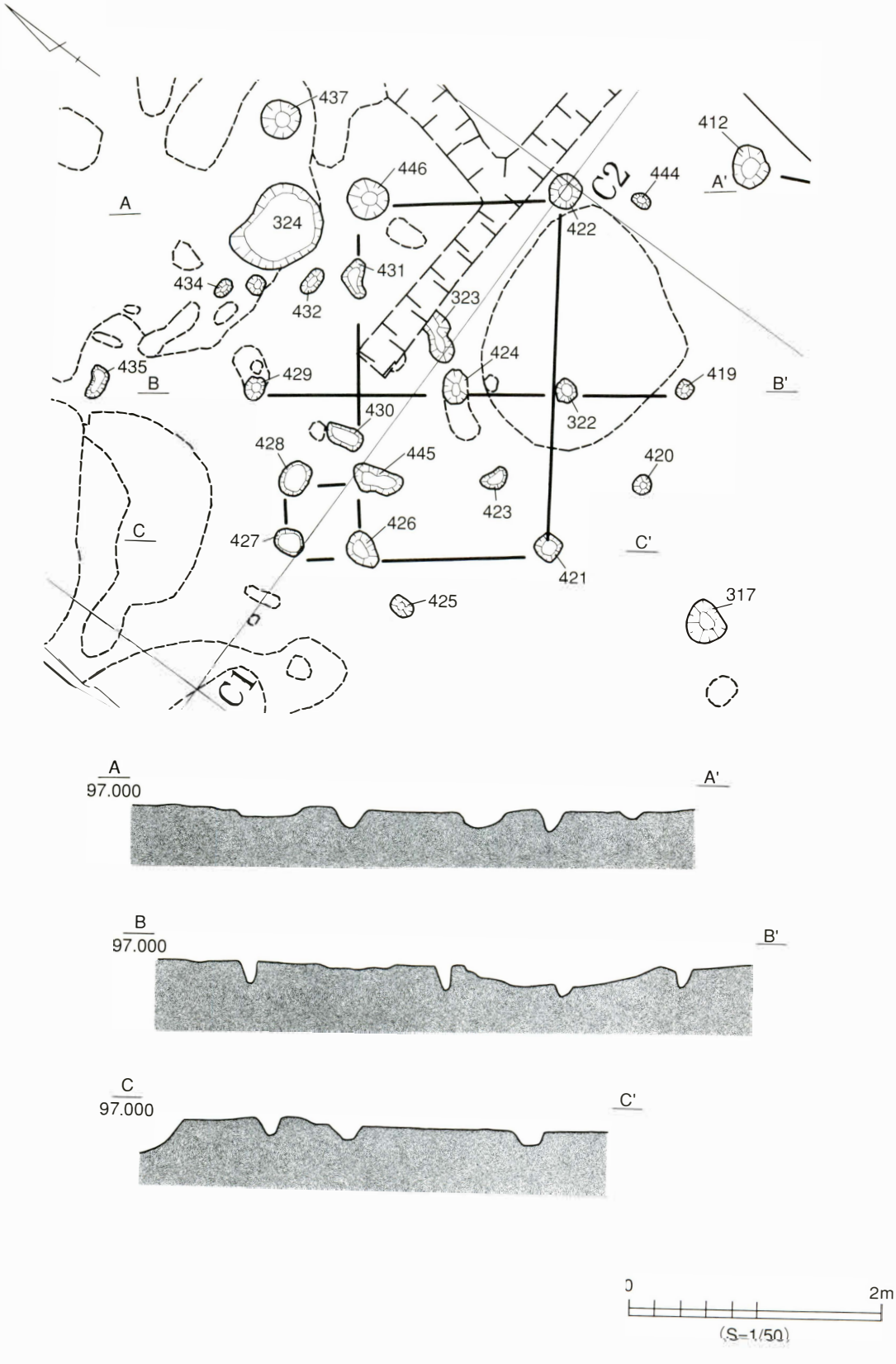

437
412
446
444
A'
A
324
422
431
434
432
323
424
435
B
429
419
B'
430
322
428
445
420
423
C
427
426
C'
421
425
317
C1
C2
A
97.000
A'
B
97.000
B'
C
97.000
C'
0
2m
(S=1/50)

図21　堀立柱建物跡８

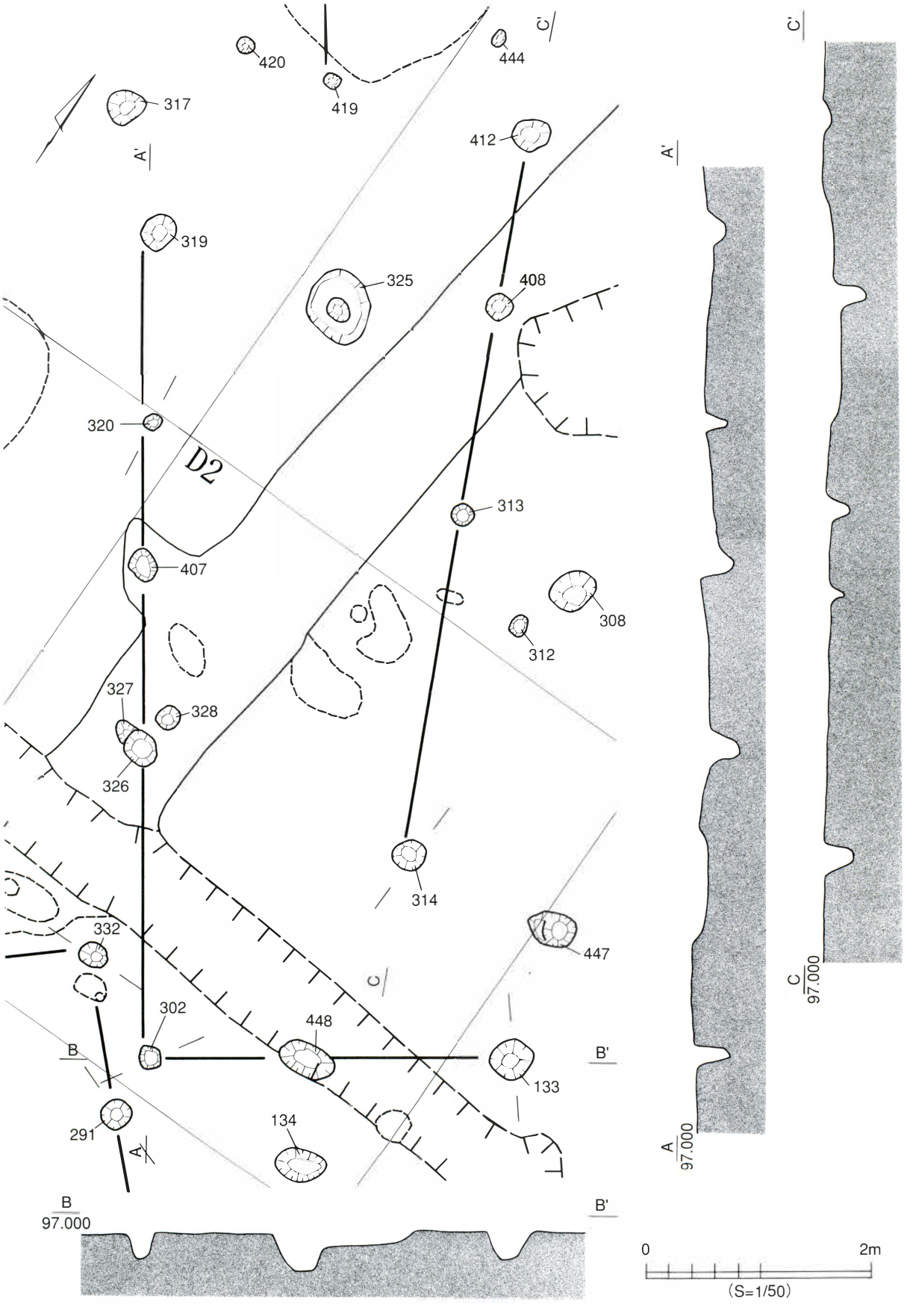

420
444
419
317
412
319
325
408
320
D2
313
407
308
312
327
328
326
314
332
447
302
448
133
291
134
A
A'
B
B'
C
C'
97.000
0
2m
(S=1/50)

図22　柵 1・柵 2

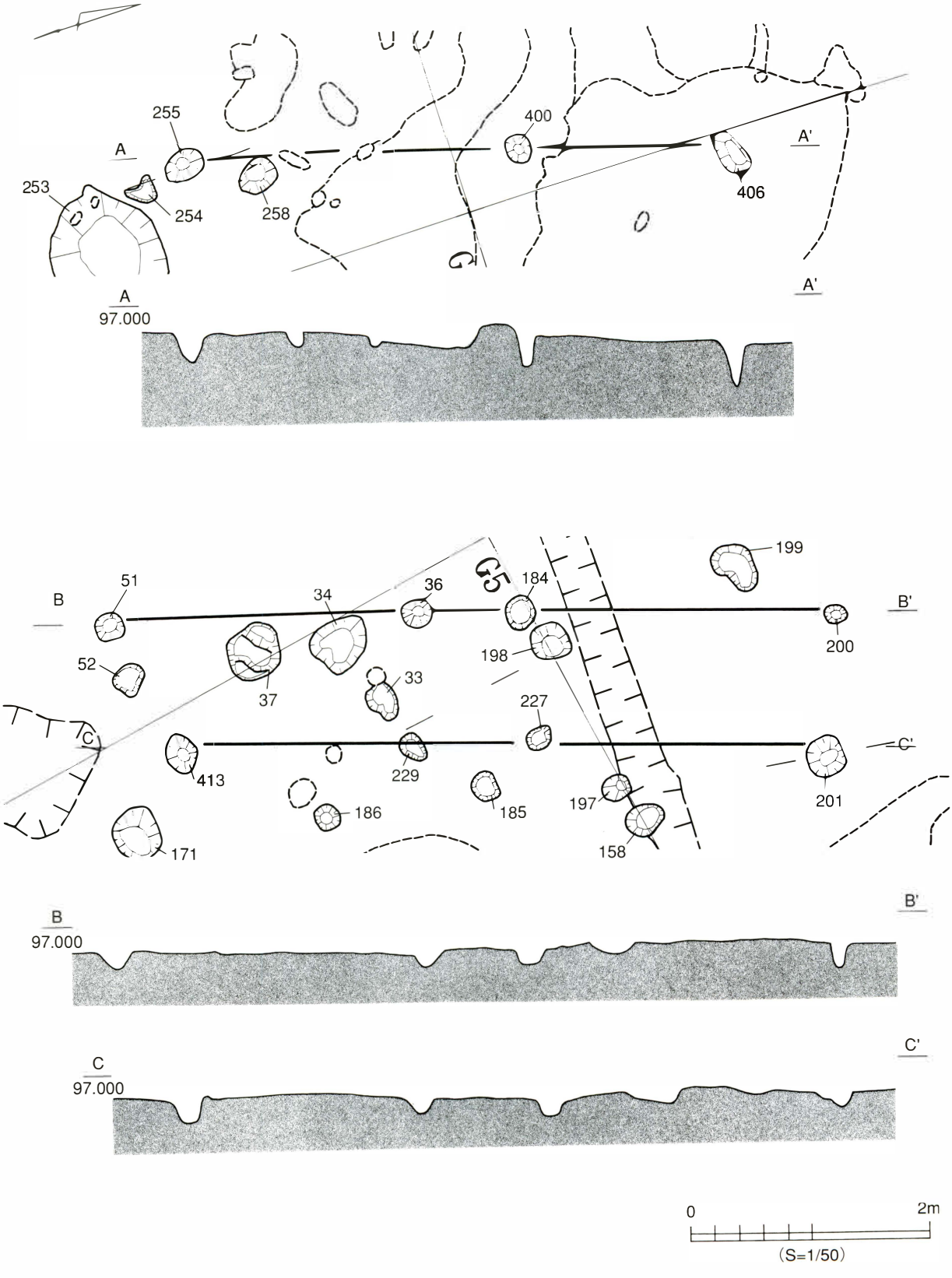
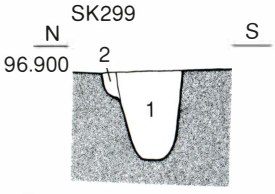


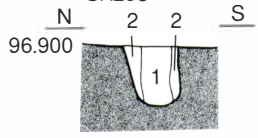
図23　柵3（図上）・柵4（図中）・柵5（図下）

SK299



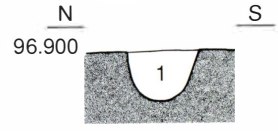
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。
2 2.5YR4/6　オリーブ褐色シルト。やや粘質でしまりややなし。

SK298



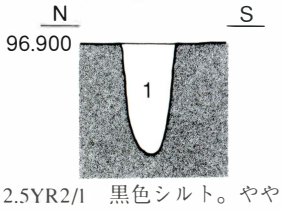
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。
2 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。

SK332



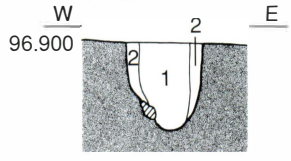
1 7.5YR2/1　赤黒色シルト。やや粘質でしまりなし。

SK292



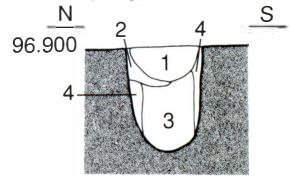
1 2.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。

SK291



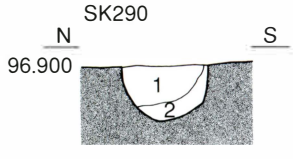
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。
2 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。

SK289



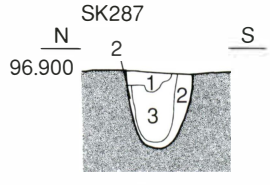
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 2.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
3 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりなし。
4 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。

SK290



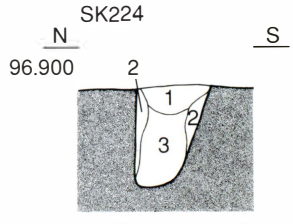
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。
2 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりなし。

SK287



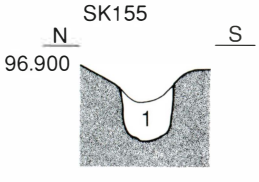
1 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 2.5YR4/6　オリーブ褐色シルト。やや粘質でしまりややなし。
3 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。

SK224



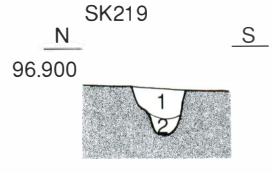
1 2.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりなし。黒色シルト（7.5YR2/1）を少量含む。
3 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。

SK155



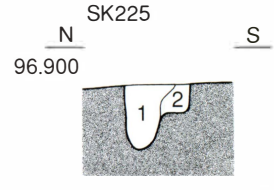
1 2.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。

SK219



1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。

SK225



1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりなし。黒色シルト（7.5YR2/1）を少量含む。

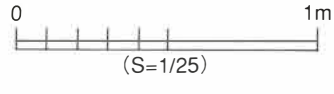
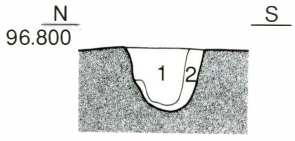


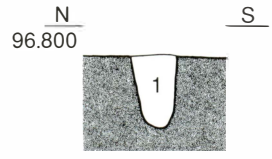
図24　土坑①

SK154



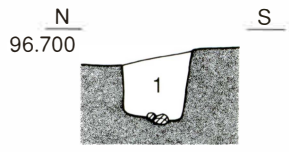
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりなし。黒色シルト（7.5YR2/1）を少量含む。

SK212



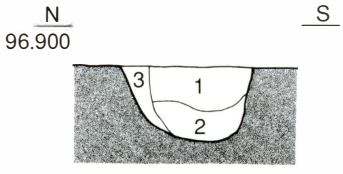
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。

SK157



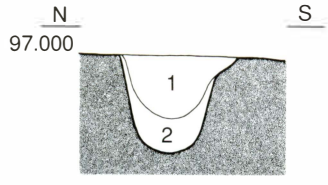
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。

SK386



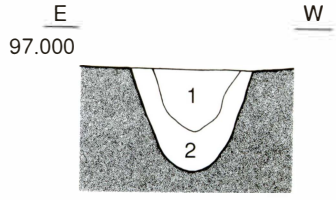
1 2.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。
2 10YR2/2　黒褐色シルト。しまりあり。
3 2.5YR4/6　オリーブ褐色シルト。やや粘質でしまりややなし。

SK43



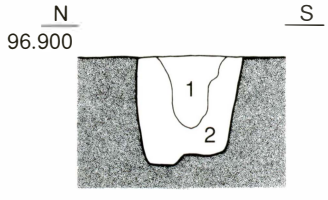
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 2.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。

SK39



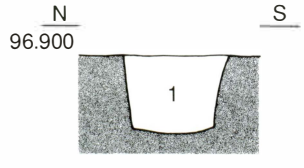
1 2.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりあり。
2 2.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。

SK22



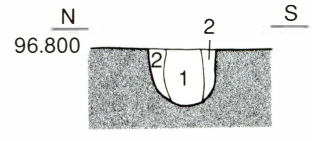
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 10YR3/1　黒褐色シルト。しまりややなし。褐色シルト（2.5YR5/6）を多く含む

SK6



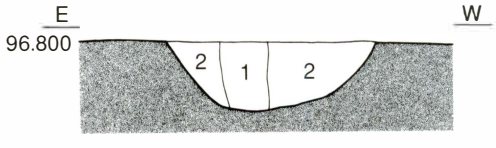
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。

SK120



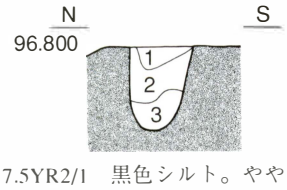
1 2.5Y2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりあり。
2 2.5YR4/6　オリーブ褐色シルト。やや粘質でしまりややなし。褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。

SK124



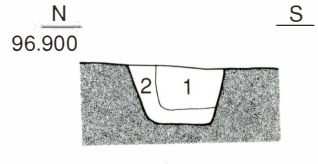
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 2.5YR4/6　オリーブ褐色シルト。やや粘質でしまりややなし。

SK231



1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 7.5YR2/1　黒色シルトやや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。
3 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。

SK121



1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。
2 10YR5/6　黄褐色シルトやや粘質でしまりなし。

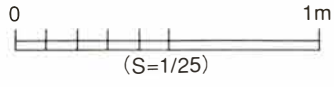
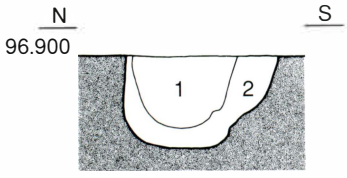


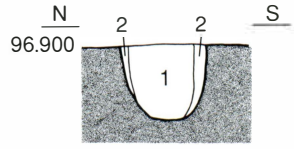
図25　土坑②

SK114



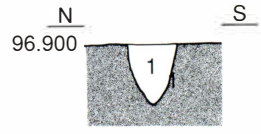
1 2.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりあり。
2 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。

SK314



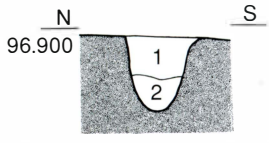
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。褐色シルト（2.5YR5/6）を多く含む。

SK320



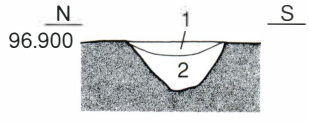
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。

SK302



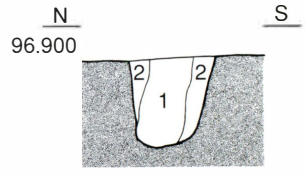
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。少量の褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。
2 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりなし。

SK133



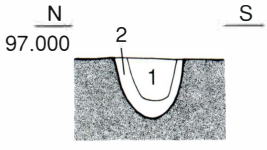
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。褐色シルト（2.5YR5/6）を多く含む。

SK255



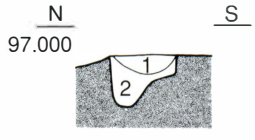
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。褐色シルト（2.5YR5/6）を多く含む。

SK51



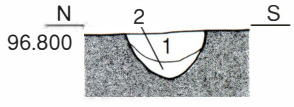
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 2.5YR4/6　オリーブ褐色シルト。やや粘質でしまりややなし。褐色シルト（2.5YR5/6）を含む。

SK36



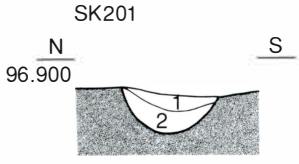
1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりあり。
2 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。褐色シルト（2.5YR5/6）を多く含む。

SK194



1 7.5YR2/1　黒色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 2.5YR4/6　オリーブ褐色シルト。やや粘質でしまりややなし。

SK201



1 10YR5/6　黄褐色シルト。やや粘質でしまりなし。
2 2.5YR4/6　オリーブ褐色シルト。やや粘質でしまりややなし。

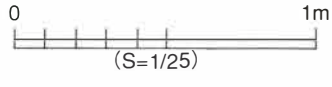


図26　土坑③

表11　竪穴住居跡の属性一覧表

遺構名	地区名	平面形	長軸（m）	短軸（m）	面積（m²）	軸の方位	所属時期
竪穴住居跡1新	F4	長方形	4.2	4.0	16.8	N37.5° E	Ⅰ期か
竪穴住居跡1古	F4	長方形	6.6	4.0	26.4	N37.5° E	Ⅰ期か
竪穴住居跡2	B4	方形	4.3	3.9	16.77	N1.5° W	Ⅰ期か
竪穴住居跡3	C4	長方形	5.2	3.8	19.76	N40.5° E	Ⅰ期か

表12　掘立柱建物跡・柵の属性一覧表

遺構名	地区名	構造（間）	桁行（m）	梁間（m）	面積（m²）	軸の方位	所属時期
掘立柱建物跡1	E2	2×3	4.9	2.6	12.74	N44.5° W	Ⅰ期か
掘立柱建物跡2	B6	不明	—	—	—	N49° W	Ⅰ期か
掘立柱建物跡3	C6	2×2以上	—	2.6	—	N50° W	Ⅰ期か
掘立柱建物跡4	D6	2×2	4.7	1.9	8.93	N51° W	Ⅰ期か
掘立柱建物跡5	H5	2×3	3.0	5.9	17.7	N55° W	Ⅱ期か
掘立柱建物跡6	A4	2×6	7.3	3.3	20.09	N73.5E	Ⅰ期か
掘立柱建物跡7	B2	2×2	4.4	1.9	8.36	N55° E	Ⅰ期か
掘立柱建物跡8	C1	不明	—	—	—	—	Ⅰ期か
柵1	C2	—	—	—	—	N26° W	Ⅰ期か
柵2	D2	—	—	—	—	N35° W	Ⅰ期か
柵3	F1	—	—	—	—	N18° E	Ⅰ期か
柵4	F5	—	—	—	—	N29° E	Ⅰ期か
柵5	G5	—	—	—	—	N29° E	Ⅰ期か

表13　各土坑の属性一覧表①

土坑番号	遺構名	検出層位	平面形	上端（m）		下端（m）		深さ（m）	覆土の状況	
				長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		堆積状況	堆積層
337	竪穴住居跡1	Ⅳ層	円形	0.26	0.23	0.2	0.08	0.3	凹状堆積	2
346	竪穴住居跡1	Ⅳ層	円形	0.4	0.26	0.18	0.16	0.6	柱痕状堆積	2
347	竪穴住居跡1	Ⅳ層	不整円形	0.48	0.38	0.2	0.17	0.62	柱痕状堆積	2
354	竪穴住居跡1	Ⅳ層	円形	0.7	0.7	0.6	0.5	0.1	凹状堆積	2
357	竪穴住居跡1	Ⅳ層	不整円形	0.58	0.53	0.55	0.48	0.68	柱痕状堆積	4
358	竪穴住居跡1	Ⅳ層	円形	0.24	0.2	0.12	0.07	0.37	—	—
359	竪穴住居跡1	Ⅳ層	不整円形	0.25	0.21	0.2	0.16	0.67	柱痕状堆積	2
372	竪穴住居跡1	Ⅳ層	不整円形	0.3	0.15	0.14	0.06	0.07	単一層	1
375	竪穴住居跡1	Ⅳ層	不整円形	0.61	0.48	0.16	0.13	0.45	単一層	1
283	掘立柱建物跡1	Ⅳ層	円形	0.25	0.24	0.15	0.11	0.28	柱痕状堆積	3
285	掘立柱建物跡1	Ⅳ層	円形	0.26	0.22	0.08	0.12	0.27	凹状堆積	2
287	掘立柱建物跡1	Ⅳ層	不整円形	0.29	0.23	0.1	0.1	0.31	柱痕状堆積	3
289	掘立柱建物跡1	Ⅳ層	不整楕円形	0.26	0.23	0.1	0.1	0.35	柱痕状堆積	4
290	掘立柱建物跡1	Ⅳ層	不整円形	0.34	0.31	0.16	0.07	0.21	水平堆積	2
291	掘立柱建物跡1	Ⅳ層	円形	0.28	0.28	0.1	0.1	0.28	柱痕状堆積	2
292	掘立柱建物跡1	Ⅳ層	楕円形	0.34	0.22	0.28	0.1	0.37	単一層	1
298	掘立柱建物跡1	Ⅳ層	円形	0.22	0.2	0.09	0.09	0.27	柱痕状堆積	2
299	掘立柱建物跡1	Ⅳ層	不整円形	0.3	0.26	0.2	0.1	0.32	柱痕状堆積	2
332	掘立柱建物跡1	Ⅳ層	円形	0.27	0.24	0.11	0.08	0.32	—	—
380	掘立柱建物跡1	Ⅳ層	楕円形	0.2	0.15	0.1	0.07	0.44	水平堆積	4
222	掘立柱建物跡2	Ⅳ層	楕円形	0.37	0.31	0.13	0.07	0.27	—	—
224	掘立柱建物跡2	Ⅳ層	円形	0.33	0.3	0.16	0.12	0.31	柱痕状堆積	4
382	掘立柱建物跡2	Ⅳ層	不整円形	0.23	0.2	0.15	0.14	0.3	—	—
384	掘立柱建物跡2	Ⅳ層	不整円形	0.21	0.21	0.1	0.1	0.22	—	—
155	掘立柱建物跡3	Ⅳ層	円形	0.22	0.22	0.12	0.12	0.23	単一層	1
219	掘立柱建物跡3	Ⅳ層	円形	0.33	0.29	0.21	0.1	0.21	凹状堆積	2
225	掘立柱建物跡3	Ⅳ層	円形	0.29	0.27	0.1	-	0.22	柱痕状堆積	2
383	掘立柱建物跡3	Ⅳ層	不整円形	0.28	0.26	0.1	0.1	0.33	—	—
385	掘立柱建物跡3	Ⅳ層	不整楕円形	0.28	0.28	0.1	0.1	0.32	—	—
154	掘立柱建物跡4	Ⅳ層	楕円形	0.32	0.24	0.17	0.15	0.21	凹状堆積	2
157	掘立柱建物跡4	Ⅳ層	円形	0.26	0.24	0.18	0.11	0.24	単一層	1
212	掘立柱建物跡4	Ⅳ層	円形	0.32	0.12	0.1	0.1	0.17	単一層	1
386	掘立柱建物跡4	Ⅳ層	円形	0.55	0.46	0.22	0.2	0.38	—	—
387	掘立柱建物跡4	Ⅳ層	円形	0.3	0.28	0.1	0.1	0.39	—	—
389	掘立柱建物跡4	Ⅳ層	不整円形	0.2	0.2	0.1	0.1	0.17	—	—
6	掘立柱建物跡5	Ⅳ層	円形	0.4	0.35	0.32	0.3	0.25	単一層	1
20	掘立柱建物跡5	Ⅳ層	不整円形	0.44	0.37	0.17	0.12	0.14	単一層	1
22	掘立柱建物跡5	Ⅳ層	円形	0.36	0.35	0.24	0.24	0.45	凹状堆積	2
39	掘立柱建物跡5	Ⅱ層	円形	0.36	0.18	0.13	0.07	0.31	凹状堆積	2
43	掘立柱建物跡5	Ⅳ層	円形	0.44	0.41	—	—	0.34	凹状堆積	2
179	掘立柱建物跡5	Ⅳ層	不整円形	0.45	0.35	0.24	0.22	0.29	—	—
396	掘立柱建物跡5	Ⅱ層	円形	0.35	0.35	0.22	0.2	—	—	—
397	掘立柱建物跡5	Ⅱ層	円形	0.4	0.3	0.2	0.2	—	—	—
398	掘立柱建物跡5	Ⅱ層	円形	0.33	0.33	0.15	0.13	—	—	—
399	掘立柱建物跡5	Ⅱ層	不整円形	0.33	0.3	0.15	0.15	—	—	—
449	掘立柱建物跡5	Ⅳ層	不明	—	—	—	—	—	—	—
114	掘立柱建物跡6	Ⅳ層	不整円形	0.53	—	0.28	0.18	0.3	凹状堆積	2
121	掘立柱建物跡6	Ⅳ層	円形	0.55	0.41	0.4	0.23	0.23	凹状堆積	2
122	掘立柱建物跡6	Ⅳ層	不定形	0.96	0.9	0.83	0.48	0.58	凹状堆積	3
123	掘立柱建物跡6	Ⅳ層	不整円形	0.25	0.24	0.16	0.15	0.23	柱痕状堆積	2

表14　各土坑の属性一覧表②

土坑番号	遺構名・地区名	検出層位	平面形	上端（m）		下端（m）		深さ（m）	覆土の状況	
				長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		堆積状況	堆積層
124	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	楕円形	1.02	0.8	0.53	0.42	0.28	柱痕状堆積	2
231	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	円形	0.25	0.24	0.19	0.12	0.25	水平堆積	3
232	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	不整円形	0.28	0.2	0.08	—	0.26	単一層	1
233	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	円形	0.26	0.15	0.19	0.13	0.27	単一層	1
234	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	円形	0.15	0.13	0.05	0.05	—	—	—
392	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	円形	0.34	0.3	0.15	0.14	—	—	—
393	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	不整円形	0.3	0.28	0.2	0.16	0.22	—	—
394	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	円形	0.24	0.25	0.12	0.1	0.15	—	—
395	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	円形	0.27	0.26	0.14	0.14	0.21	—	—
438	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	不整円形	0.25	0.2	0.15	0.12	0.09	—	—
439	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	不整円形	0.2	0.16	0.05	0.05	—	—	—
440	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	楕円形	0.25	0.15	0.16	0.12	0.18	—	—
441	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	不整円形	0.26	0.2	0.08	0.06	—	—	—
442	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	不明	—	—	—	—	—	—	—
443	掘立柱建物跡 6	Ⅳ層	不整円形	0.25	0.2	0.16	0.13	0.09	—	—
409	掘立柱建物跡 7	Ⅳ層	不整円形	0.28	0.2	0.08	0.08	—	—	—
410	掘立柱建物跡 7	Ⅳ層	楕円形	0.31	0.2	0.18	0.17	0.07	—	—
411	掘立柱建物跡 7	Ⅳ層	円形	0.22	0.18	0.06	0.06	—	—	—
414	掘立柱建物跡 7	Ⅳ層	楕円形	0.3	0.22	0.1	0.1	0.08	—	—
415	掘立柱建物跡 7	Ⅳ層	不明	測定不能	測定不能	測定不能	測定不能	—	—	—
416	掘立柱建物跡 7	Ⅳ層	円形	0.23	0.22	0.18	0.12	0.07	—	—
417	掘立柱建物跡 7	Ⅳ層	円形	0.25	0.22	0.16	0.11	0.16	—	—
418	掘立柱建物跡 7	Ⅳ層	円形	0.5	0.41	0.29	0.23	0.07	—	—
322	掘立柱建物跡 8	Ⅳ層	不整円形	1.76	1.5	1.38	1.12	0.31	—	—
419	掘立柱建物跡 8	Ⅳ層	不整円形	0.16	0.14	0.04	0.03	0.05	—	—
421	掘立柱建物跡 8	Ⅳ層	不整円形	0.21	0.2	0.12	0.1	0.06	—	—
422	掘立柱建物跡 8	Ⅳ層	円形	0.27	0.25	0.12	0.12	—	—	—
424	掘立柱建物跡 8	Ⅳ層	楕円形	0.28	0.18	0.08	0.06	—	—	—
426	掘立柱建物跡 8	Ⅳ層	不整楕円形	0.28	0.21	0.14	0.11	0.11	—	—
427	掘立柱建物跡 8	Ⅳ層	円形	0.22	0.18	0.18	0.15	0.03	—	—
428	掘立柱建物跡 8	Ⅳ層	楕円形	0.29	0.22	0.2	0.18	0.06	—	—
429	掘立柱建物跡 8	Ⅳ層	円形	0.2	0.08	0.15	0.08	0.2	—	—
430	掘立柱建物跡 8	Ⅳ層	楕円形	0.3	0.15	0.22	0.12	0.06	—	—
431	掘立柱建物跡 8	Ⅳ層	不定形	0.31	0.15	0.21	0.09	—	—	—
445	掘立柱建物跡 8	Ⅳ層	不整楕円形	0.41	0.18	0.3	0.1	0.09	—	—
446	掘立柱建物跡 8	Ⅳ層	円形	0.32	0.31	0.1	0.1	0.1	—	—
313	柵 1	Ⅳ層	円形	0.2	0.18	0.1	0.1	0.24	凹状堆積	2
314	柵 1	Ⅳ層	円形	0.28	0.27	0.21	0.2	0.25	柱痕状堆積	2
408	柵 1	Ⅳ層	円形	0.25	0.25	0.12	0.11	0.13	—	—
412	柵 1	Ⅳ層	不整円形	0.19	0.19	0.12	0.12	—	—	—
133	柵 2	Ⅳ層	不整円形	0.47	0.42	0.17	0.14	0.21	水平堆積	2
302	柵 2	Ⅳ層	不整円形	0.26	0.23	0.14	0.14	0.32	水平堆積	2
319	柵 2	Ⅳ層	不整円形	0.3	0.25	0.11	0.1	0.07	—	—
320	柵 2	Ⅳ層	円形	0.17	0.15	0.07	0.07	0.14	単一層	1
326	柵 2	Ⅳ層	不整円形	0.27	0.25	0.2	0.2	0.24	—	—
407	柵 2	Ⅳ層	不整円形	0.3	0.24	0.2	0.12	—	—	—
448	柵 2	Ⅳ層	楕円形	0.52	0.28	0.25	0.15	0.21	—	—
255	柵 3	Ⅳ層	楕円形	0.34	0.26	0.1	0.1	0.24	柱痕状堆積	2
400	柵 3	Ⅳ層	円形	0.26	0.2	0.1	0.08	0.22	—	—
406	柵 3	Ⅳ層	楕円形	0.4	0.2	0.2	0.1	0.25	—	—
36	柵 4	Ⅳ層	円形	0.3	0.24	0.18	0.11	0.21	凹状堆積	2
51	柵 4	Ⅳ層	円形	0.28	0.25	0.13	0.11	0.17	凹状堆積	2
194	柵 4	Ⅳ層	円形	0.29	0.25	0.17	0.13	0.14	水平堆積	2
200	柵 4	Ⅳ層	円形	0.18	0.14	0.11	0.07	0.28	—	—
201	柵 5	Ⅳ層	不整円形	0.37	0.33	0.2	0.14	0.15	水平堆積	2
227	柵 5	Ⅳ層	不整円形	0.21	0.2	0.12	0.1	0.13	単一層	1
413	柵 5	Ⅳ層	不整円形	0.35	0.25	0.12	0.1	—	—	—
1	H6	Ⅳ層	不明	1.2	0.6	0.46	0.3	0.28	水平堆積	3
2	H6	Ⅳ層	円形	0.46	0.34	0.27	0.2	0.23	柱痕状堆積	3
3	H6	Ⅳ層	不明	1.02	0.4	0.52	0.23	0.07	水平堆積	3
4	G6	Ⅳ層	不明	0.81	0.51	0.18	—	0.12	凹状堆積	2
5	G6	Ⅳ層	不整円形	0.97	0.83	0.55	0.5	0.22	単一層	1
10	G7	Ⅳ層	楕円形	0.57	0.4	0.5	0.34	0.15	単一層	1
11	G5	Ⅳ層	円形	0.37	0.35	0.3	0.27	0.12	単一層	1
12	G5	Ⅳ層	不整円形	0.67	0.32	0.46	0.1	0.13	単一層	1
13	G5	Ⅳ層	不明	—	—	—	—	0.12	—	—
14	G5	Ⅳ層	楕円形	0.42	0.32	0.33	0.23	0.07	単一層	1
15	G5	Ⅳ層	円形	0.25	0.24	0.16	0.15	0.14	凹状堆積	2
16	G5	Ⅳ層	楕円形	0.42	0.29	0.26	0.12	0.2	凹状堆積	2
17	H5	Ⅳ層	楕円形	0.67	0.38	0.57	0.34	0.16	凹状堆積	2
18	H5	Ⅳ層	不整楕円形	0.46	0.39	0.19	—	0.23	単一層	1
19	H5	Ⅳ層	不定形	0.55	0.4	0.32	0.2	0.19	単一層	1
21	H5	Ⅳ層	円形	0.53	0.42	0.34	0.25	0.13	単一層	1

表15　各土坑の属性一覧表③

土坑番号	地区名	検出層位	平面形	上端（m）		下端（m）		深さ（m）	覆土の状況	
				長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		堆積状況	堆積層
26	H5	Ⅳ層	不定形	0.95	0.36	0.66	0.13	0.19	水平堆積	2
27	H5	Ⅳ層	円形	0.35	0.31	0.25	0.2	0.15	単一層	1
28	H5	Ⅳ層	楕円形	0.46	—	0.28	0.16	0.18	単一層	1
29	H5	Ⅳ層	円形	0.55	0.44	0.48	0.35	0.29	単一層	1
30	H5	Ⅳ層	不整円形	0.63	0.59	0.55	0.45	0.24	水平堆積	2
33	G5	Ⅳ層	不整円形	0.46	0.27	0.32	0.17	0.51	単一層	1
34	G5	Ⅳ層	不整円形	0.5	0.43	0.4	0.16	0.23	単一層	1
37	G4	Ⅳ層	不整円形	0.54	0.48	0.31	—	0.18	単一層	1
40	H4	Ⅳ層	円形	0.26	0.25	0.1	0.09	0.47	柱痕状堆積	2
41	H4	Ⅳ層	円形	0.34	0.3	0.15	0.12	0.1	単一層	1
42	H4	Ⅳ層	円形	0.43	0.39	0.2	0.15	0.14	水平堆積	4
44	H4	Ⅳ層	不整円形	0.61	0.51	0.47	0.29	0.15	水平堆積	3
46	H4	Ⅳ層	不明	0.29	0.12	0.14	0.06	0.1	単一層	1
47	H4	Ⅳ層	不明	0.38	0.34	0.29	0.27	0.09	単一層	1
48	H4	Ⅳ層	不整円形	2.03	1.68	1.25	0.93	0.21	単一層	1
49	G4	Ⅳ層	不定形	1.13	0.62	0.78	0.3	0.19	単一層	1
50	G4	Ⅳ層	不整楕円形	0.26	0.24	0.1	0.08	0.22	単一層	1
52	G4	Ⅳ層	不整円形	0.25	0.24	0.21	0.2	0.09	単一層	1
53	H4	Ⅳ層	不整円形	0.43	0.36	0.22	0.18	0.1	単一層	1
54	G3	Ⅳ層	円形	0.33	0.29	0.22	0.2	0.08	単一層	1
58	H3	Ⅳ層	円形	0.29	0.27	0.22	0.2	0.11	単一層	1
59	H3	Ⅳ層	円形	0.25	0.22	0.15	0.14	0.14	凹状堆積	2
60	F6	Ⅳ層	長楕円形	0.5	0.19	0.43	0.13	0.27	凹状堆積	2
61	F6	Ⅳ層	楕円形	0.2	0.12	0.08	0.06	0.16	水平堆積	2
62	F6	Ⅳ層	不整円形	0.19	0.12	0.06	0.04	0.16	水平堆積	2
63	F6	Ⅳ層	楕円形	0.24	0.1	0.07	0.04	0.14	凹状堆積	2
64	F6	Ⅳ層	不明	—	—	—	—	0.25	単一層	1
65	F6	Ⅳ層	楕円形	0.2	0.14	0.14	0.08	0.2	単一層	1
68	F5	Ⅳ層	円形	0.41	0.36	0.14	0.1	0.25	単一層	1
71	F5	Ⅳ層	円形	0.38	0.38	0.26	0.25	0.09	単一層	1
72	F5	Ⅳ層	円形	0.47	0.44	0.21	0.13	0.29	単一層	1
73	F5	Ⅳ層	円形	0.64	0.51	0.48	0.28	0.25	単一層	1
74	F5	Ⅳ層	不整円形	0.68	0.58	0.15	0.1	0.24	単一層	1
80	E4	Ⅳ層	不整楕円形	0.6	0.56	0.44	0.3	0.16	単一層	1
81	F4	Ⅳ層	楕円形	0.65	0.43	0.54	0.33	0.1	単一層	1
83	E6	Ⅳ層	楕円形	0.56	0.46	0.31	0.23	0.34	単一層	1
84	E6	Ⅳ層	楕円形	0.5	0.35	0.23	0.12	0.19	単一層	1
88	E6	Ⅳ層	不明	0.63	0.22	0.6	0.2	0.07	凹状堆積	4
91	D6	Ⅳ層	円形	0.38	0.35	0.28	0.26	0.08	単一層	1
92	D6	Ⅳ層	不明	0.47	—	0.25	0.21	0.26	柱痕状堆積	3
95	C6	Ⅳ層	不定形	0.35	0.3	0.13	0.1	0.18	単一層	1
98	B6	Ⅳ層	円形	0.41	0.3	0.21	0.17	0.17	凹状堆積	2
103	D5	Ⅳ層	楕円形	1.21	0.72	0.41	0.28	0.49	凹状堆積	3
104	D5	Ⅳ層	円形	0.33	0.3	0.13	—	0.17	柱痕状堆積	2
105	D5	Ⅳ層	不整円形	0.6	0.25	0.18	0.12	0.4	柱痕状堆積	2
106	D5	Ⅳ層	楕円形	0.31	0.25	0.16	0.12	0.19	単一層	1
107	D5	Ⅳ層	円形	0.28	0.23	0.13	0.09	0.18	単一層	1
108	D5	Ⅳ層	円形	0.28	0.24	0.2	0.16	0.16	凹状堆積	2
109	D5	Ⅳ層	円形	0.24	0.24	0.2	0.2	0.11	凹状堆積	2
110	C5	Ⅳ層	不整円形	0.37	0.35	0.32	0.3	0.33	凹状堆積	2
111	C5	Ⅳ層	楕円形	0.58	0.25	0.41	0.15	0.17	凹状堆積	2
113	B4	Ⅳ層	円形	0.66	0.55	0.42	0.36	0.12	凹状堆積	2
116	C3	Ⅳ層	不整楕円形	0.5	0.33	0.41	0.22	0.29	凹状堆積	2
117	D5	Ⅳ層	不整円形	0.51	0.49	0.4	0.35	0.14	凹状堆積	2
118	D4	Ⅳ層	不整楕円形	0.87	0.38	0.59	0.23	0.19	凹状堆積	2
125	D5	Ⅳ層	不定形	1.25	—	0.93	0.53	0.31	凹状堆積	2
126	F4	Ⅳ層	円形	0.77	0.69	0.38	0.34	0.41	凹状堆積	3
127	D3	Ⅳ層	不定形	0.88	0.8	0.53	0.42	0.16	水平堆積	3
128	E4	Ⅳ層	円形	0.3	0.22	0.23	0.2	0.35	柱痕状堆積	2
129	G6	Ⅳ層	円形	0.53	0.45	0.28	0.2	0.15	単一層	1
130	F6	Ⅳ層	不整円形	0.85	0.77	0.23	0.16	0.41	凹状堆積	3
132	D4	Ⅳ層	楕円形	0.85	0.7	0.63	0.46	0.17	水平堆積	2
134	D2	Ⅳ層	楕円形	0.44	0.33	0.21	0.15	0.1	水平堆積	2
135	D4	Ⅳ層	円形	0.45	0.36	0.24	0.22	0.2	水平堆積	2
136	D4	Ⅳ層	円形	0.4	0.4	0.34	0.3	0.12	単一層	1
137	D4	Ⅳ層	円形	0.34	0.3	0.09	0.05	0.19	単一層	1

表16　各土坑の属性一覧表④

土坑番号	地区名	検出層位	平面形	上端（m）		下端（m）		深さ（m）	覆土の状況	
				長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		堆積状況	堆積層
138	D4	Ⅳ層	不整円形	0.4	0.37	0.17	0.15	0.1	柱痕状堆積	2
139	D4	Ⅳ層	円形	0.34	0.3	0.15	0.13	0.14	柱痕状堆積	2
142	C3	Ⅳ層	円形	0.3	0.27	0.21	0.17	0.11	単一層	1
143	C4	Ⅳ層	不整楕円形	0.76	0.57	0.29	0.25	0.18	凹状堆積	2
144	C4	Ⅳ層	不整楕円形	0.67	0.45	0.3	0.28	0.17	凹状堆積	2
145	C4	Ⅳ層	不整円形	0.36	0.34	0.27	0.24	0.08	単一層	1
146	C4	Ⅳ層	円形	0.32	0.28	0.22	0.14	0.18	凹状堆積	2
147	B4	Ⅳ層	円形	0.3	0.27	0.17	0.1	0.14	凹状堆積	2
148	E4	Ⅳ層	不整円形	0.36	0.32	0.29	0.25	0.08	単一層	1
149	C5	Ⅳ層	円形	0.3	0.27	0.25	0.22	0.09	単一層	1
150	B6	Ⅳ層	不整楕円形	0.42	0.33	0.25	0.22	0.11	単一層	1
152	B3	Ⅳ層	不整円形	0.46	0.14	0.17	0.14	0.34	単一層	1
156	D6	Ⅳ層	不整円形	0.34	0.26	0.16	0.12	0.23	凹状堆積	2
158	G5	Ⅳ層	楕円形	0.34	0.28	0.24	0.18	0.13	単一層	1
162	H5	Ⅳ層	円形	0.2	—	0.13	—	0.03	—	—
163	H5	Ⅳ層	円形	0.27	0.27	0.1	0.1	0.13	単一層	1
164	H5	Ⅳ層	楕円形	0.4	0.34	0.18	0.13	0.11	単一層	1
165	H6	Ⅳ層	不整円形	0.24	0.16	0.1	0.06	0.24	—	—
167	G6	Ⅳ層	不整円形	0.3	0.27	0.18	0.15	0.38	—	—
168	G6	Ⅳ層	不整円形	0.28	0.25	0.19	0.15	0.2	—	—
169	H6	Ⅳ層	円形	0.14	0.14	0.07	0.06	0.28	—	—
170	H6	Ⅳ層	不整円形	0.31	0.22	0.1	0.08	0.18	単一層	1
171	G5	Ⅳ層	円形	0.57	0.43	0.32	0.23	0.18	水平堆積	2
174	H4	Ⅳ層	円形	0.32	0.32	0.16	0.15	0.26	凹状堆積	2
175	H6	Ⅳ層	不整楕円形	0.48	0.35	0.36	0.18	0.15	水平堆積	2
176	H6	Ⅳ層	円形	0.46	0.38	0.13	0.12	0.18	単一層	1
177	H6	Ⅳ層	不整円形	0.41	0.34	0.17	0.17	0.12	単一層	1
178	H6	Ⅳ層	不整円形	0.47	0.4	0.25	0.2	0.15	—	—
180	G6	Ⅳ層	円形	0.17	—	0.1	—	0.2	—	—
181	G6	Ⅳ層	円形	0.3	0.28	0.18	0.09	0.1	水平堆積	2
182	G6	Ⅳ層	不整円形	0.29	0.2	0.15	0.1	0.15	単一層	1
183	F6	Ⅳ層	楕円形	0.3	0.18	0.21	0.1	0.17	単一層	1
185	G5	Ⅳ層	円形	0.26	0.2	0.19	0.11	0.08	単一層	1
186	G5	Ⅳ層	円形	0.27	0.22	0.06	0.06	0.32	単一層	1
187	G6	Ⅳ層	楕円形	0.34	0.3	0.16	0.12	0.12	水平堆積	2
188	G6	Ⅳ層	楕円形	0.23	0.14	0.19	0.11	0.35	—	—
189	F6	Ⅳ層	楕円形	0.43	0.25	0.14	0.13	0.21	凹状堆積	2
190	F6	Ⅳ層	不整円形	0.31	0.27	0.17	0.14	0.18	単一層	1
191	F6	Ⅳ層	円形	0.2	0.17	0.07	0.1	0.12	単一層	1
192	F6	Ⅳ層	楕円形	0.3	0.21	0.21	0.13	0.09	単一層	1
193	F6	Ⅳ層	楕円形	0.2	0.12	0.09	0.06	0.1	単一層	1
197	G5	Ⅳ層	円形	0.27	0.21	0.05	0.05	0.45	単一層	1
198	F5	Ⅳ層	不整円形	0.37	0.35	0.17	0.15	0.09	水平堆積	2
199	F5	Ⅳ層	不定形	0.38	0.31	0.33	0.07	0.29	水平堆積	2
202	B5	Ⅳ層	不整楕円形	0.77	0.55	0.17	0.15	0.54	凹状堆積	2
204	A6	Ⅳ層	不整楕円形	0.38	0.32	0.22	0.18	0.09	水平堆積	2
205	A6	Ⅳ層	楕円形	0.36	0.25	0.14	0.1	0.26	柱痕状堆積	2
208	H4	Ⅳ層	円形	0.33	0.26	0.2	0.16	0.1	—	—
209	H4	Ⅳ層	円形	0.25	0.2	0.12	0.1	0.11	単一層	1
210	H5	Ⅳ層	円形	0.3	0.26	0.12	0.11	0.1	—	—
211	F6	Ⅳ層	円形	0.29	0.23	0.18	0.14	0.11	-	-
213	C6	Ⅳ層	不整円形	0.18	0.18	0.09	0.08	0.09	-	-
214	H5	Ⅳ層	楕円形	0.28	0.23	0.13	0.08	0.12	単一層	1
216	H6	Ⅳ層	円形	0.27	0.2	0.1	0.1	0.6	-	-
217	H6	Ⅳ層	楕円形	0.25	0.2	0.15	0.12	0.12	単一層	1
218	E6	Ⅳ層	円形	0.3	0.26	0.16	0.15	0.23	単一層	1
220	C6	Ⅳ層	不整円形	0.31	0.22	0.12	0.1	0.18	単一層	1
221	C6	Ⅳ層	円形	0.41	0.37	0.1	0.1	0.25	単一層	1
223	B6	Ⅳ層	円形	0.31	0.28	0.21	0.17	0.1	水平堆積	2
226	B6	Ⅳ層	円形	0.36	0.33	0.24	0.24	0.12	水平堆積	2
228	C6	Ⅳ層	円形	0.32	0.26	0.24	0.13	0.16	水平堆積	2
229	G5	Ⅳ層	楕円形	0.28	0.2	0.17	0.1	0.1	-	-
230	B5	Ⅳ層	不整楕円形	0.54	0.48	0.28	0.2	0.23	水平堆積	2
235	E6	Ⅳ層	円形	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	単一層	1
236	E6	Ⅳ層	円形	0.25	0.2	0.1	0.1	0.15	単一層	1
237	E6	Ⅳ層	楕円形	0.22	0.17	0.12	0.1	0.08	単一層	1

表17　各土坑の属性一覧表⑤

土坑番号	地区名	検出層位	平面形	上端（m）		下端（m）		深さ（m）	覆土の状況	
				長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		堆積状況	堆積層
238	E5	Ⅳ層	円形	0.3	0.22	0.18	0.12	0.12	単一層	1
239	E5	Ⅳ層	不整円形	0.33	0.25	0.16	0.09	0.14	単一層	1
240	E5	Ⅳ層	不整円形	0.36	0.31	0.2	0.18	0.1	単一層	1
241	E5	Ⅳ層	円形	0.23	0.15	0.1	-	0.08	-	-
248	H1	Ⅳ層	不明	-	-	-	-	-	-	-
250	G2	Ⅳ層	不整円形	0.4	0.25	0.25	0.18	0.09	-	-
251	G2	Ⅳ層	円形	0.35	0.25	0.2	0.12	0.08	-	-
253	G1	Ⅳ層	不整円形	1.06	0.94	0.6	0.48	0.37	凹状堆積	4
254	G1	Ⅳ層	不定形	0.25	0.15	0.2	0.1	0.02	-	-
256	G1	Ⅳ層	円形	0.3	0.24	0.21	0.16	0.11	単一層	1
257	H1	Ⅳ層	不整円形	0.7	0.65	0.15	0.12	0.12	-	-
258	G1	Ⅳ層	不整円形	0.35	0.26	0.18	0.14	0.1	-	-
260	G2	Ⅳ層	円形	0.26	0.25	0.14	0.14	0.08	-	-
261	G2	Ⅳ層	楕円形	0.27	0.25	0.17	0.09	0.21	-	-
262	G3	Ⅳ層	不整円形	0.1	0.08	0.03	0.03	-	-	-
263	G3	Ⅳ層	不整円形	0.2	0.15	0.09	0.06	-	-	-
265	F2	Ⅳ層	円形	0.4	0.34	0.21	0.18	0.25	柱痕状堆積	3
266	F2	Ⅳ層	不整円形	0.26	0.24	0.16	0.13	0.06	-	-
267	F2	Ⅳ層	円形	0.53	0.4	0.19	-	0.38	柱痕状堆積	3
271	G2	Ⅳ層	円形	0.25	0.23	0.05	0.05	0.07	-	-
272	G2	Ⅳ層	不整楕円形	0.56	0.24	-	-	0.15	-	-
273	F2	Ⅳ層	不定形	0.6	0.32	0.51	0.24	0.15	-	-
275	G1	Ⅳ層	不整楕円形	0.66	0.3	0.5	0.16	0.1	-	-
276	F1	Ⅳ層	楕円形	0.3	0.25	0.15	0.15	0.29	-	-
277	F1	Ⅳ層	楕円形	0.35	0.3	0.25	0.15	0.14	-	-
278	F1	Ⅳ層	不明	-	-	-	-	0.05	-	-
279	F1	Ⅳ層	不定形	0.95	0.66	0.45	0.44	0.19	-	-
280	F1	Ⅳ層	不整円形	0.2	0.15	0.15	0.07	0.03	-	-
281	H1	Ⅳ層	円形	0.2	0.17	0.09	0.09	0.26	-	-
284	E2	Ⅳ層	不整楕円形	0.32	0.25	0.22	0.15	0.2	-	-
295	E1	Ⅳ層	不整円形	0.3	0.25	0.1	0.08	0.16	凹状堆積	2
296	E1	Ⅳ層	不整長楕円形	0.6	0.22	0.12	0.08	0.16	-	-
297	F1	Ⅳ層	不整円形	0.3	0.25	0.1	0.06	0.09	-	-
300	E2	Ⅳ層	不整楕円形	0.2	0.1	0.15	0.06	0.1	-	-
301	E2	Ⅳ層	楕円形	0.17	0.12	0.1	0.06	0.13	-	-
305	E1	Ⅳ層	円形	0.3	0.25	0.25	0.12	0.19	-	-
306	E1	Ⅳ層	円形	0.32	0.26	0.16	0.14	0.12	単一層	1
308	C2	Ⅳ層	不整楕円形	0.41	0.35	0.2	0.16	0.21	水平堆積	2
312	C2	Ⅳ層	不整円形	0.18	0.15	0.09	0.09	0.18	単一層	1
317	C1	Ⅳ層	不整円形	0.32	0.28	0.14	0.1	0.12	単一層	1
323	B1	Ⅳ層	不明	測定不能	0.16	測定不能	0.06	0.11	-	-
324	B1	Ⅳ層	不整楕円形	0.72	0.58	0.58	0.43	0.04	-	-
325	C2	Ⅳ層	不整円形	0.67	0.66	0.24	0.24	0.26	凹状堆積	2
327	D2	Ⅳ層	不明	-	-	-	-	-	-	-
328	D2	Ⅳ層	不整円形	0.18	0.16	0.12	0.1	0.09	-	-
329	A1	Ⅳ層	円形	1.21	1.21	0.99	0.98	0.27	-	-
330	A1	Ⅳ層	不定形	測定不能	0.38	0.18	0.18	-	-	-
331	C3	Ⅳ層	円形	0.33	0.3	0.21	0.2	0.14	凹状堆積	2
334	B3	Ⅳ層	不整円形	0.86	0.64	0.56	0.37	0.09	-	-
335	A2	Ⅳ層	不整円形	0.58	0.5	0.24	0.2	0.28	-	-
339	A2	Ⅳ層	楕円形	0.47	0.42	0.21	0.11	0.2	単一層	1
340	A2	Ⅳ層	楕円形	0.36	0.23	0.18	0.12	0.16	凹状堆積	2
342	A2	Ⅳ層	不整楕円形	0.5	0.4	0.32	0.22	0.13	水平堆積	2
343	A2	Ⅳ層	不整楕円形	0.62	0.43	0.39	0.27	0.13	凹状堆積	3
345	G4	Ⅳ層	楕円形	0.33	0.26	0.24	0.11	0.19	柱痕状堆積	2
348	G4	Ⅳ層	楕円形	0.29	0.16	0.23	0.12	0.06	単一層	1
349	G4	Ⅳ層	不整楕円形	0.42	0.25	0.3	0.15	0.04	単一層	1
350	G4	Ⅳ層	不整楕円形	0.24	0.13	0.16	0.08	0.22	単一層	1
351	G4	Ⅳ層	円形	0.28	0.25	0.2	0.19	0.08	水平堆積	2
352	F3	Ⅳ層	不整楕円形	0.32	0.2	0.1	0.1	0.06	単一層	1
353	F3	Ⅳ層	不整円形	0.24	0.17	0.1	0.07	0.13	凹状堆積	2
355	F3	Ⅳ層	円形	0.15	0.14	0.11	0.09	0.05	単一層	1
356	F3	Ⅳ層	楕円形	0.24	0.19	0.12	0.08	0.09	単一層	1
360	F3	Ⅳ層	楕円形	0.16	0.15	0.04	0.04	0.05	-	-
361	F3	Ⅳ層	楕円形	0.19	0.14	0.08	0.05	0.3	凹状堆積	2
362	G3	Ⅳ層	円形	0.5	0.36	0.3	0.23	0.1	単一層	1

表18　各土坑の属性一覧表⑥

土坑番号	地区名	検出層位	平面形	上端（m）		下端（m）		深さ（m）	覆土の状況	
				長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		堆積状況	堆積層
363	F3	Ⅳ層	不整円形	0.41	0.33	0.16	0.1	0.2	単一層	1
364	F3	Ⅳ層	不整円形	0.34	0.24	0.2	0.1	0.17	単一層	1
365	F3	Ⅳ層	不整楕円形	0.42	0.35	0.19	0.18	0.12	単一層	1
366	F4	Ⅳ層	円形	0.18	0.15	0.1	0.06	0.17	柱痕状堆積	2
367	F4	Ⅳ層	不整円形	0.27	0.2	0.16	0.07	0.09	単一層	1
368	F4	Ⅳ層	楕円形	0.26	0.14	0.1	0.08	0.17	凹状堆積	2
369	E4	Ⅳ層	楕円形	0.14	0.1	0.05	0.04		単一層	1
370	F4	Ⅳ層	楕円形	0.2	0.16	0.08	0.05	0.15	単一層	1
371	F4	Ⅳ層	円形	0.18	0.16	0.06	0.06	0.1	単一層	1
373	G4	Ⅳ層	楕円形	0.6	0.23	0.46	0.1	0.16	単一層	1
374	G4	Ⅳ層	不整円形	0.2	0.15	0.12	0.12	0.13	単一層	1
376	F5	Ⅳ層	円形	0.18	0.5	0.15	0.05	0.1	単一層	1
377	F3	Ⅳ層	不整円形	0.24	0.16	0.1	0.06	0.1	単一層	1
388	D6	Ⅳ層	不整円形	0.31	0.3	0.2	0.18	0.24	—	—
390	I 5	Ⅳ層	不整円形	—	—	0.1	0.05	—	—	—
401	C5	Ⅳ層	不明	—	—	—	—	—	—	—
402	C4	Ⅳ層	不整楕円形	0.45	0.3	0.2	0.13	—	—	—
403	C4	Ⅳ層	不明	—	—	—	—	—	—	—
420	C1	Ⅳ層	円形	0.16	0.14	0.04	0.03	0.05	—	—
423	C1	Ⅳ層	不定形	0.22	0.14	0.16	0.08	0.05	—	—
425	C1	Ⅳ層	楕円形	0.18	0.15	0.03	0.03	0.12	—	—
432	B1	Ⅳ層	楕円形	0.25	0.12	0.18	0.06	0.07	—	—
433	B1	Ⅳ層	円形	0.12	0.11	0.08	0.07	0.09	—	—
434	B1	Ⅳ層	楕円形	0.18	0.08	0.05	0.03	0.04	—	—
435	B1	Ⅳ層	不定形	0.3	0.1	0.21	0.06	0.07	—	—
436	B1	Ⅳ層	円形	0.1	0.1	0.05	0.05	—	—	—
437	B1	Ⅳ層	円形	0.3	0.3	0.1	0.1	0.15	—	—
444	C2	Ⅳ層	楕円形	0.15	0.11	0.06	0.05	0.12	—	—
447	D3	Ⅳ層	不整楕円形	0.45	0.3	0.18	0.15	0.25	—	—

第3節　溝・トレンチ・包含層出土の遺物

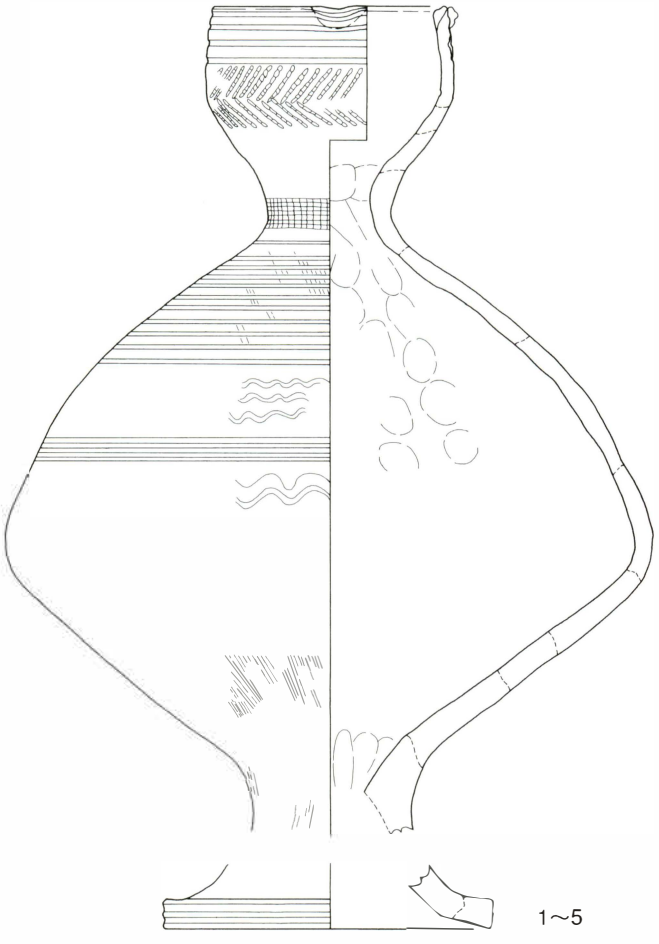
前節では主な遺構と遺物を説明したが、本節では溝・トレンチ・包含層から出土した遺物を一括して述べる。

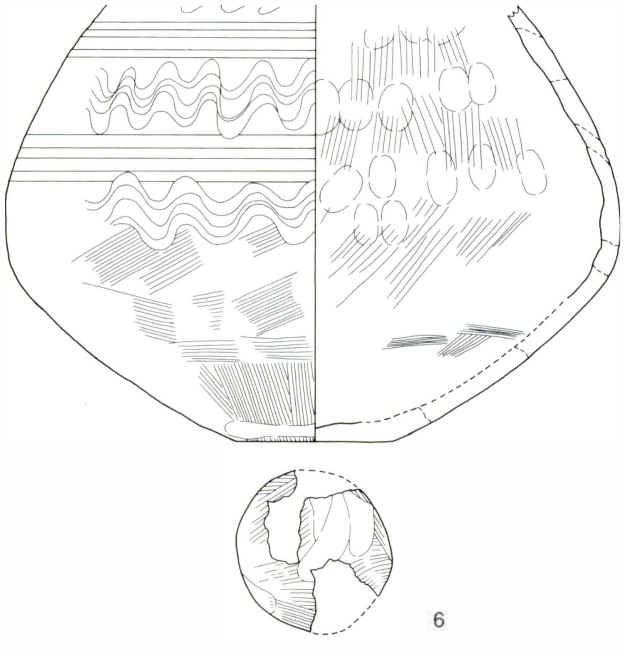
弥生土器（図29 34～39）

34・39は、溝2から出土した。34は、叩き痕の残る甕。外面に煤が付着する。39は、太頸壺の頸部と思われる。35・38は、トレンチ4から出土した細頸壺の口縁部片。35は、口縁に凹線（確認出来るのは4本を施す）。38は、櫛描の波状文・直線文を描く。36・37は、Ⅳ層中出土の遺物。細片ではあるが、36は細頸壺の頸部、37は壺の口縁と思われる。突帯下に櫛描の波状文・列点文を描く。

石器（図30 40・44、図31 47）

40は、溝3出土の小型剥片石器。両端は破損している。44は、B7区出土の石核。長方形の角礫を利用し、節理面を打面として縦長の剥片を作出する。47は、D2区出土の打製石斧。横長の剥片を素材とし、側辺を折りとるように直線的に成形している。





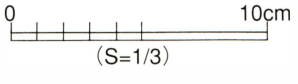


図27　出土遺物（1）弥生土器①

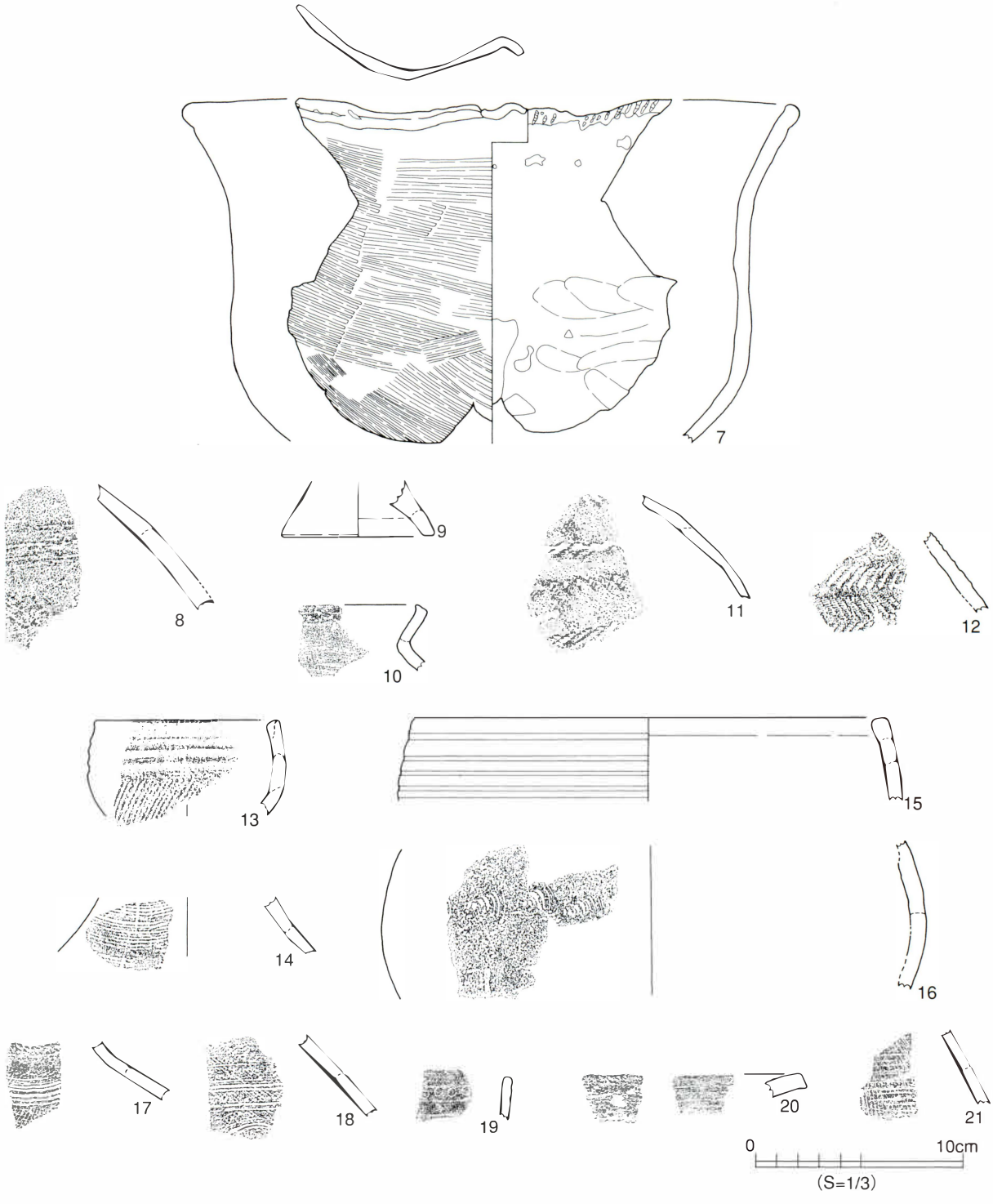


図28　出土遺物（2）弥生土器②

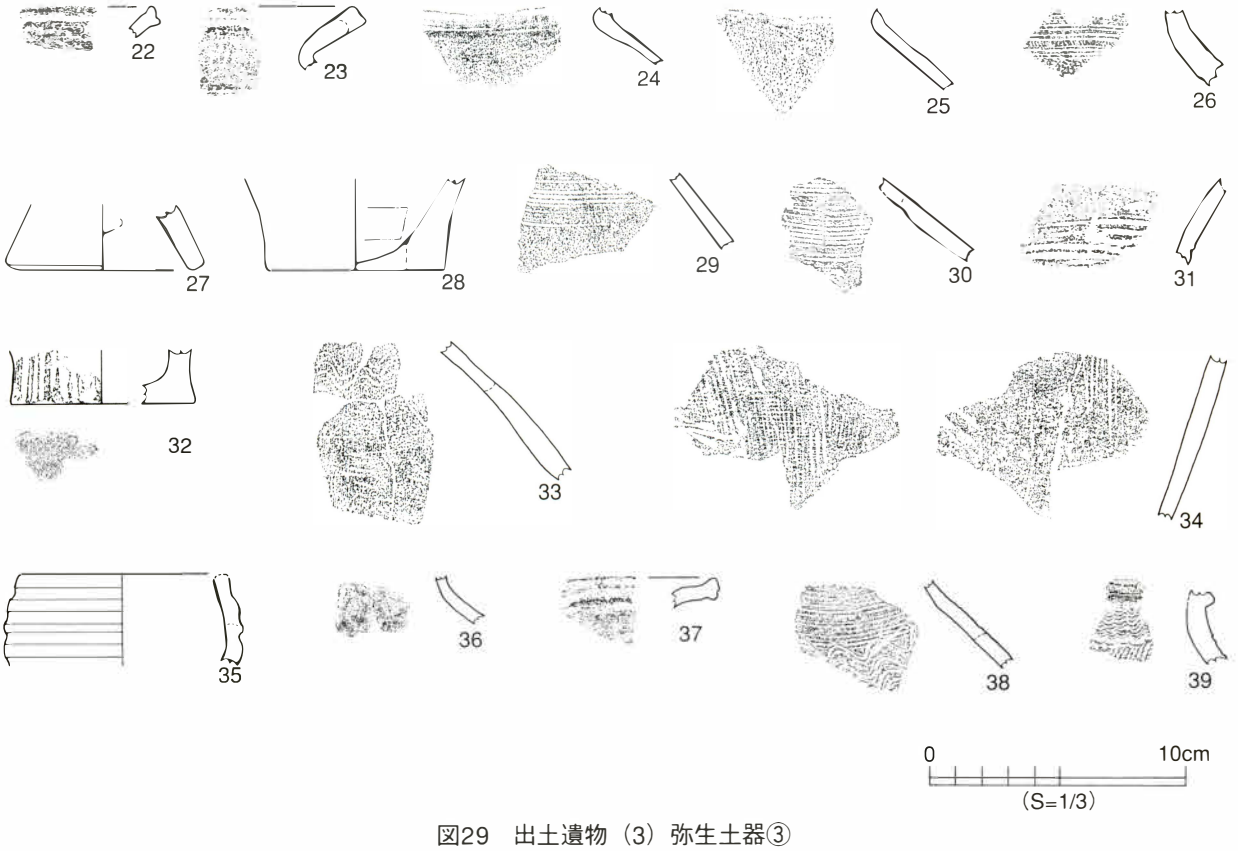


図29　出土遺物（3）弥生土器③

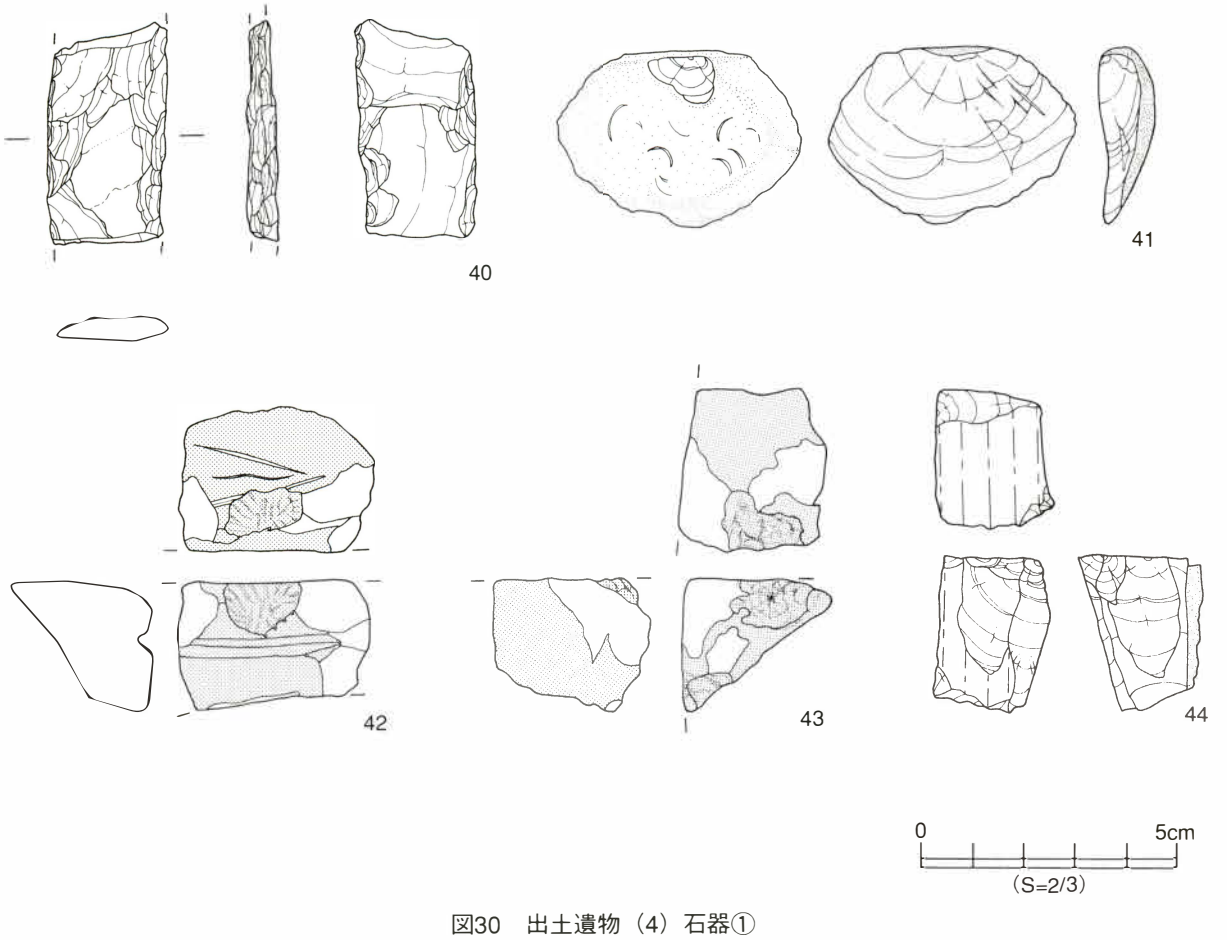
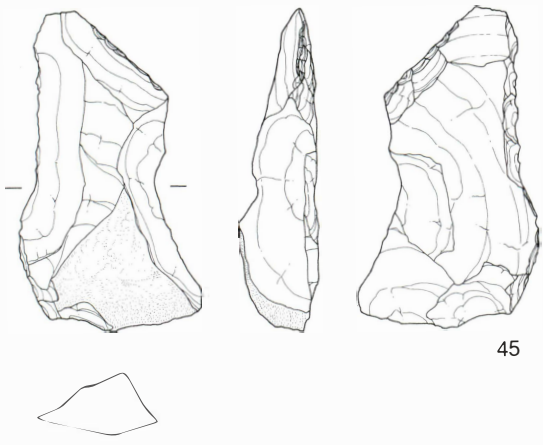
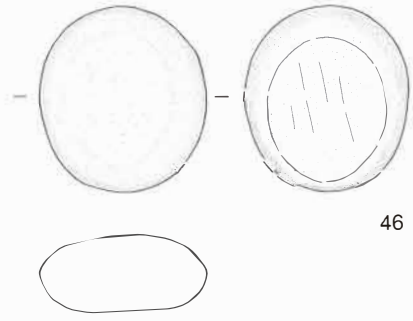
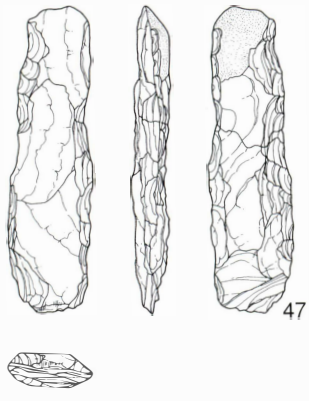
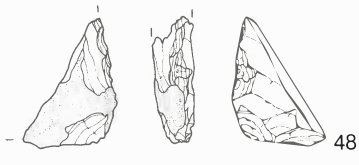


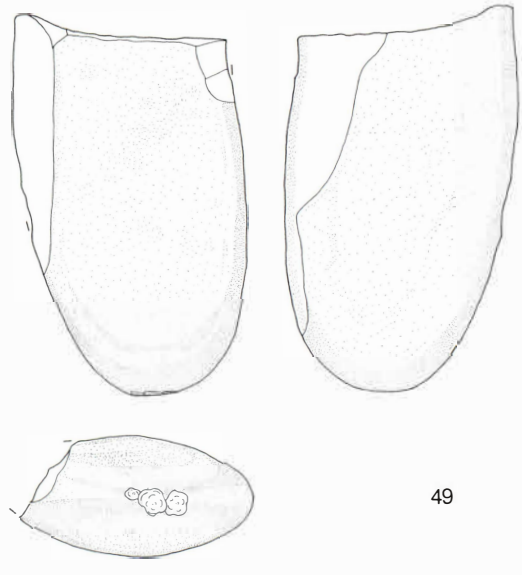
図30　出土遺物（4）石器①

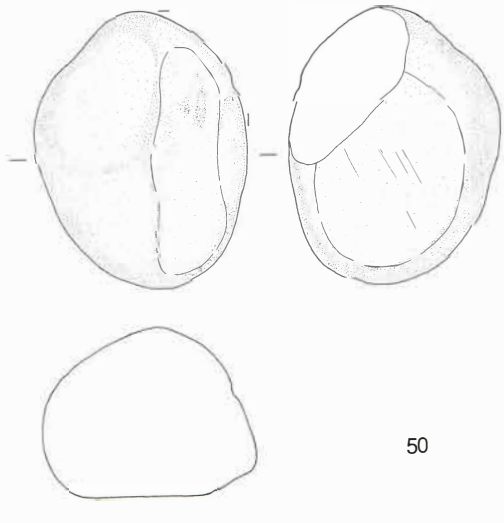












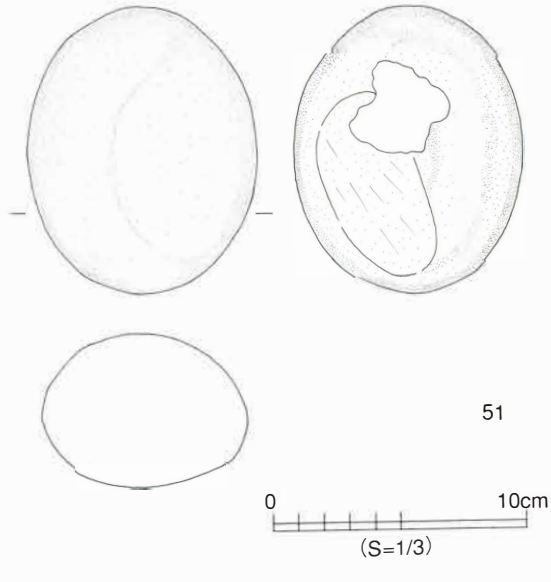


図31　出土遺物（5）石器②

表19　弥生土器観察表

報告書番号	遺構・地区	器種	取上番号	法量（cm）				整形・調整 外面：内面	胎土	焼成	色調 外面：内面、（）内断面	残存率 （×／12）	その他
				口径	器高	底径	最大幅						
1	竪穴住居跡1（SK354）	細頸壺	288	(9.3)	—	—	—	頸部､ﾅﾃﾞ:口縁部横方向のﾅﾃﾞ、頸部指ｵｻｴ	極小（7%）、長石･石英を含む。	良好	橙色：にぶい黄橙色	6.5	口縁部凹線文4条、羽状櫛描文、頸部櫛描簾状文、櫛描横線文11本
2	竪穴住居跡1	細頸壺	72	—	—	—	—	縦方向のﾊｹﾒ:指ｵｻｴ	極小（7%）、長石･石英を含む。	良好	橙色：にぶい黄橙色		櫛描直線文20本、櫛描波状文、櫛描直線文6本
3	竪穴住居跡1	細頸壺	188	—	—	—	(25.4)	不明:不明	極小（7%）、長石･石英を含む。	良好	橙色：にぶい黄橙色		櫛描直線文、櫛描波状文
4	竪穴住居跡1	細頸壺	188	—	—	—	—	縦方向のﾊｹﾒ:指ｵｻｴ（ｼﾎﾞﾘ）	極小（7%）、長石･石英を含む。	良好	橙色：にぶい黄橙色		
5	竪穴住居跡1	細頸壺	76	—	—	(13.0)	—	横方向のﾅﾃﾞ:不明	極小（7%）、長石･石英を含む。	良好	橙色：にぶい黄橙色		底部端部凹状文2本
6	竪穴住居跡1（SK354）	細頸壺	291	—	—	6.3	(24.1)	胴部指ﾅﾃﾞ後縦方向のﾊｹﾒ､底部ﾊｹﾒ､指ﾅﾃﾞ：指ﾅﾃﾞ後縦方向のﾊｹﾒ､横方向のﾊｹﾒ､指ｵｻｴ	極小（3%）、長石を含む。	良好	橙色：にぶい赤褐色、暗灰		櫛描直線文、櫛描波状文
7	竪穴住居跡1	条痕系甕	88	(29.9)	—	—	(25.2)	条痕:指ﾅﾃﾞ	極小（7%）、長石･石英を含む。	良好	明赤褐色：黄灰色、（黄灰色）	3.0	内面付着物有り、口縁内面櫛描列点文
8	竪穴住居跡1（SK354）	細頸壺	264	—	—	—	—	縦方向のﾊｹﾒ	小（1%）、長石を含む。	良好	橙色：橙色		櫛描直線文、波状文（5本単位）
9	竪穴住居跡1	台付甕	252	—	—	(7.4)	—	横方向のﾅﾃﾞ:横方向のﾅﾃﾞ	極小（10%）、長石･石英を含む。	良好	橙色：橙色		
10	竪穴住居跡1	甕	80	—	—	—	—	横方向のﾅﾃﾞ:横方向のﾅﾃﾞ	極小（3%）、長石･石英を含む。	良好	灰黄褐色：灰黄褐色		口縁端部に刻み文
11	竪穴住居跡1	壺	232	—	—	—	—	上から下への斜めのﾅﾃﾞ、指頭圧痕	小（7%）、長石･石英を含む。	良好	橙色：橙色		羽状櫛描文
12	溝1	壺	143	—	—	—	—	横方向のﾅﾃﾞ、指頭圧痕	小（3%）、長石･石英を含む。	良好	橙色：浅黄色		羽状櫛描文
13	竪穴住居跡1	細頸壺	91	(8.85)	—	—	—	横方向のﾅﾃﾞ:横方向のﾅﾃﾞ、指ｵｻｴ	小（3%）、長石を含む。	良好	にぶい橙色：淡赤橙色	2.0	凹線文4本、櫛描直線文
14	竪穴住居跡1	細頸壺	119	—	—	—	—	縦方向のﾊｹﾒ:不明	小（5%）、長石を含む。	良好	にぶい橙色：にぶい黄橙色		横線文
15	竪穴住居跡1	高坏又は浅鉢	223	(23.1)	—	—	—	横方向のﾅﾃﾞ:横方向のﾅﾃﾞ	小(7%)、長石･石英を含む。	良好	橙色：橙色	0.9	凹線文5条
16	竪穴住居跡1	高坏又は浅鉢	156	—	—	—	(28.6)	縦方向のﾊｹﾒ:不明	小（10%）、長石を含む。	良好	明赤褐色：にぶい橙色		扇形文
17	竪穴住居跡1	細頸壺	161	—	—	—	—	縦方向のﾊｹﾒ:縦方向のﾊｹﾒ	小（3%）、長石を含む。	良好	橙色：にぶい橙色		櫛描直線文7条
18	竪穴住居跡1	細頸壺	257	—	—	—	—	縦方向のﾊｹﾒ:縦方向のﾊｹﾒ	小（5%）、長石を含む。	良好	黒色：にぶい黄橙色		櫛描直線文、波状文
19	竪穴住居跡1	不明	74	—	—	—	—	横方向のﾅﾃﾞ:横方向のﾅﾃﾞ	極小（3%）、長石を含む。	良好	浅黄橙色：浅黄橙色		竹管文
20	竪穴住居跡1	壺底	75	—	—	—	—	横方向のﾅﾃﾞ:横方向のﾅﾃﾞ	極小（3%）、長石を含む。	良好	にぶい黄橙色：灰黄褐色		口縁端部刻み文
21	溝1	甕	147	—	—	—	—	ﾀﾀｷ:縦方向の板ﾅﾃﾞ	小（3%）、長石を含む。	良好	にぶい橙色：黄灰色		
22	倒木痕1（SK102）	甕	49	—	—	—	—	横方向のﾅﾃﾞ:横方向のﾅﾃﾞ	小（2%）、長石･石英･角閃石を含む。	良好	にぶい橙色：にぶい橙色		
23	倒木痕1（SK102）	甕	26	—	—	—	—	横方向のﾅﾃﾞ:横方向のﾅﾃﾞ	小（2%）、長石･石英を含む。	良好	橙色：橙色		
24	倒木痕1（SK102）	壺	19	—	—	—	—	横方向のﾅﾃﾞ:横方向のﾅﾃﾞ	極小（7%）、長石を含む。	良好	にぶい橙色：にぶい橙色		
25	倒木痕1（SK102）	壺	10	—	—	—	—	不明:不明	小（10%）、長石･石英を含む。	良好	橙色：にぶい橙色		
26	倒木痕2（SK112）	壺	278	—	—	—	—	ﾊｹﾒ:不明	極小（3%）長石を含む。	良好	明赤褐色：橙色		櫛描直線文、列点文
27	倒木痕2（SK102）	台付甕	64	—	—	(7.8)	—	不明:横方向のﾅﾃﾞ、指ｵｻｴ	小（10%）、長石･石英を含む。	良好	明赤褐色：明赤褐色		
28	倒木痕2（SK102）	甕	46	—	—	(7.0)	—	不明:板ﾅﾃﾞ	極小（10%）、長石･石英を含む。	良好	橙色：黒褐色		
29	倒木痕2（SK112）	細頸壺	281	—	—	—	—	縦方向のﾊｹﾒ:縦方向のﾊｹﾒ	極小（5%）、長石を含む。	良好	浅黄色：浅黄色		櫛描直線文
30	倒木痕2（SK112）	細頸壺	274	—	—	—	—	ﾊｹﾒ:縦方向のﾅﾃﾞ、指頭圧痕	小（3%）、長石を含む。	良好	橙色：にぶい橙色		櫛描直線文
31	倒木痕2（SK112）	条痕系甕	274	—	—	—	—	横方向の貝殻条痕:横方向のﾅﾃﾞ	極小（3%）長石を含む。	良好	橙色：橙色		
32	倒木痕2（SK112）	条痕系甕	279	—	—	(7.3)	—	縦方向の貝殻条痕:横方向のﾅﾃﾞ	極小（4%）長石を含む。	良好	橙色：橙色		底部網代痕
33	竪穴住居跡1（SK354）	細頸壺	294	—	—	—	—	縦方向のﾊｹﾒ:縦方向のﾊｹﾒ、指ｵｻｴ	極小（3%）、長石を含む。	良好	浅黄色：浅黄色		櫛描直線文、櫛描波状文
34	溝2	壺底	291	—	—	—	—	ﾀﾀｷ:縦方向のﾊｹﾒ	小（3%）、長石を含む。	良好	橙色：橙色		炭化物付着（外面）
35	ﾄﾚﾝﾁ4	細頸壺	1	(8.2)	—	—	—	横ﾅﾃﾞ:横ﾅﾃﾞ	小（10%）、長石･石英を含む。	良好	浅黄橙色：橙色	2.0	凹線文
36	C4	細頸壺	45	—	—	—	—	縦方向のﾊｹﾒ:横方向のﾅﾃﾞ	小（5%）、長石を含む。	良好	浅黄橙色：橙色		
37	F5	壺	166	—	—	—	—	横方向のﾅﾃﾞ:横方向のﾅﾃﾞ	極小（1%）、長石･石英を含む。	良好	明赤褐色：橙色		口縁端部櫛描横線文
38	ﾄﾚﾝﾁ4	細頸壺	4	—	—	—	—	横方向のﾅﾃﾞ	極小（2%）、長石を含む。	良好	浅黄色：浅黄色		櫛描直線文、櫛描波状文、炭化物付着（外面）
39	X30	太頸壺	X30	—	—	—	—	横方向のﾅﾃﾞ:縦方向のﾅﾃﾞ	極小（2%）、長石を含む。	良好	浅黄色：浅黄色		突帯下に櫛描波状文、櫛描列点文

表20　石器観察表

遺物番号	遺構・地区	時期	種　別	取上番号	枝番号	石　材	法　量				礫面の有　無	欠損部位	その他
							長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	質量（g）			
40	SD3	Ⅰ期	打製石斧	241		泥岩	4.3	2.35	0.65	8	無	欠	
41	竪穴住居1	Ⅰ期	剥片	191		下呂石	4.8	3.45	1.1	14	有（円）	完	
42	竪穴住居1	Ⅰ期	石製品	159	1	凝灰質シルト岩	3.7	2.5	2.8	12	不明	欠	鋳型の可能性あり
43	竪穴住居1	Ⅰ期	石製品	163		凝灰質シルト岩	2.9	2.6	3.1	10	不明	欠	鋳型の可能性あり
44	B7	Ⅰ期	石核	60		チャート	3.1	2.3	2.5	27	有（角）	完	
45	竪穴住居1	Ⅰ期	粗製石器	239		泥岩	12.5	7.3	3.1	234	有（円）	完	
46	竪穴住居1	Ⅰ期	磨石	194		安山岩	7.3	6.5	3	193	有（円）	完	
47	D2	Ⅰ期	打製石斧	64		泥岩	12	3.4	1.5	74	有（円）	完	
48	D2	Ⅰ期	打製石斧	216		泥岩	5	3.7	1.6	21	有（円）	欠	
49	竪穴住居1	Ⅰ期	叩石	249		砂岩	15.1	9.1	4.8	952	有（円）	欠	
50	竪穴住居1	Ⅰ期	磨石	272		砂岩	12.3	8.4	6.7	740	有（円）	欠	
51	SK112	Ⅰ期	磨石	266		花崗岩	11.1	9	6.1	906	有（円）	完	

※礫面の有無の欄の（　）が「円」の場合は円礫を、「角」の場合は角礫を示す。

第 5 章　自然科学分析

第 1 節　藤田坂遺跡の自然遺物

竪穴住居跡 1 から炭化物が10点出土した。内訳は住居跡覆土中から 8 点、炉跡から 2 点である。このうち、炉跡出土の炭化材 1 点の出土炭化材放射線炭素年代測定と分析を依頼した（第 2 節）。

この他に、竪穴住居跡 1 出土の弥生土器（条痕甕）の蛍光X線分析を依頼した。

この土器の表面は赤化し、器形は被熱による歪みが生じていた。口縁部内外面には白色物質が発泡した状態で観察できた。この土器の赤化と歪みの原因は焼成時以後の高温被熱であり、用途として、金属器等の鋳造道具である「取瓶」として使われた可能性[1]がある。金属物質の付着等を確認するために口縁部内外面の蛍光X線分析を行った（第 3 節）。

以下、その結果を報告する。

第 2 節　竪穴住居跡 1 出土炭化材の年代測定

山形 秀樹（パレオ・ラボ）

1　はじめに

竪穴住居跡 1 の炉（SK354）から検出された炭化材の加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を実施した。

2　試料と方法

試料は、SK354（竪穴住居跡 1 の炉）1 層から出土した炭化材1点である。

試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨（グラファイト）に調整した後、加速器質量分析計（AMS）にて測定した。測定された^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した^{14}C濃度を用いて^{14}C年代を算出した。

3　結果

表 1 に、試料の同位体分別効果の補正値（基準値-25.0‰）、同位体分別効果による測定誤差を補正した^{14}C年代、^{14}C年代を暦年代に較正した年代を示す。

^{14}C年代値（yrBP）の算出は、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。これは、試料の^{14}C年代が、その^{14}C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

註

1）井藤氏に御教示による。

表21　放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

測定番号（測定法）	試料データ	$\delta^{13}C$（‰）	^{14}C年代（yrBP±1σ）	14C年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正値	1σ暦年代範囲
PLD-1647（AMS）	炭化材 FZ●1 SK354 1層 遺物番号227	-33.7	2140±30	cal BC 195 cal BC 175	cal BC 340 - 325 （14.2%） cal BC 200 - 145 （63.9%） cal BC 140 - 115 （26.5%）

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±40年）を較正し、より正確な年代を求めるために、^{14}C年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と^{14}C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて^{14}C年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて14C年代を暦年代に較正した年代を算出する。

^{14}C年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3（CALIB 3.0のバージョンアップ版）を使用した。なお、暦年代較正値は^{14}C年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、1σ暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその1σ暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。1σ暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲については、表中に影付け部分で示した。

4　考察

試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行なった。暦年代較正した1σ暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、SK354の1層から出土した炭化材はcal BC 200 - 145年が、より確かな年代値の範囲として示された。

引用文献

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎.日本先史時代の^{14}C年代、p.3-20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J.（1993）Extended ^{14}C Database and Revised CALIB3.0 ^{14}C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

Stuiver,M., Reimer,P.J., Bard,E., Beck,J.W., Burr,G.S., Hughen,K.A., Kromer,B., McCormac,F.G., v.d. Plicht,J., and Spurk,M.（1998）INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

第３節　竪穴住居跡１出土の弥生土器の蛍光Ｘ線分析について

口縁部外側（写真①）と口縁部内側（写真②）の蛍光Ｘ線分析を行った。結果、いずれも鉄（Fe）が比較的高い傾向となった。しかしながら、肉眼的に金属質の鉄分が付着するといった状況でないことから、製鉄に関わるものとは言い難い。なお、口縁部内側の白色質部からカルシウム（Ca）が比較的高いピークで検出されたが如何なる起源のものかは特定できなかった。発泡の際に胎土内部から表面に析出したとは考えられないことから、発泡する際に二次的に付着したものと予想される。

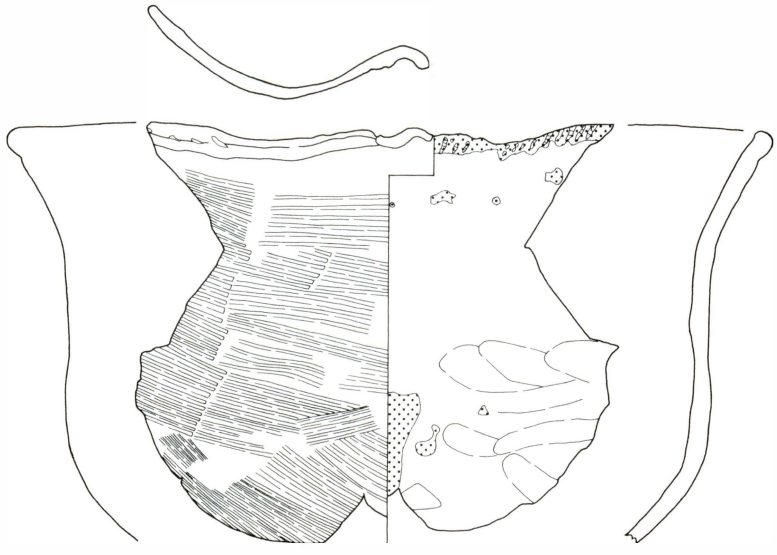


図32　竪穴住居跡１出土の弥生土器

写真7　口縁部外面

写真8　口縁部内面

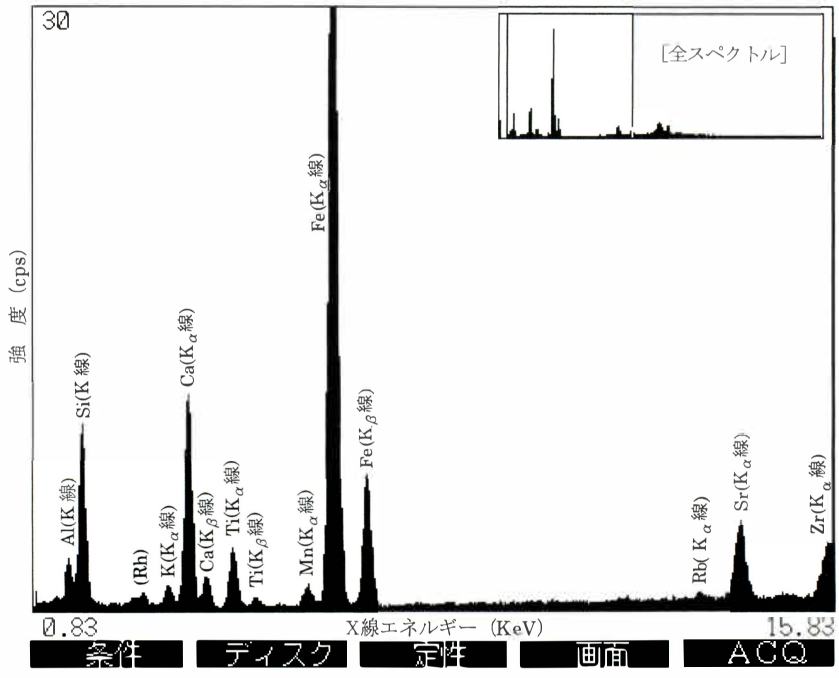


図33　竪穴住居跡1出土弥生土器外面付着物の
蛍光X線スペクトル図

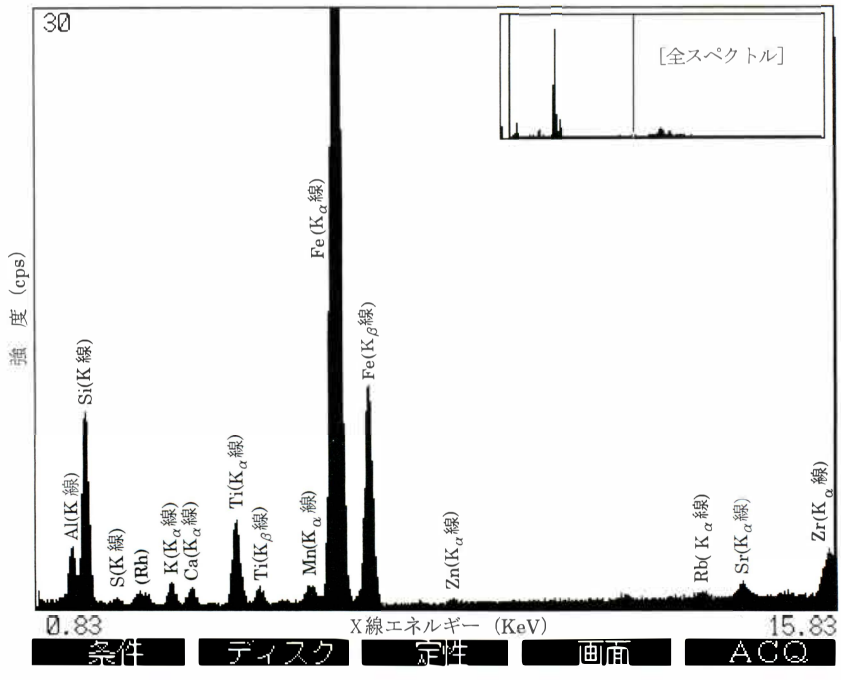


図34　竪穴住居跡1出土弥生土器内面付着物の
蛍光X線スペクトル図

第6章　まとめ

1　出土遺物について

藤田坂遺跡では、土器1,002点（接合前の破片数）、石器32点が出土した。

土器は山茶碗1点を除くと、すべて弥生土器であり、その内訳は細頸壺・壺類・甕（条痕・ハケ目）・浅鉢（もしくは高坏）である。破片数の比率（接合前）は、細頸壺（約60％）・壺類（約4％）・甕（条痕）（約3％）・甕（ハケ目）（約1％）・浅鉢（もしくは高坏）（約1％）・不明（31％）となる。これとは別に、直径1センチ以上の土器片を対象に胎土・調整・色調・文様の観察と遺物の出土状況をふまえて個体識別を行ったが、器種別の比率は、細頸壺8個体（約47％）・壺類1個体（約6％）・甕2個体（約12％）・甕（ハケ目）2個体（約12％）・浅鉢（もしくは高坏）1個体（約6％）、器種不明3個体（17％）である。若干の変動はあるものの、細頸壺が最も多いことが分かる。この細頸壺の特徴は、口縁部には凹線文が巡り、頸部がやや寸詰まりとなるものが多いことである。また、胴部下半はやや張り出し、算盤状になる。底部は、脚が付くタイプ（1～5）と付かないタイプ（6）が見られる。

次に出土量が多いものは不明とした土器であるが、これは直径1センチ前後の細片や器面が摩耗した状態の土器をまとめている。不明とした土器は、胎土・器厚が細頸壺・壺と類似し、出土分布もその大半重なることから、壺類の一部に含めるべき資料かもしれない。このほかに、外面に条痕調整を施し、口縁内面に巡る列点文（7）、底部外面の布目圧痕（32）を特徴とする甕と口縁部がくの字に外反し、タタキ痕のある甕、口縁部に凹線が巡る浅鉢もしくは高坏が伴う。これらの土器は、藤田編年で美濃西部Ⅳ－2様式にほぼ収まる。

石器は32点と少量で、内訳は打製石斧3点（約10％）・粗製石器1点（約3％）・小型剥片石器（約3％）・敲石1点（約3％）・磨石1点（約3％）・石製品3点（約9％）・RF3点（9％）・UF（6％）・剥片（44％）・石核（1％）である。出土状況から弥生時代の遺物と思われる。石材は、泥岩・砂岩・下呂石（湯ヶ峰流紋岩）・安山岩・花崗岩・凝灰質シルト岩である。原礫面を観察したところ、44のチャート製の石核が角礫面を残す以外はすべて円礫であり、石器素材のほとんどが、河原から調達したことが分かる。円礫面を残す石器のうち、41は下呂石（湯ヶ峰流紋岩）製である。直径10cm以下で原礫面に爪を多く残すことから、木曽川流域の今渡付近で採集可能なものと思われる。その他の石材も木曽川で採取されることから、在地の石材を利用して製作されたことが分かる。

器種別にみると、打製石斧・小型剥片石器は泥岩、磨石・敲石は砂岩・安山岩・花崗岩を利用している。

2　遺物の出土状況について

土器の出土状況は、竪穴住居跡1に伴うものが全体の9割近く占める。土器を器種別にみると、比率は細頸壺（66％）・壺（4％）・甕（条痕）（2％）・浅鉢もしくは高坏（1％）・不明（27％）となる。甕（ハケ目）は見られないが、竪穴住居跡1を横切る現代の溝1より出土しているため、本来は伴うものであろう。出土状況は、細頸壺・壺・甕（条痕）いずれも、竪穴住居跡1の炉（SK356）及びその上面にまとまっていた。これらの多くは被熱を受け、赤化していた。ほとんどの

土器片は、器表面だけではなく断面も同じように赤化することから、廃棄後に被熱を受けたものと思われる。ただし甕（条痕）（7）は、全体が非常に高い温度で被熱したかのような赤化・器形の歪みが激しい。土器の口縁部は内側に歪み、口縁部内面と胴部内面の表面には発泡したかのような白い物質が付着していた。土器破片の断面には白い発泡物質が及ばないことから、使用時に付着したものと思われる。土器を高温度で使用するものとして取瓶の可能性も考えられたため、付着物の成分分析（第5章第3節）を行ったが、この結果、白色物質はカルシウムと判断され、金属物質は検出されなかった。しかしながら、この土器の他に竪穴住居跡1からは、鋳型の可能性のある石製品（42・43）も出土しているため、高温で使用される土器がいかなる用途であったかは類例を待ちたい。

この他、竪穴住居跡2・竪穴住居跡3付近の倒木痕で出土量が多い傾向がみられた。竪穴住居跡に伴う土器と思われるが、どちらに帰属するかは不明である。

石器の出土状況は、竪穴住居跡1に伴うものが全体の約半分を占める。内訳は、粗製石器1点・敲石1点・磨石2点・石製品3点・RF1点・UF1点・剥片5点となる。

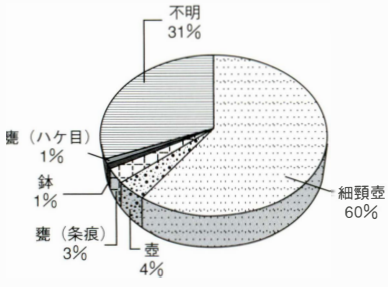


図35　弥生土器組成図

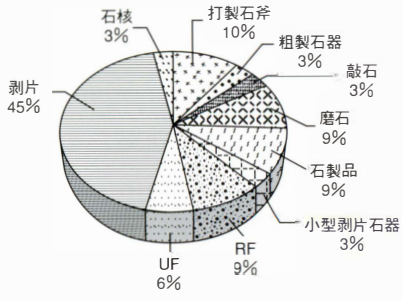


図36　石器器種別の割合図

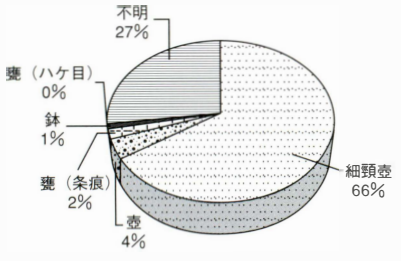


図37　竪穴住居跡1出土の弥生土器組成図

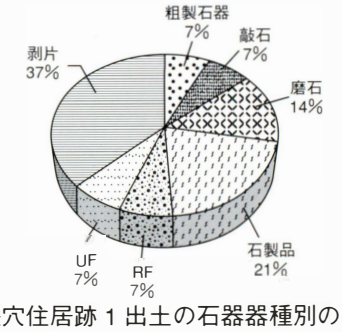


図38　竪穴住居跡1出土の石器器種別の割合図

3　遺構について

今回の調査では、竪穴住居跡3軒・土坑349基を検出した。土坑の一部は直線上に並び、しかも埋土は柱痕状に堆積するものもみられた。これらの土坑を検討し、掘立柱建物跡8棟、柵5列を確認した。この結果、遺構の内訳は、竪穴住居跡3軒・掘立柱建物跡8棟・柵5列・土坑243基となる。

所属時期は、遺構間の重複はあるものの、検出面の違う掘立柱建物跡5以外は概ね弥生時代の遺構と思われる。掘立柱建物跡5は、他の掘立柱建物跡の柱穴より一回り大きく深い。所属時期は、遺物が伴出しないため不明である。ただし、この遺構の上面で山茶碗が出土していることや試掘確認調査で山茶碗が一定量出土していることを踏まえると中世の遺構の可能性がある。

図39　弥生土器の出土分布図 1

図40　弥生土器の出土分布図2

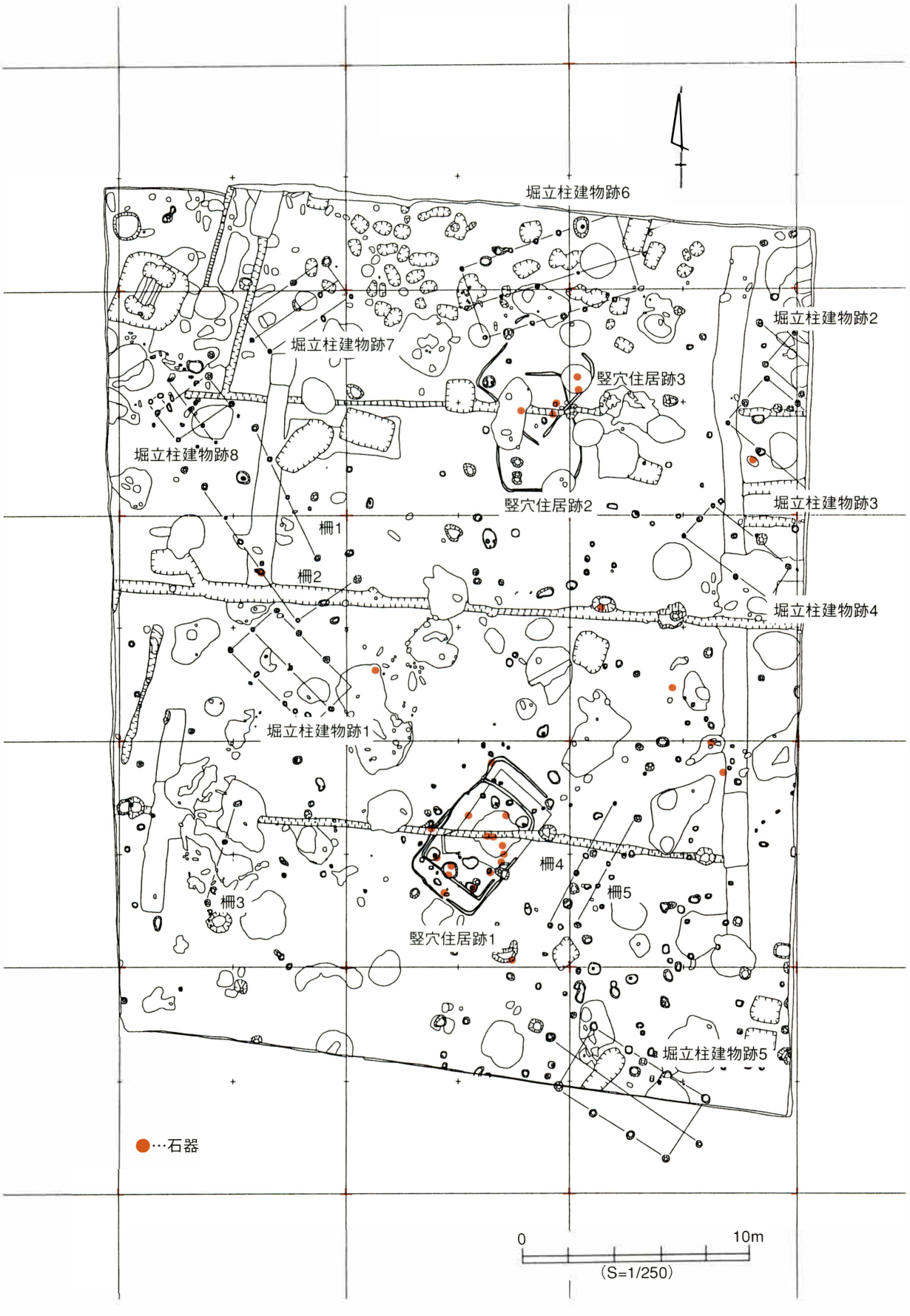


図41　弥生時代石器の出土分布図

弥生時代の遺構としたものは、遺構内のすべての遺物が弥生時代中期のものであることから当該期と考えられる。このうち竪穴住居跡1は良好な遺存状況で確認され、住居跡の規模・形態のほかに住居跡内の炉・柱穴・周壁溝の諸施設も確認できた。出土遺物から弥生時代中期後半、藤田編年の美濃西部Ⅳ－2様式の竪穴住居跡と判断される。この時期の竪穴住居跡は、可児市徳野遺跡、美濃加茂市牧野小山遺跡・野笹遺跡・尾崎遺跡・多治見市根本遺跡で検出されている。平面形が不明の徳野遺跡の竪穴住居跡を除くと、いずれも平面形態が隅丸の長方形である。このことから、竪穴住居跡1はこの時期の特徴を有することが分かる。

4　遺構の時期区分について

弥生時代の遺構の所属時期を細別するために軸の方位を求めた。

竪穴住居跡は、竪穴住居跡1・竪穴住居跡3（以下「軸1」としこれに直交するものも含める）の方位軸と竪穴住居跡2（以下「軸2」としこれに直交するものも含める）の方位軸に分けることができる。前述のとおり、竪穴住居跡1からは藤田編年で美濃西部Ⅳ－2様式にあたる弥生土器が出土していることから、軸1は弥生時代中期後半に所属することがわかる。軸2は、遺物は出土していないため、所属時期は不明である。

掘立柱建物跡は合計8棟あるが、掘立柱建物跡6・掘立柱建物跡7以外は概ね軸1に合う[1]。

掘立柱建物跡2から器種不明ではあるが、弥生土器が出土していることから、軸1は弥生時代の遺構と判断できる。

掘立柱建物跡6・掘立柱建物跡7は、軸1から18°から35°前後する。遺物が出土していないため、所属時期は不明である。

柵跡のうち、柵4・柵5は軸1に合う。遺物は出土していないため、所属時期は不明である。

柵1・柵2・柵3は軸1と比べ、10°から20°前後する。遺物は出土していないため、所属時期は不明である。

遺構の方位軸が軸1を前後するものは、検出した地区に共通点がみられる。検出された遺構はいずれも、段丘端部に近い位置にある。軸角のずれを地形状の制約を受けた結果と理解すれば、掘立柱

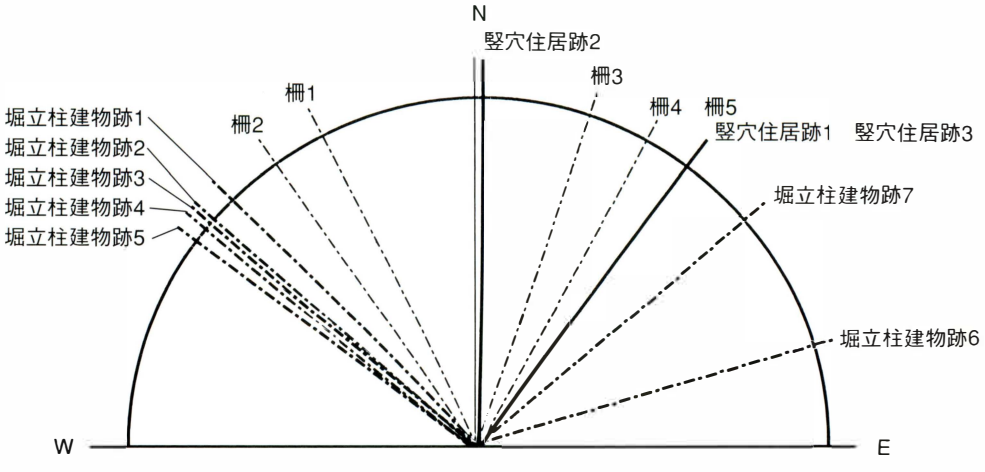


図42　遺構の方位軸の傾向

建物跡 7、柵 1・柵 2 は軸 1、柵 3 を軸 2 と判断できる。

以上のことから、軸 1 の遺構群と軸 2 の遺構群にわけることができる。

軸 1：竪穴住居跡 2 軒・掘立柱建物跡 6 棟・柵 4 列で構成される。所属時期は弥生時代中期後半である。

軸 2：竪穴住居跡 1 軒、掘立柱建物跡 1 棟・柵 1 列で構成される。所属時期は不明である。

5　考察

弥生時代は竪穴住居跡 2 軒・掘立柱建物跡 6 棟・柵 4 列 で構成される。一般に、この時期の集落は段丘の縁辺上に展開し、遺跡の規模は小規模とされる。藤田坂遺跡においても木曽川に面した中位段丘の縁辺に位置しており、当該期の様相を示している。段丘端部にあたる地区（調査区北西から西部分）は地形状の制約を受け、軸角のずれが生じている。集落のへりに近いことが理解できる。

一方、調査区の東側は、軸角のずれは少ない。地形的にも段丘平坦部となることから集落域が広がる可能性がある。

中世は掘立柱建物跡 1 軒のみであるが、調査区南東隅で検出された。調査区東側の畑地からは一定量の山茶碗が表面採集できることから、東側に広がる可能性がある。

[1)] 堀立建物跡5は、方位軸をみると、他の堀立建物跡と合う傾向にある（図42参照）。遺構検出面と遺構上面の遺物から中世の遺構と判断したが、弥生時代まで遡る可能性がある。

参考文献

石黒立人　1996　「高蔵式土器」『日本土器辞典』　雄山閣

小野昭・春成秀爾ほか　1992　『図解　日本の人類遺跡』

恩田知美　2002　「美濃地域における集落の動態　砂行遺跡を中心に」中部弥生研究会レジュメ

蔭山誠一・石黒立人ほか　1998　『一色青海遺跡』　愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第79集　（財）愛知県埋蔵文化財センター

可児町　1980　『可児町史　通史編』

佐野康雄　1998　『牧野小山遺跡　C地点』（財）岐阜県文化財保護センター

佐野康雄他　1993　『尾崎遺跡』（財）岐阜県文化財保護センター

鈴木元　2002　「美濃の弥生墓制」『美濃の考古学　第5号』美濃の考古学刊行会

千藤克彦　2000　『野笹遺跡』（財）岐阜県文化財保護センター

高橋克壽他　1999　『前波の三ツ塚』可児市教育委員会

長瀬治義　1990　「可児地域の前期古墳」『美濃の前期古墳』美濃古墳文化研究会

長瀬治義　1998　『徳野遺跡』可児市教育委員会

成瀬正勝・鈴木隆雄ほか　2000　『砂行遺跡』（財）岐阜県文化財保護センター

波多野寿勝・土川修平　1974　『今渡遺跡』　岐阜県教育委員会

藤田英博・高木宏和　2002　『美濃（飛騨地域）』「弥生土器の様式と編年　東海編」木耳社

美濃加茂市教育委員会　1994　「大地の生い立ち美濃加茂」『美濃加茂ふるさとファイルNo.5』

三輪晃三　2000　『南整理遺跡』（財）岐阜県文化財保護センター

山内伸浩　1994　『根本遺跡Ⅱ』多治見市教育委員会

吉田正人　2000　「藤田坂遺跡範囲確認調査」『可児市内遺跡発掘調査報告書（平成7～11年）』可児市埋文調査報告31　可児市教育委員会

吉田英敏・長瀬治義ほか　1994　『川合遺跡群』可児市教育委員会

図　　版

1　藤田坂遺跡遠景（北から）

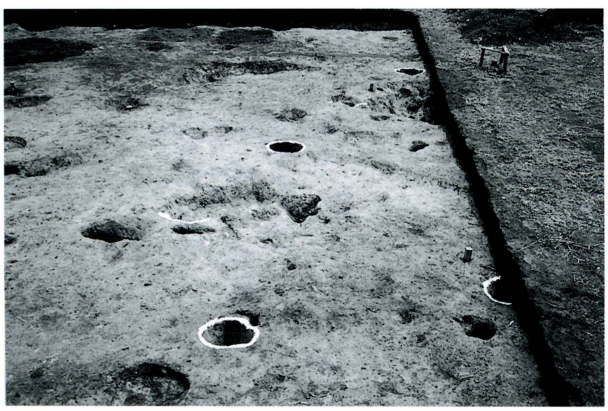
2　藤田坂遺跡全景（西から）

図版 2

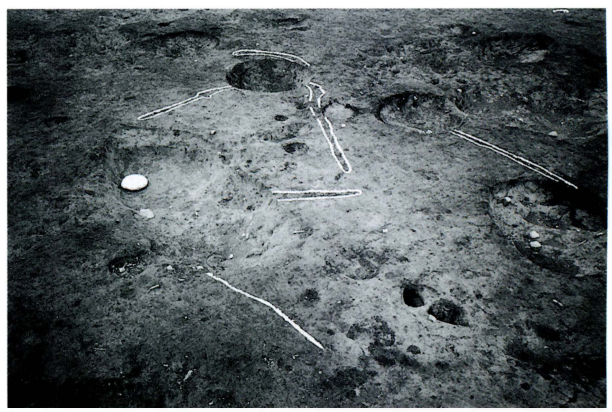
1　竪穴住居跡 1

2　竪穴住居跡 1 内遺物出土状況

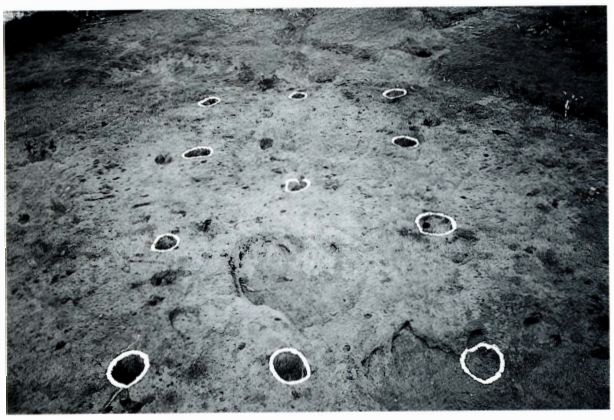
3　竪穴住居跡 1 内炉



4　堀立柱建物跡 5



5　竪穴住居跡 2・3



1　堀立柱建物跡 1

2　堀立柱建物跡 2

3　堀立柱建物跡 3

4　堀立柱建物跡 4

1～5

5　弥生土器①細頸壺（1～5）

6　弥生土器②細頸壺（1～5）口縁部拡大

図版 4

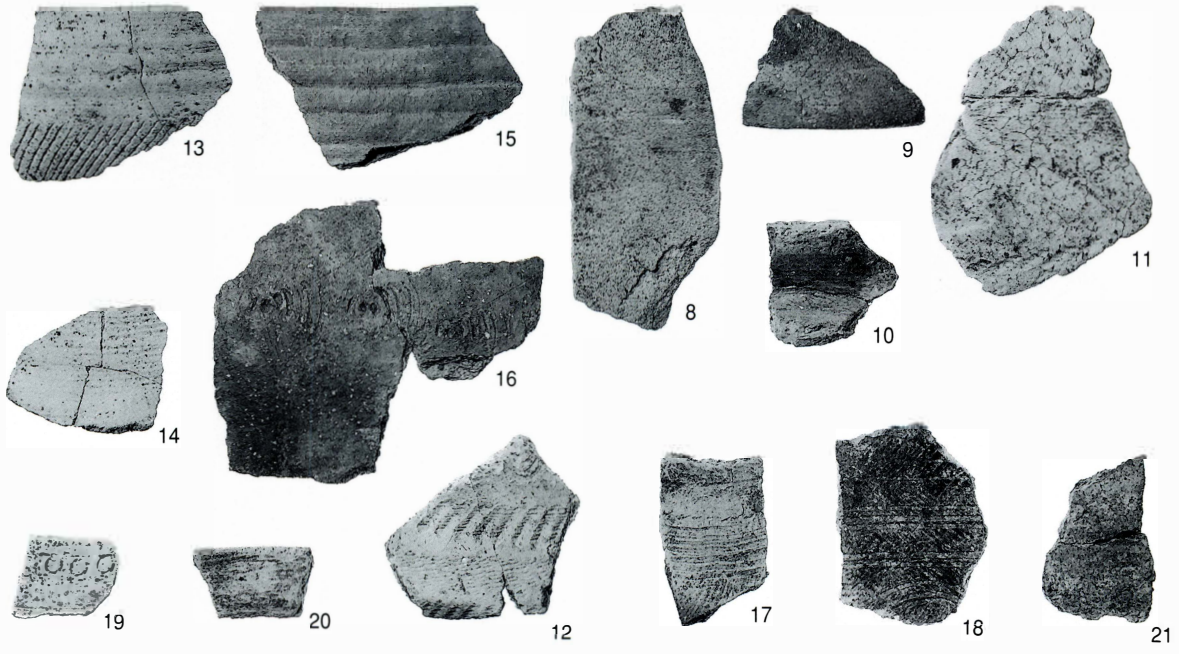
6

1　弥生土器③細頸壺（6）

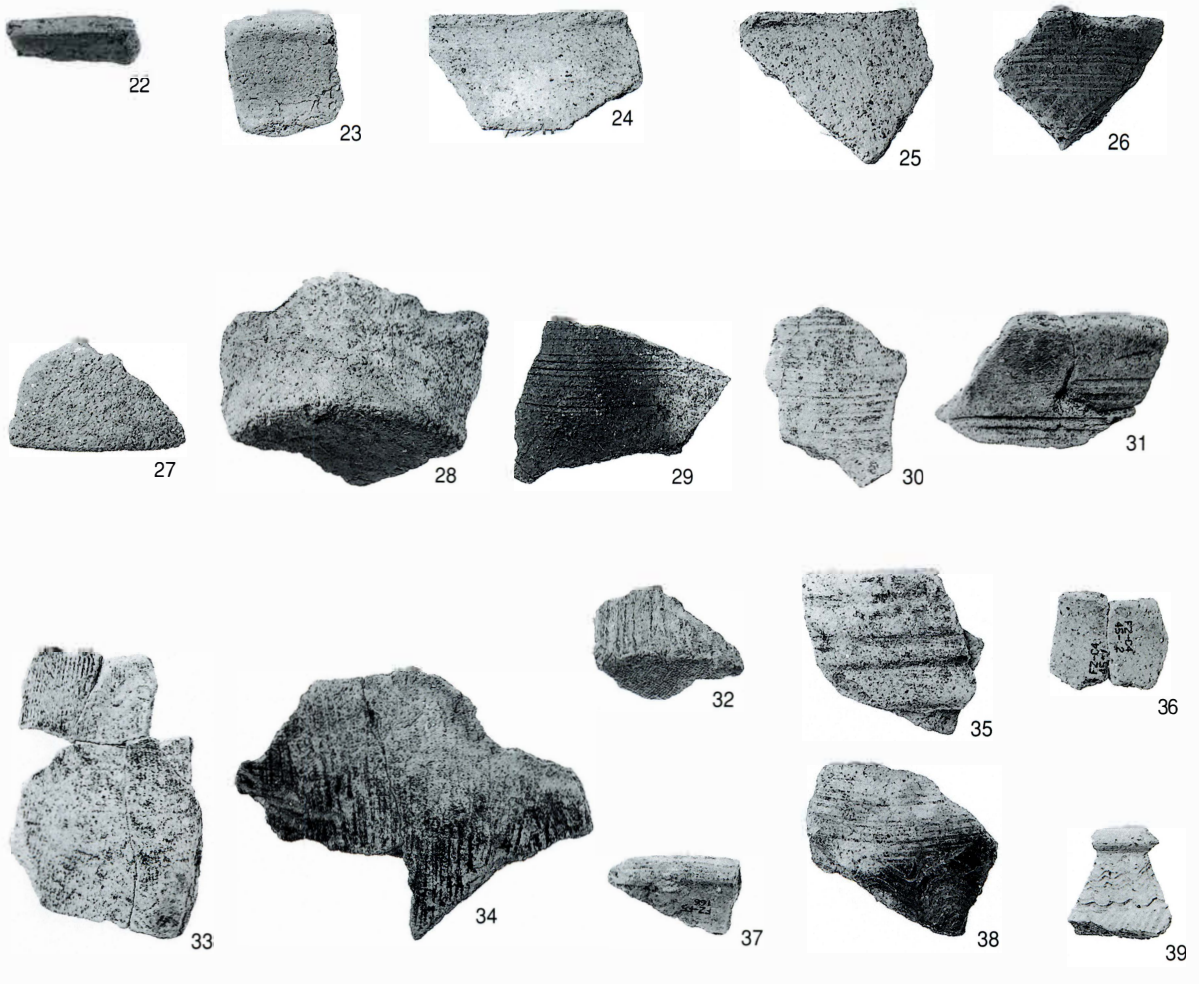
7

7

2　弥生土器④甕

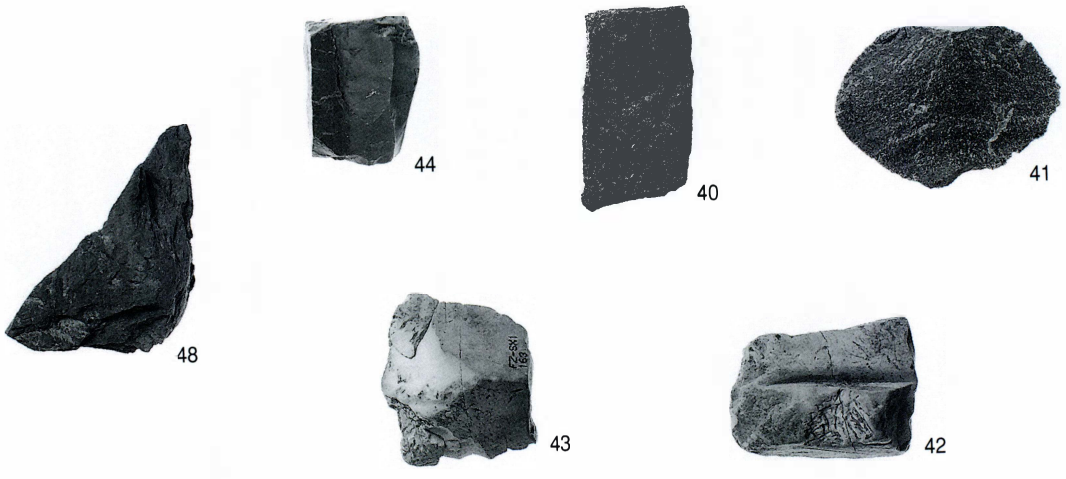


1　弥生土器⑤

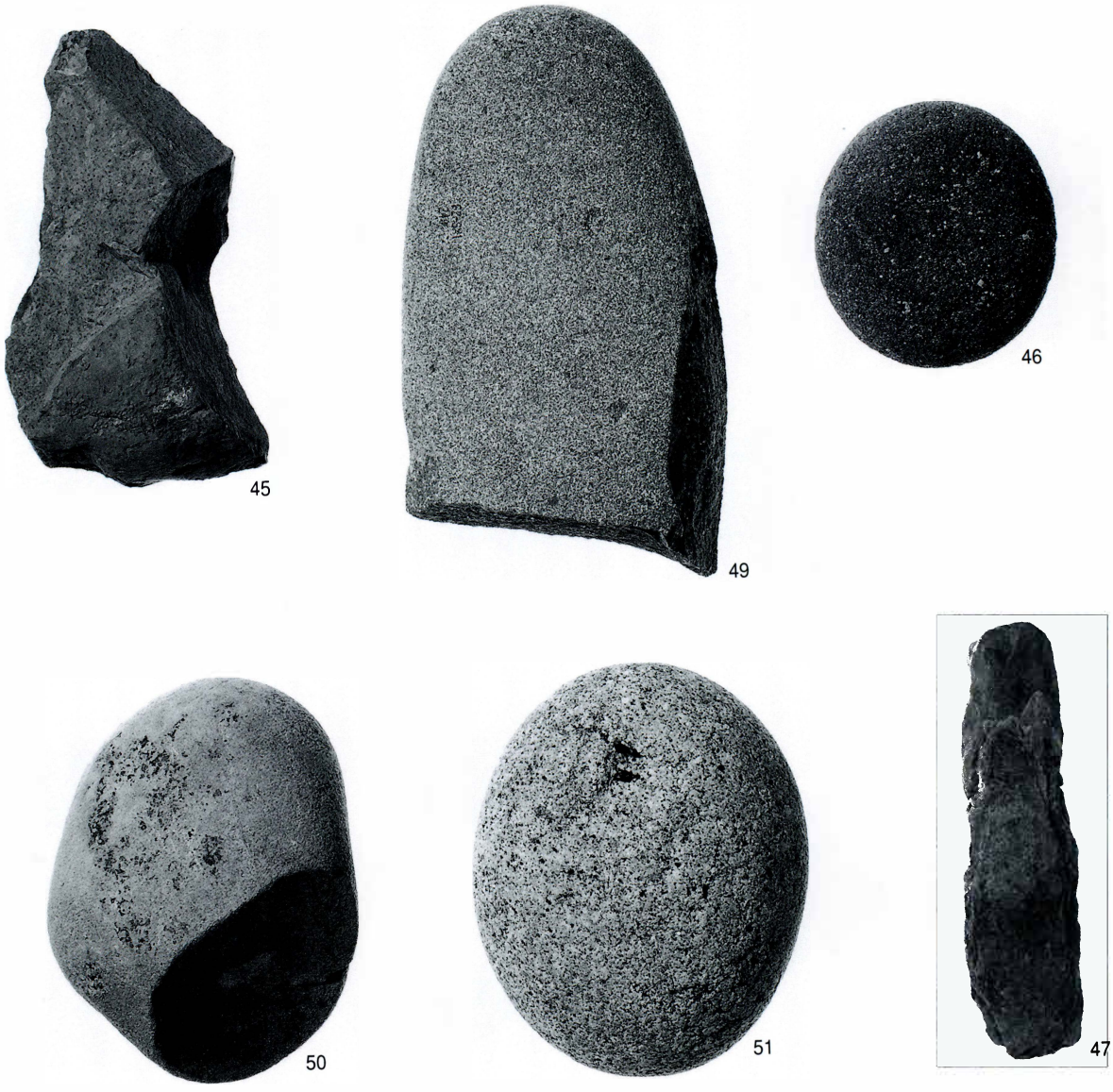


2　弥生土器⑥

図版 6



1　石器①



2　石器②

報 告 書 抄 録

ふりがな	ふじたさかいせき
書名	藤田坂遺跡
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター　調査報告書
シリーズ番号	第80集
編著者名	三島誠
編集機関	財団法人　岐阜県文化財保護センター
所在地	〒502-0003　岐阜市三田洞東1-26-1　TEL 058（237）8550
発行年月日	西暦2003年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在名	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ふじたさかいせき 藤田坂遺跡	ぎふけんかにし 岐阜県可児市 しもえどあざきたりん 下恵土字北林 せん 泉	21214	07495	35° 25′ 36″	137° 02′ 44″	20010525 ～ 20010831	1,100m^2	一般国道248号可児バイパス道路改良に伴う

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
藤田坂遺跡	集落跡	弥生	竪穴住居跡　3 掘立柱建物跡　8 柵　5 土坑　約300	弥生土器 石器 石製品	弥生時代中期後半の竪穴住居跡と掘立柱建物跡を確認した。出土遺物に台付き細頸壺あり。

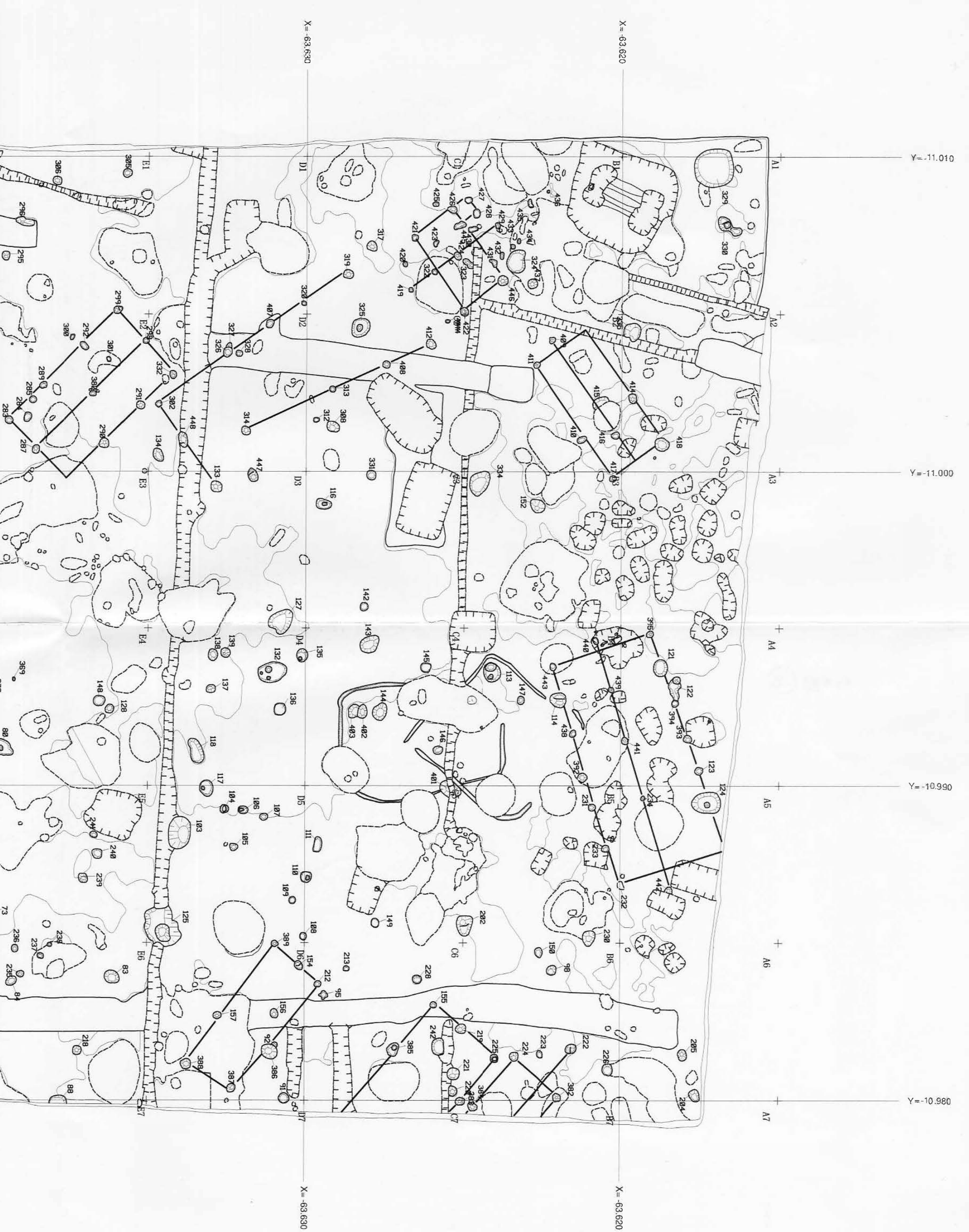
岐阜県文化財保護センター調査報告書　第80集

藤　田　坂　遺　跡

2003年３月20日

編集・発行　財団法人 岐阜県文化財保護センター
岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1

印　　刷　株式会社コームラ


X=-63.630
X=-63.620
Y=-11.010
Y=-11.000
Y=-10.990
Y=-10.980
A1
A2
A3
A4
A5
A6
A7
B1
B2
B3
B4
B5
B6
B7
C1
C2
C3
C4
C5
C6
C7
D1
D2
D3
D4
D5
D6
D7
E1
E2
E3
E4
E5
E6
E7

付図　藤田坂遺跡遺構配置図